



高松市病院事業経営健全化計画

【平成27年度～平成29年度】



市民病院



塩江分院



香川診療所

平成28年 月 改定版

高松市病院局



はじめに

市立病院では、自治体病院として、市民に「高松市に住んで良かった」、また、「市立病院があるから、安心して暮らせる」と言ってもらえるような「地域づくり」に貢献するため、全ての病院局職員の共通の価値観であり、行動指針となる「生きる力を応援します」という基本理念を掲げています。

これまで、本市の病院事業では、平成19年度の国の公立病院改革ガイドラインに沿って、計画期間を21年度から23年度とする病院事業経営改革計画を策定し、①経営効率化②再編・ネットワーク化③経営形態の見直しに取り組みました。また、その成果を踏まえ、更に改革を加速するため、計画期間を24年度から26年度とする病院事業経営健全化計画を策定し、医療機能の強化と経営の健全化に努めてまいりました。この過程において、23年度には、経営形態を地方公営企業法の全部適用に移行し、基本理念の実現に取り組んでまいりました。

具体的には、高松市民病院では、「急性期病院としての医療機能の充実」を基本方針に、地域医療支援病院の承認、ICU施設基準の取得や7対1基準看護体制の確立など、塩江分院では、「地域まるごと医療の実践」を基本方針に、在宅療養支援病院の施設基準の取得や多職種による訪問診療・訪問看護など、香川診療所では、「住民参加型医療の提供」を基本方針に、健康教室や出張講座の充実や「私のカルテ」の積極的発行など、それぞれの病院や診療所の医療機能に応じた運営に努めてきました。

こうした取組の結果、病院事業は24年度及び25年度において黒字を達成しました。しかし、26年度は、消費税の引き上げや公営企業会計制度の見直しにより、また、27年度は、内科医不足や周辺医療機関の新築・改築等の影響により患者数が減少し、赤字となりました。また、28年度も、市民病院の患者数に回復の兆しが見えず、大変厳しい経営状況となっています。

現在わが国では、少子高齢化が一段と進展し、27年の65歳以上の高齢者は約3,400万人と、総人口に占める割合は、ほぼ4人に1人の割合となっており、これに伴い、国民医療費は急増し続け、26年度は約40兆8千億円で、1人当たり32万円を超える状況になっております。また、団塊の世代が後期高齢者となる37年(2025年)には、75歳以上の高齢者の、総人口に占める割合は18%となる超高齢社会が待ち受けており、医療費のより一層の増加が見込まれます。

こうしたことから、国は、新たな社会保障制度を構築するため、26年6月に医療・介護総合確保推進法を成立させ、社会保障制度改革国民会議で示された「医療から介護へ」、「病院から地域」への方針の下、病床機能報告に基づく地域医療構想の策定や地域包括ケアシステムの構築など、医療提供体制の抜本的な改革を図っており、「新公立病院改革ガイドライン」において、地域医療構想を踏まえた「果たすべき役割の明確化」を公立病院に求めました。

このような病院事業の極めて厳しい経営状況や、「新公立病院改革ガイドライン」の要請、加えて、消費税の更なる引き上げや新病院整備の資金需要などに的確に対応するため、27年度から3年間の現計画を改定し、市民が住み慣れた場所で安心して暮らせるよう、目標を明確にする中で、職員一同がファインチームワークの下、一丸となって病院運営に取り組んでまいります。

平成29年3月

高松市病院事業管理者 塩谷 泰一



目 次

I 計画の基本的な考え方	
1 策定趣旨	1
2 計画期間	1
II 市立病院の現状と課題	
1 市立病院の概要	2
2 これまでの病院事業計画	3
3 病院事業を取り巻く環境	3
(1) 医療制度改革	3
(2) 高松保健医療圏の人口等	4
4 前経営健全化計画の取組状況	5
(1) 主な指標の達成状況	5
(2) 具体的な取組一覧	7
(3) 収益的収支の推移	8
5 今後の課題	9
III 市立病院の基本理念と基本方針及び方向性と役割	
1 市立病院の基本理念と基本方針	10
2 市立病院の方向性と役割	11
(1) 高松市民病院	11
(2) 塩江分院	11
(3) 香川診療所	11
3 3つの視点による取組の体系化	12
4 本計画における重点取組項目	12
(1) 高松市民病院	12
(2) 塩江分院	13
(3) 香川診療所	13
5 一般会計負担金の考え方	14



IV 経営の効率化(病院事業の具体的取組)

1 目標指標	15
(1) 高松市民病院	15
(2) 塩江分院	16
(3) 香川診療所	17
2 実施施策	18
【高松市民病院】	18
【塩江分院】	49
【香川診療所】	66

V 経営形態

VI 再編・ネットワーク化

1 新病院	77
2 附属医療施設	78

VII 地域医療構想を踏まえた役割の明確化

1 地域医療構想	78
2 地域医療構想を踏まえた本市病院事業における役割	79

VIII 収支計画

1 収支計画の考え方	82
2 病院事業全体	83
3 高松市民病院	84
4 塩江分院	85
5 香川診療所	86

IX 経営計画の推進

1 点検・評価	87
2 公表	87

■資料編



I 計画の基本的な考え方

1 策定趣旨

病院事業では、平成21年度には「経営改革計画」を、24年度には「経営健全化計画」を策定し、それぞれ定めた目標等を達成するために、医療機能の強化と経営の健全化に努めた結果、24年度及び25年度は、病院事業全体の純利益の黒字を達成することができました。一方、26年度は、消費税率の引き上げや公営企業会計制度見直しにより、また、27年度は、内科医不足や周辺医療機関の新築・改築等の影響により患者数が減少し、赤字となりました。また、28年度も、市民病院の患者数に回復の兆しが見えないため、大変厳しい経営状況となっております。

しかしながら、市立病院を取り巻く環境は、消費税率の引上げに伴う負担増や今後本格化する新病院整備事業に、多額の資金需要が見込まれるなど、厳しさを増すほか、国が医療・介護の連携強化や在宅医療の充実等を推進するなど、大きく変化しています。

このような中、将来にわたって持続可能な病院経営を行い、市民を支え、市民からは我が町の病院として支えられる、真の意味での市民のための病院であり続けるために、職員一同がファインチームワークの下、一丸となって取り組むべき計画・目標が必要なことから、その指針として策定するものです。

なお、本計画は27年3月に、従前の「国の公立病院改革ガイドライン」の項目である「経営の効率化」、「再編・ネットワーク化」、「経営形態の見直し」に沿って策定していましたが、同年3月に示された総務省の「新公立病院改革ガイドライン」や、28年10月に策定された「香川県地域医療構想」のほか、これまでの病院運営実績を踏まえ、改定を行うものです。

2 計画期間

国・県の動向や周辺の医療機関の状況変化に適確に対応しなければならないこと、また、新病院が平成30年度前半の開院を目指していることから、本計画は、27年度から29年度までの3か年を計画期間とします。



II 市立病院の現状と課題

1 市立病院の概要

市立病院は、現在、平成17年度の近隣町との合併により、旧高松市が設置した急性期機能を有する「高松市民病院」に加え、旧塩江町が設置した療養型の「塩江分院」、さらには22年10月に入院機能を廃止しましたが、旧香川町が設置した「香川診療所」を運営しており、「市立病院は3つで1つ」をスローガンに地域特性に応じた医療を提供しています。

また、平成23年4月から、経営形態を地方公営企業法の全部適用に移行し、病院事業管理者の下、機動的かつ自立的な病院経営を行っています。

高松市民病院

基本方針	1. 『リーディングホスピタル』として、高松市医療全体の最適化を目指します。 2. 『理想的な医療』を、ファインチームワークで提供します。 3. 『まごごろのある医療人』を、全力で育成します。
病床数	417床 (一般病床341床、精神病床70床、感染症病床6床)
救急医療体制	二次救急(病院群輪番制当番病院)
診療科	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、臨床検査科、麻酔科
その他の主な機能	地域医療支援病院、へき地医療拠点病院、難病医療協力病院、広域救護病院、第二種感染症指定医療機関、臨床研修病院

高松市民病院塩江分院

基本方針	1. 市民とともに、『地域まるごと医療』を実践します。 2. おもいやりの心で、『正しく良質な医療ケア』を提供します。 3. ファインチームワークで、『感動のある病院』を実現します。
病床数	87床 (医療療養67床、介護療養20床)
診療科	内科、外科、脳神経外科、整形外科、皮膚科、リハビリテーション科、歯科
その他の主な機能	在宅療養支援病院、へき地医療拠点病院、広域救護病院、訪問看護ステーション

高松市民病院附属香川診療所

基本方針	1. 『住民参加型の医療』を提供します。 2. 『心で診て、言葉で癒す医療』に努めます。 3. 『笑顔で暮らせるまちづくり』に貢献します。
診療科	内科、外科、整形外科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科

※内科・外科は総合診療科として院内標榜しています。



2 これまでの病院事業計画

経営改革計画	H21 ～ H23	「公立病院改革ガイドライン」に則り策定	
		①経営効率化	事務局主導で策定し、実施施策が抽象的
		②再編・ネットワーク化	高松市民病院と香川病院（当時）を移転統合した高松市新病院を整備し、塩江病院（当時）をその附属医療施設とする新病院整備事業に着手。
		③経営形態の見直し	23年度に地方公営企業法を全部適用し、病院事業管理者を設置
経営健全化計画	H24 ～ H26	真の意味での市民のための病院を目指し策定	
		①基本理念 「生きる力を応援します」	全ての職員の共通の価値観であり、行動指針となる理念を策定
		②基本方針	各病院の立地・設備・規模等を考慮して、果たすべき医療機能を明示
		③医療の質・透明性・効率性	「経営の安定なくして、良質な医療なし」の考えに則り、3つの視点で実施施策を具体的に体系化

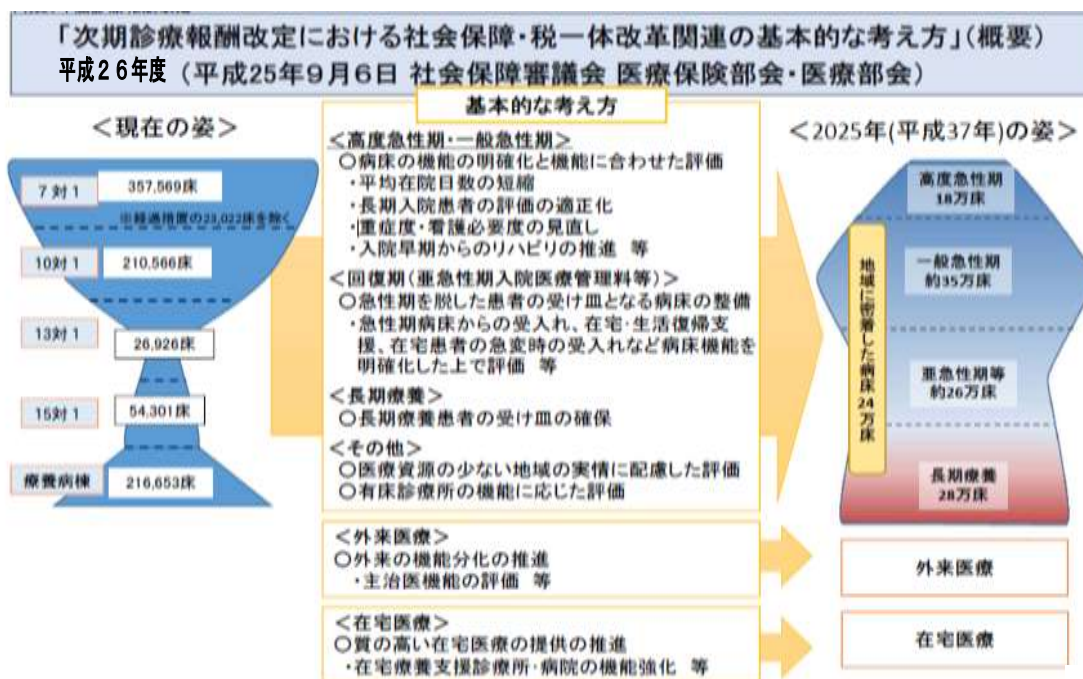
3 病院事業を取り巻く環境

(1) 医療制度改革

国は、超高齢社会の到来という2025年問題を踏まえ、受益と負担の均衡がとれた持続可能な社会保障制度の確立を図るため、「病院から地域へ」・「医療から介護へ」のスローガンの下、「効率的で質の高い医療提供体制」と「地域包括ケアシステム」の構築に向けて、大きく舵を切りました。

平成26年度には、「地域医療・介護総合確保推進法」が成立し、地域における効率的かつ効果的な医療提供体制の確保を目的として、医療機能（高度急性期、急性期、回復期、慢性期）に係る情報の都道府県知事への報告制度（病床機能報告制度）が導入され、28年度には、都道府県が、その報告等を基に「地域医療構想」を策定することとされており、各医療機関には、自主的な機能分化・連携の推進が求められています。

また、地域包括ケアシステム構築において、在宅医療の充実に向けた診療報酬改定が行われました。



平成26年度診療報酬改定説明会(平成26年3月5日開催)資料(厚生労働省)



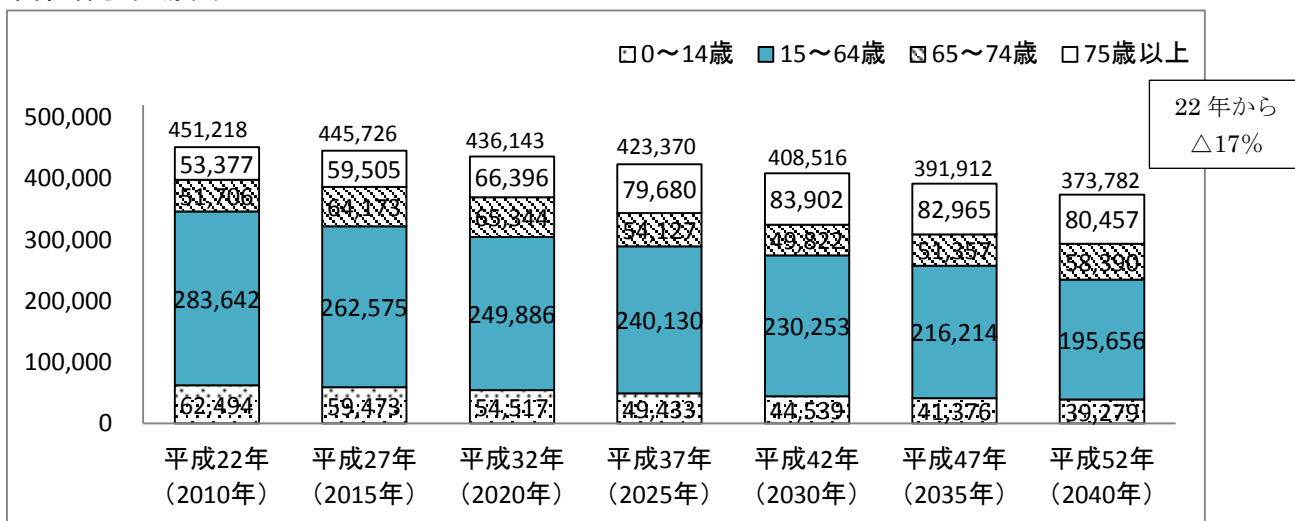
(2) 高松保健医療圏の人口等

香川県の保健医療圏は5つあり、市立病院が属する高松保健医療圏は県の中央部に位置し、高松市、三木町、直島町で構成されています。

高松保健医療圏においても少子高齢化は急速に進展しており、人口は減少していきませんが、高齢化率は全国平均よりも少し高く推移すると見込まれ、受療率の高い高齢者の人口は増え続けるため、今後10年間は、患者数が増加していくと考えられます。

一方、厚生労働省の平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査によると、高松市の人口10万人当たりの医療施設従事医師数は265人であり、全国平均の234人を上回っているものの、地域的な偏在及び診療科による偏在等の問題もあり、高松市立病院の各病院・診療所において必要な医師を確保することは依然として困難な状況にあります。

<高松保健医療圏>



	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	平成32年 (2020年)	平成37年 (2025年)	平成42年 (2030年)	平成47年 (2035年)	平成52年 (2040年)
0～14歳	62,494	59,473	54,517	49,433	44,539	41,376	39,279
15～64歳	283,642	262,575	249,886	240,130	230,253	216,214	195,656
65～74歳	51,706	64,173	65,344	54,127	49,822	51,357	58,390
75歳以上	53,377	59,505	66,396	79,680	83,902	82,965	80,457
総数	451,218	445,726	436,143	423,370	408,516	391,912	373,782

(香川県地域医療構想より)



4 前経営健全化計画の取組状況

前経営健全化計画では、基本理念である「生きる力を応援します」を具現するため、「医療の質・透明性・効率性」ごとに定めた実施施策の目標達成に向け、様々な取組を実施しました。

また、その取組状況については、市長・副市長を始めとする市長部局と病院局の幹部職員で構成する「高松市立病院の医療の確保と健全化をすすめる会」において報告し、意見交換を行うとともに、外部の有識者で構成する「高松市立病院を良くする会」において、総合的な点検・評価を毎年実施するとともに、「良くする会」からの意見・提言も踏まえて、取組方法の見直しや効率化を行うなど、PDCAサイクルによる進行管理に努めてきました。

その結果、病院事業全体の収益的収支は、平成24年度に、高松市民病院で13年ぶりとなる黒字を達成し、続く25年度には、高松市民病院、塩江分院及び香川診療所の純利益はそろって黒字となりましたが、26年度決算は、診療報酬の実質マイナス改定や、全国的な患者数の減少傾向に加え、公営企業会計制度の見直し等の影響により、収支が大幅に悪化する極めて厳しい状況となり、特に市民病院では、ほとんどの取組項目において目標を達成することができず、前年度の黒字から赤字となりました。

なお、27年度においても、市民病院は目指すべき医療機能の指標となる平均在院日数や診療単価は向上したものの、十分な医師数確保が困難であったこと等が影響し、引き続き赤字決算となるなど、依然として厳しい経営状況となっています。

(1) 主な指標の達成状況

○ 高松市民病院

	項目	実績			目標	目標 達成状況	(参考) H27年度
		H24年度	H25年度	H26年度			
成果 指標	平均在院日数(日)	13.9	13.2	13.6	13.0以下	未達成	13.4
	病床利用率(%)(精神病床、感染症病床含む 387床)	58.0	55.2	49.4	64.1	未達成	40.9
	病床利用率(%)(一般病床のみ 311床)	69.2	64.7	59.0	77.2	未達成	48.6
	手術件数(件)	1,955	2,147	1,958	2,000	未達成	2,137
	紹介率(%)	36.4	45.4	57.5	50以上	達成	59.0
	逆紹介率(%)	41.9	72.5	82.8	70以上	達成	90.5
	患者満足度・入院(点)	3.7	3.8	3.8	4.0	未達成	4.1
	患者満足度・外来(点)	3.5	3.9	3.9	4.0	未達成	3.9
経営 指標	経常損益(百万円)	63	21	△ 273	71	未達成	△ 608
	経常収支比率(%)	101.0	100.3	95.6	101.0	未達成	89.8
	医業収支比率(%)	90.2	88.8	82.0	90.3	未達成	76.1
	職員給与費対医業収益比率(%)	65.6	64.2	72.0	67.0	未達成	78.9
	材料費対医業収益比率(%)	19.4	19.9	19.3	18.8	未達成	19.3
	経費対医業収益比率(%)	20.1	22.0	22.7	19.2	未達成	24.5
	減価償却対医業収益比率(%)	5.3	5.9	7.1	5.2	未達成	7.7
その他 指標	入院患者数(人)	81,946	77,910	69,801	90,520	未達成	57,918
	外来患者数(人)	112,055	95,546	88,695	146,156	未達成	76,532

※H26年度の経営指標は、計画策定時との目標と整合性を図るため、旧会計制度及び消費税率5%で試算しています。



○ 塩江分院

	項目	実績			目標	目標 達成状況	(参考) H27年度
		H24年度	H25年度	H26年度			
成果 指標	病床利用率(%)	74.1	81.7	72.8	81.0	未達成	69.3
	訪問看護事業利用件数(件)	2,830	2,702	2,690	2,700	未達成	2,729
	病棟満足度(点)	3.6	-	3.7	4.0	未達成	3.8
	外来満足度(点)	3.8	-	3.4	4.0	未達成	3.5
経営 指標	経常損益(百万円)	△ 13	49	37	12	達成	24
	経常収支比率(%)	98.5	105.8	104.4	101.4	達成	103.0
	医業収支比率(%)	73.5	81.3	80.0	77.5	達成	78.0
	職員給与費対医業収益比率(%)	84.8	72.4	69.9	77.8	達成	71.8
	材料費対医業収益比率(%)	24.4	23.5	24.4	23.5	未達成	23.5
	経費対医業収益比率(%)	22.9	23.1	27.0	23.6	未達成	29.2
	減価償却対医業収益比率(%)	3.5	3.6	3.4	3.6	達成	3.4
その他 指標	入院患者数(人)	23,517	25,944	23,130	25,915	未達成	22,074
	外来患者数(人)	26,956	26,553	26,542	31,164	未達成	25,867

※H26年度の経営指標は、計画策定時との目標と整合性を図るため、旧会計制度及び消費税率5%で試算しています。

○ 香川診療所

	項目	実績			目標	目標 達成状況	(参考) H27年度
		H24年度	H25年度	H26年度			
成果 指標	外来満足度(点)	4.1	-	4.2	4.0	達成	4.2
経営 指標	経常損益(百万円)	20	19	17	△ 24	達成	27
	経常収支比率(%)	106.2	106.1	105.7	94.0	達成	109.0
	医業収支比率(%)	75.2	75.1	77.5	59.4	達成	77.5
	職員給与費対医業収益比率(%)	53.4	53.8	50.5	80.6	達成	50.5
	材料費対医業収益比率(%)	12.5	12.4	13.5	13.2	未達成	12.2
	経費対医業収益比率(%)	47.3	49.2	47.9	33.1	未達成	48.6
	減価償却対医業収益比率(%)	19.4	17.4	16.7	16.8	達成	17.3
その他 指標	外来患者数(人)	34,737	33,474	33,210	35,160	未達成	33,176

※H26年度の経営指標は、計画策定時との目標と整合性を図るため、旧会計制度及び消費税率5%で試算しています。



(2) 具体的な取組一覧

		医療の質				透明性	効率性
		医療技術	人間関係	アメニティ	地域社会		
3 病院共通	●日本病院会QIプロジェクトに参加	●病院局基本理念及び各病院・診療所の基本方針の策定	●患者満足度調査の実施	●ホームページの更新・広報誌の充実	●「医療の確保と健全化をすすめる会」設置	●病院事業に地方公営企業法を全部適用	
	●高松市立病院学会開催(毎年1回)	●「私のカルテ」の発行	●患者相談窓口の設置	●出前講座(随時)・市民公開講座の開催(年1回)	●「市立病院を良くする会」設置	●「経営健全化計画(24~26)」の策定	
	●医師の診療行為に係る手当の見直し	●患者権利章典の策定	●患者意見箱の設置	●看護師就職ガイダンス	●「市立病院を良くする会」評価結果報告書の公表	●市立病院間の診療面での連携・協調	
	●チーム医療の充実	●H25病院職員OB会の結成	●全職員による病院周辺清掃	●看護学校訪問	●医療事故等の公表基準の制定	●物品購入審査委員会の独自設置	
	●認定看護師養成方針の策定	●職員・チーム表彰制度の創設	●病院幹部による院内巡視	●各種研修会への講師派遣	●病院局医療安全評価委員会の設置	●医療機器等の早期活用	
	●放射線技術士による超音波検査	●職員採用試験随時募集	●感染症医療廃棄物の分別徹底	●病院広報誌の発行	●医療事故等の公表	●「経営健全化計画(24~26)」のPDCAサイクルによる進行管理	
	●年度実績報告会・目標発表会	●ヒヤリハット報告会			●第51回全国自治体病院学会(高松市)開催協力	●医療機器等の早期活用	
	●QC活動	●安全管理院内ラウンド			●H24ロゴマークの作成	●H25白衣等医療服を刷新	
	●救急処置講習会				●ロゴマーク缶バッジ作成	●医療職給料表の導入	
	●形成外科の新設	●チーム医療体制の充実	●7:1基準看護体制	●患者苦情への回答揭示	●地域医療連携だよりの隔月発行	●経営企画課を設置	
高松市民病院	●外来化学療法室の設置	●「私のカルテ」の推進(H24入院患者へ発行)	●接遇研修会の開催	●研修生・実習生の受け入れ	●HOT新聞発行	●塩江分院検査業務を外注から市民病院検査科へ	
	●医療安全管理室の設置	●「私のカルテ」の推進(H25外来患者へ発行)	●業務実績・目標報告会の開催	●地域医療機関への訪問	●「私のカルテ」の推進	●医師事務作業補助者配置(75:1)	
	●院内感染対策室の設置	●中央点滴室の設置	●病院機能評価認定	●地域連携カンファレンスの開催	●HPの充実	●電子カルテシステム稼働	
	●臨床教育室の設置	●検査科職員による病棟採決	●警察OBの配置	●災害時医療訓練(トリアージ訓練)		●集中採血室の設置	
	●救急医療の強化(バックアップ体制の見直し等)	●病院幹部によるラウンド	●救急待合室の整備・カーテン新調	●消防局救急隊との懇談会		●守衛業務に警察OBを配置	
	●認定看護師等スペシャリストの育成	●栄養士・調理師のベッドサイド訪問		●介護関連施設職員の勉強会		●DPC委員会設置	
	●ヒヤリハット報告会の開催(毎月1回)	●「カイゼンボックス」(職員提案箱)の設置		●「私のカルテ」の推進		●給食調理業務を民間業者へ委託	
	●医療安全管理研修会の開催(毎月1回)	●入院センターの設置		●地域医療支援病院の施設基準の取得		●DPCコーディング支援ソフト導入	
	●感染管理研修会の開催(毎月2回)	●副看護局長複数数制による効率的な病棟管理				●弁護士事務所等への徴収業務の委託	
	●市民病院災害対策マニュアルの策定	●毎朝の救急カンファレンスの開催				●クレジットカードの導入	
●医療安全マニュアルの改訂	●がん患者交流会の開催				●医師事務作業補助者配置(40:1)		
●感染マニュアルの改訂	●検査技士による病棟採血				●診療情報管理士採用によるDPC分析		
●情報管理室の設置	●ベッドサイドでの服薬指導						
●臨床実習生受入プログラムへの参加							
塩江分院	●訪問診療・訪問歯科診療・訪問看護等の推進	●チーム医療の実践	●治療効果と満足度の高い病院食の提供	●介護保健施設等との連携推進	●分院広報誌(ほたる通信)発行	●委託業務内容の品質管理	
	●保健活動の推進(検診、住民教育、産業医活動)	●病院幹部によるラウンド	●患者輸送バス運行事業の推進	●経営戦略会議への住民参加	●経営戦略会議への住民参加	●レセプト委員会の開催	
	●寄附講座(地域包括医療学講座)の活用	●「私のカルテ」の推進	●ユニバーサルデザイン化等の推進	●地域イベントへの職員ボランティア参加	●「私のカルテ」の推進	●臨床検査業務の市民病院での実施	
	●介護支援専門員、オリーブナース等資格取得	●退院調整会議の充実	●住民作品の展示	●「私のカルテ」の推進		●市民病院泌尿器科医師や言語療法士の受入れ	
	●医療安全委員会の毎月開催	●塩江分院文化祭の開催		●訪問診療、看護、リハビリ、歯科			
	●医療安全マニュアルの改訂	●地域医療スピリッツin塩江2013の開催		●訪問服薬指導、栄養指導			
	●ヒヤリハット報告会の毎月開催	●栄養士・調理師のベッドサイド訪問		●高齢者食の調理教室の開催			
	●感染予防委員会の毎月開催	●地域医療のつどいin塩江2014の開催		●ボランティアの受け入れ			
	●感染管理マニュアルの改訂			●病院文化祭の開催			
	●学会での研究成果発表			●健康教室の開催			
●院内発表会の開催			●住民アンケートの実施				
●在宅療養支援病院の施設基準の取得							
●皮膚科開設							
●災害時医療マニュアルの作成							
●香川診療所総合診療科の設置	●「私のカルテ」の推進	●意見箱に寄せられた意見等に対する回答の診療所内掲示	●健康教室の開催(毎月)	●経営戦略会議への住民参加	●電子カルテシステムの更新		
●寄附講座(地域包括医療学講座)の活用	●健康相談の実施	●住民の要望を反映した診療所内の改修	●医療技術者による健康教室の実施	●診療所だよりの発行	●看護師の応援体制の構築		
●わんコイン健診の実施(H25~)		●地域の子供たちの絵の展示	●近隣医療機関や市民病院等との連携	●「私のカルテ」の推進	●診療報酬請求事務に医療技術者の参加		
●わんコイン健診の推進(小児生活習慣病予防検診)			●寄附講座の医師による健康教室開催	●「けんしん便り」の発行			
●眼科の光干渉断層計の早期導入			●保健センターと合同の出張講座開催				
●小児科夜間診療の充実			●住民の要望による健康教室及び出張講座開催				
			●地域包括支援センターと合同の勉強会実施				
			●「私のカルテ」の推進				

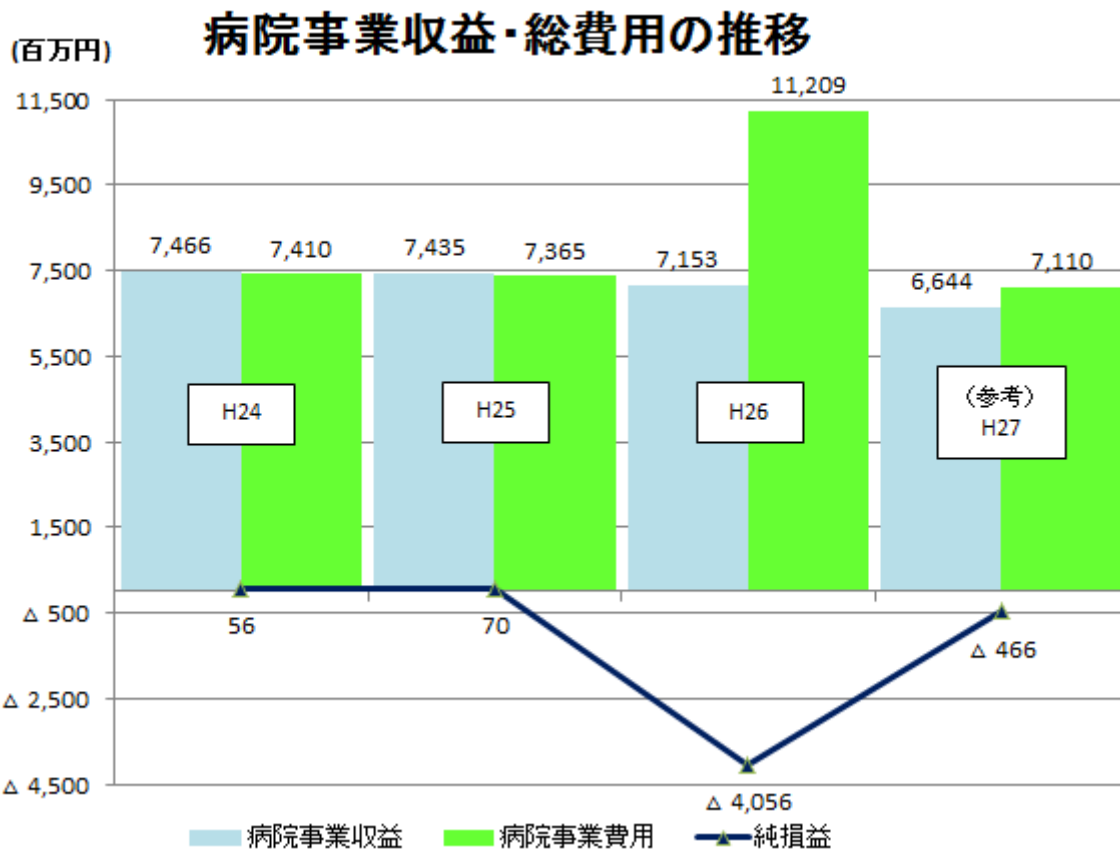
※これらの成果・評価は、資料編 資料3 P8~P19に記載しています。



(3) 収益的収支の推移

(単位:百万円)

区分	実績			目標	目標 達成状況	(参考) H27年度
	H24年度	H25年度	H26年度			
病院事業収益	7,466	7,435	7,153	8,329	未達成	6,644
医業収益	6,287	6,230	5,830	6,961	未達成	5,251
医業外収益	1,152	1,182	1,299	1,345	未達成	1,254
附帯事業収益	23	22	21	23	未達成	20
特別利益	4	1	3	0	達成	119
病院事業費用	7,410	7,365	11,209	8,284	未達成	7,110
医業費用	7,176	7,128	7,142	7,963	達成	6,870
医業外費用	192	191	199	284	達成	184
附帯事業費用	24	26	26	23	未達成	29
特別損失	18	20	3,842	14	未達成	27
純損益	56	70	△ 4,056	45	未達成	△ 466
経常収支	70	89	△ 212	59	未達成	△ 549





5 今後の課題

Ⅱ-3-(1) 医療制度改革(P3参照)に記載した、病床機能分化と連携及び在宅医療の充実は、今後の市立病院の方向性に大きな影響を及ぼすものであり、特に、地域包括ケアシステムを構築するために必要不可欠な医療と介護の連携において、市立病院の果たす役割はますます重要になっております。

このため、市民病院では、地域医療支援病院の承認や、がん相談支援センターの設立など、急性期病院としての医療機能の充実を図る一方、地域包括ケアも見据えた病床機能や人材育成についても、積極的に取り組む必要があります。

また、塩江分院では、現在実施している在宅療養を、24時間・365日体制でサポートする在宅療養支援病院として、多職種による訪問診療・訪問看護を積極的に取り組むなど、地域まるごと医療を一層充実するとともに、香川診療所では、地域包括ケアの高齢者居場所づくり事業に、場所の提供や健康教室、出張講座を通じて協力するなど、住民参加型医療を推進することが必要です。

これに加え、平成30年度前半に開院予定の新病院整備事業を進めており、塩江町の附属医療施設の整備も予定する中、このような医療機能を持続的に果たしていくためには、経営の健全化を進め、現金・預金残高を確保することが喫緊の課題となっていますが、経営状況は依然として厳しさを増しており、28年度においては、運転資金を一般会計からの借入れなどに頼らざるを得ない状況となっております。

今後は、職員一人一人が、病院の置かれている現状を認識し、仕事の本質(何が目的か、何を実現するのか、なぜそれを行うのか)を見極め、仕事を再定義・再構築することにより、本計画に掲げる目標・施策を着実に達成する必要があります。

Ⅲ 市立病院の基本理念と基本方針及び方向性と役割

1 市立病院の基本理念と基本方針

「組織は人なり、組織は理念なり」と言われるように、組織を動かすのは「人」と「理念」です。健全な病院経営を行うためには、全ての職員が心一つにベクトルを合わせることが必要であり、そのためには、全ての職員の共通の価値観であり、行動指針となる「理念」の存在が不可欠です。

こうしたことから、病院局では、平成23年度に、プロジェクトチームを設置し、基本理念の策定に取り組んだ結果、24年度には、「人の持つ生きようとする力を支える」という医療が目指す普遍的な目的をシンプルに表現する『生きる力を応援します』を市立病院の基本理念と決定し、その基本理念を実現するため、高松市民病院、塩江分院、香川診療所においても、それぞれ「基本方針」を策定しました。

本計画においても、基本理念である『生きる力を応援します』を継続するとともに、各病院・診療所のそれぞれの「基本方針」も継続し、それらの実現に向けて全力で取り組みます。

市立病院 基本理念

『生きる力を応援します』

高松市民病院 基本方針

- 1 『リーディングホスピタル』として、高松市医療全体の最適化を目指します。
- 2 『理想的な医療』を、ファインチームワークで提供します。
- 3 『まごころのある医療人』を、全力で育成します。

高松市民病院塩江分院 基本方針

- 1 市民とともに、『地域まるごと医療』を実践します。
- 2 おもいやりの心で、『正しく良質な医療ケア』を提供します。
- 3 ファインチームワークで、『感動のある病院』を実現します。

高松市民病院附属香川診療所 基本方針

- 1 『住民参加型の医療』を提供します。
- 2 『心で診て、言葉で癒す医療』に努めます。
- 3 『笑顔で暮せるまちづくり』に貢献します。



病院局ロゴマーク

中央の丸は人を表し、その周りを優しく包み込むハートが、基本理念である「生きる力を応援します」の実現に向けて取り組んでいる病院局職員の真心を表現しています。



2 市立病院の方向性と役割

(1) 高松市民病院

急性期医療を担う中核病院として、地域医療機関との連携を図りながら、良質な医療を提供することはもとより、公立病院として、救急医療や、がん治療など専門医療、実習生等の受入れによる人材育成など、採算性等の面から民間医療機関では困難な医療サービスの提供に努めます。

あわせて、医療制度改革に対応し、地域包括ケアの後方支援機能を担うほか、予防医療の観点から各種指導・教室、相談事業を引き続き実施するとともに、外来や病棟において、より質の高いサービス提供に努め、圏域のリーディングホスピタルとして、**高松市医療全体の最適化**に努めます。

更に、新病院は、健全かつ安定した病院運営の下、それぞれの医療分野において専門性を高めながら、地域の医療水準の向上が図れる、中核市にふさわしい市立病院を目指して整備します。

(2) 塩江分院

民間医療機関の進出が困難な、山間・へき地の塩江町における唯一の病院として、慢性期医療を中心に、急性期病院の後方病院として、少し長めの療養を要する患者を積極的に受け入れる中で、地域に根ざした良質な医療サービスの提供に努めます。

あわせて、訪問診療、訪問看護におけるメディカルスタッフの訪問同行を実施し、地域住民が住み慣れた場所で暮らしていけるように全力でサポートするとともに、香川大学の地域包括医療学講座(寄附講座)と連携し、引き続き、**地域まるごと医療を実践**します。

さらには、急速な少子高齢化が進む同地域において、保健・医療・福祉が一体化した地域包括ケアシステムの先進的なモデルの構築を目指します。

(3) 香川診療所

平成22年10月に診療所に移行したことに伴い、総合診療科を院内標榜して、引き続き、プライマリケアとして、疾病の初期段階での診療サービスの提供に努めます。

あわせて、地域の保健・医療・福祉の関係機関等と連携して、健康教室や出張講座を積極的に開催するのを始め、患者の診療情報を記載した「私のカルテ」を推進するなど、**住民参加型の医療の提供**にも引き続き取り組みます。

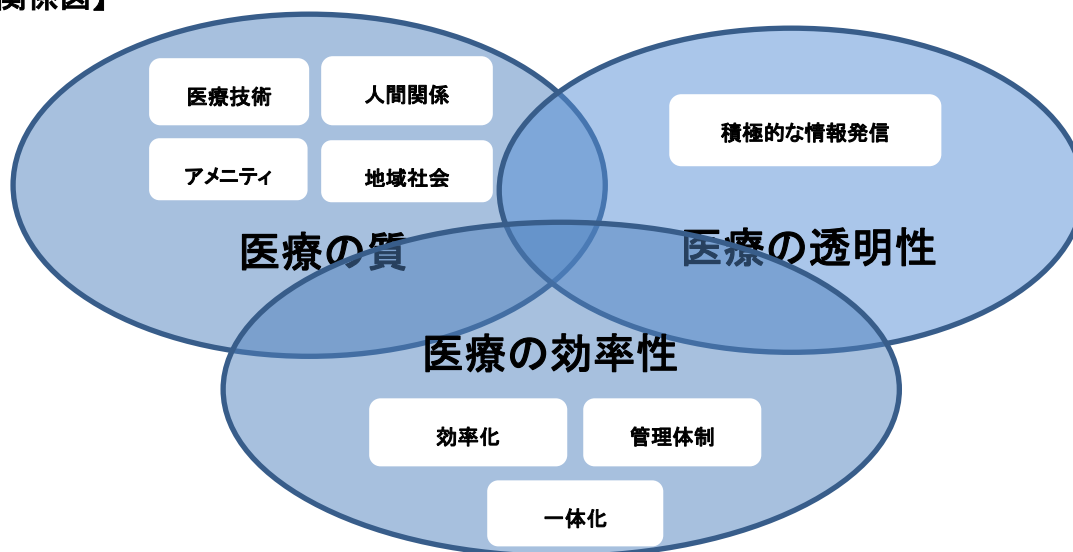
さらには、常勤医師による小児科・眼科診療を通して、市立病院に対し親近感が持てるよう、子どもと両親、祖父母までを含めた幅広い世代との関係を築き、新病院の開院に備えます。

3 3つの視点による取組の体系化

市立病院においては、各病院・診療所の方向性と役割の下に、「医療の質」と「医療の透明性」、そして「医療の効率性」の3つの視点から、取組を体系化しています。

また、「医療の質」では、更に4つ、「医療の効率性」では、3つのカテゴリに分類して、取組を体系化しています。

【関係図】



4 本計画における重点取組項目

それぞれの病院・診療所の役割を踏まえ、高松市民病院では、救急医療や地域包括ケアへの対応など7項目、塩江分院では、地域まるごと医療の推進に向けた取組、香川診療所では、住民参加型の推進に向けた取組と、市立病院全体で9つの重点取組項目を掲げ、その実現に向けて取り組みます。

(1) 高松市民病院

① 救急医療の強化

市民が安心して暮らせるよう、急性期医療を担う中核病院として、救急車搬送患者の受入件数の増加及び受入不可率の減少に取り組み、救急患者を手術、入院へとスムーズに受け入れが可能な救急医療の体制の強化を図ります。

② がん診療機能の強化

高齢者人口の増加に伴い、がん患者数が増える傾向が見受けられることから、がん相談支援センターの設立や緩和ケアチーム活動の推進、がん診療関連の研修会の開催など、治療・支援体制の強化を図ります。



③ 地域包括ケアへの対応

地域住民が、住み慣れた地域で、治療・療養ができるよう、地域包括ケア病棟の開設や在宅復帰率の向上など、地域包括ケアへの対応に努めます。

④ 医師確保機能の強化

常勤医師の確保が困難な状況の中、県外の協力病院との職員交流や、臨床研修医・実習生・見学者の積極的な受入れ、次世代の医療を担う医療人材の育成を行うなど、組織全体で医師確保の強化に努めます。

⑤ 災害医療機能の強化

将来予測される南海トラフを震源とした大地震などの災害に備え、災害拠点病院の指定を目指し、病院としての災害時応急対策はもとより、地域医療、広域医療へ貢献するため、防災対策訓練等の実施やDMAT(災害派遣医療チーム)の整備など、災害医療機能の強化に努めます。

⑥ 地域医療連携の強化

平成26年12月に地域医療支援病院の承認を受けたことを踏まえ、引き続き、地域一体となって地域住民の健康を支えるため、地域の医療機関の医師と地域医療連携セミナー等の開催や保険薬局との意見交換会等の開催など、地域医療連携の強化に努めます。

⑦ 医療の効率性の確保

経営基盤の、より一層の強化のため、がん患者指導管理料等、診療報酬上の施設基準取得や、ジェネリック医薬品の採用拡大、効率的な物品管理体制の構築、人材配置の適正化など、医療の効率性の確保に努めます。

(2) 塩江分院

① 地域まるごと医療の推進

保健・医療・福祉が一体となった地域包括ケアシステムの構築に向けて、診問診療や訪問看護、地域の課題を解決する地域ケア小会議等への参加、臨床研修医受入れ等による地域医療を担う医師の育成など、地域まるごと医療の推進に努めます。

(3) 香川診療所

① 住民参加型医療の推進

地域に密着した医療を提供するとともに、私のカルテの活用、健康教室や出張講座の開催等、病気の予防や早期発見にも取り組むなど、住民参加型医療の推進に努めます。



5 一般会計負担金の考え方

地方公営企業法では、地方公共団体が運営する病院は、経済性を最大限に発揮し、自らの経営に伴う収入をもって経費に充てなければならないとする「独立採算の原則」が適用されていますが、病院事業に要する経費のうち

- ・その性質上、経営に伴う収入をもって充てることが適当でない経費
- ・病院事業の性質上、能率的な経営を行ってもなお、その経費に伴う収入のみをもって充てることが客観的に困難であると認められる経費

については、地方公共団体の一般会計等において負担するものとされています。

病院事業では、国の繰出基準等に基づいた応分の負担を高松市に求める中で、公立病院の役割を踏まえ、救急医療やへき地医療等を実施します。



IV 経営の効率化(病院事業の具体的取組)

1 目標指標

(1) 高松市民病院

ア 医療機能に関する指標

区分	実績		見込み	目標
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
入院患者数(人)	69,801	57,918	53,603	69,715
外来患者数(人)	88,695	76,532	69,124	81,496
全病床利用率(%)	49.4	40.9	37.9	49.4
一般病床利用率(%)	59.0	48.6	44.6	58.2
平均在院日数(日)	13.6	13.4	13.2以下	13.0以下
紹介率(%)	57.5	59.0	50.0以上	50.0以上
逆紹介率(%)	82.8	90.5	70.0以上	70.0以上
手術件数(件)	1,958	2,137	2,345	2,540
患者満足度・入院(点)※	3.8	4.1	4.0以上	4.0以上
患者満足度・外来(点)※	3.9	3.9	4.0以上	4.0以上

※ 5点満点の平均点

イ 経営に関する指標

区分	実績		見込み	目標
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
経常損益(百万円)	△ 273	△ 608	△ 804	34
経常収支比率(%)	95.6	89.8	86.6	100.5
医業収支比率(%)	82.0	76.1	73.6	88.1
資金不足比率(%)	—	—	—	—
職員給与費対医業収益比率(%)※1	72.0 (69.9)	78.9 (78.3)	89.7 (86.2)	74.1 (70.6)
材料費対医業収益比率(%)	19.3	19.3	18.4	17.4
経費対医業収益比率(%)	22.7	24.5	18.1	14.3
減価償却費対医業収益比率(%)	7.1	7.7	8.8	6.3
年度末実質現金残高(百万円)※2	639 (382)	△ 34 (58)	△ 62 (△ 275)	△ 497 (1,169)

※ 各比率の算出方法は、地方公営企業決算状況調査における算出方法に準ずる

※1 職員給与費対医業収益比率の()は、退職給付費を除いた比率

※2 年度末実質現金残高:各年度末における未払金・未収金を当該年度内に処理すると想定した場合の実質的現金残高。()は、貸借対照表の各年度末における現金・預金残高。



(2) 塩江分院

ア 医療機能に関する指標

区分	実績		見込み	目標
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
入院患者数(人)	23,130	22,074	24,700	24,700
外来患者数(人)	26,542	25,867	26,200	25,700
病床利用率(%)	72.8	69.3	77.8	77.8
訪問診療件数(件)	1040	949	700	720
訪問歯科件数(件)	409	105	370	380
訪問看護件数(件)	2,690	2,729	2,800	2,820
訪問リハビリテーション件数(件)	190	312	220	230
患者満足度(点)※	3.9	3.5	4.0以上	4.0以上

※ 5点満点の平均点

イ 経営に関する指標

区分	実績		見込み	目標
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
経常損益(百万円)	37	24	13	12
経常収支比率(%)	104.4	103.0	101.4	101.4
医業収支比率(%)	80.0	78.0	79.9	79.5
資金不足比率(%)	—	—	—	—
職員給与費対医業収益比率(%)※1	69.9 (66.7)	71.8 (71.8)	67.3 (64.8)	69.0 (64.7)
材料費対医業収益比率(%)	24.4	23.5	23.2	23.0
経費対医業収益比率(%)	27.0	29.2	30.9	30.8
減価償却費対医業収益比率(%)	3.4	3.4	3.2	2.5
年度末実質現金残高(百万円)※2	340 (266)	390 (349)	408 (389)	470 (425)

※ 各比率の算出方法は、地方公営企業決算状況調査における算出方法に準ずる

※1 職員給与費対医業収益比率の()は、退職給付費を除いた比率

※2 年度末実質現金残高:各年度末における未払金・未収金を当該年度内に処理すると想定した場合の実質的現金残高。()は、貸借対照表の各年度末における現金・預金残高。



(3) 香川診療所

ア 医療機能に関する指標

区分	実績		見込み	目標
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
外来患者数(人)	33,210	33,176	34,300	34,398
私のカルテ発行累計数(人)	3,097	3,441	3,700	4,000
患者満足度(点)※	4.2	4.2	4.2以上	4.2以上

※ 5点満点の平均点

イ 経営に関する指標

区分	実績		見込み	目標
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
経常損益(百万円)	17	27	28	30
経常収支比率(%)	105.7	109.0	108.9	109.6
医業収支比率(%)	77.5	77.5	76.3	77.3
資金不足比率(%)	—	—	—	—
職員給与費対医業収益比率(%)※1	50.5 (50.5)	50.5 (50.5)	48.9 (47.0)	48.3 (46.5)
材料費対医業収益比率(%)	13.5	12.2	13.3	13.1
経費対医業収益比率(%)	47.9	48.6	52.0	51.4
減価償却費対医業収益比率(%)	16.7	17.3	16.5	15.9
年度末実質現金残高(百万円)※2	112 (132)	172 (144)	217 (220)	264 (266)

※ 各比率の算出方法は、地方公営企業決算状況調査における算出方法に準ずる

※1 職員給与費対医業収益比率の()は、退職給付費を除いた比率

※2 年度末実質現金残高:各年度末における未払金・未収金を当該年度内に処理すると想定した場合の実質的現金残高。()は、貸借対照表の各年度末における現金・預金残高。



2 実施施策

【高松市民病院】

高松市民病院体系図

高松市民病院
塩江分院
香川診療所

具体的施策	取組項目		取組項目における具体的な実施内容 (実施施策)		
	大分類	小分類			
医療の質の確保					
医療技術					
1	高松市医療全体の最適化を目指した役割の強化	(1)	救急医療の強化 ●		
		(2)	がん診療機能の強化 ●		
		(3)	地域包括ケアへの対応 ●		
		2	医師確保機能の強化 ●	(1)	医師確保のための工夫
				(2)	女性医師確保に向けた勤務環境の整備
				(3)	医師研修プログラム等の充実
				(4)	協力病院との提携事業の活用
(5)	医師事務作業補助者の活用				
(6)	実習、見学等の受入の充実(人材育成)				
(7)	その他				
3	メディカルスタッフ確保機能の強化	(1)	計画的な採用及び離職防止		
		(2)	協力病院との提携事業の活用(再掲)		
		(3)	実習、見学等の受入の充実(人材育成)		
4	スペシャリストの育成	(1)	資格取得		
5	医療安全の強化	(1)	医療安全意識の共有と醸成		
		(2)	感染管理意識の共有と醸成		
6	医療品質の向上	(1)	品質の向上及び他病院との比較		
		(2)	クリニカルパスの拡充		
7	災害医療機能の強化 ●	(1)	病院災害対策委員会の活動		
人間関係					
1	チーム医療体制の充実	(1)	チーム医療の実践		
		2	市民との信頼関係の強化	(1)	指導・教室の実施
				(2)	相談事業の充実
				(3)	「私のカルテ」の推進
(4)	退院調整会議の充実				
アメニティ					
1	患者の視点に立ったサービスの提供	(1)	患者満足度調査の実施		
		(2)	待ち時間短縮及び接遇改善		
		(3)	外来でのサービス拡充		
		(4)	病棟でのサービス拡充		
地域社会					
1	地域医療連携の強化 ●	(1)	地域医療連携セミナー等の開催		
		(2)	重点エリアの連携体制の強化		
		(3)	初診連絡の徹底による連携強化		
		(4)	地域連携クリニカルパスの積極的な活用		
		(5)	保険薬局との連携強化		

具体的施策	取組項目		取組項目における具体的な実施内容 (実施施策)
	大分類	小分類	
医療の透明性の確保			
情報の積極的な発信			
1	情報の積極的な発信	(1)	医療事故等の公表
		(2)	病院事業経営内容の公開
		(3)	市政出前ふれあいトークへの参加
		(4)	病院広報の拡充
医療の効率性の確保 ●			
効率化			
1	効率化の推進	(1)	施設基準の取得等
		(2)	省エネルギー活動の推進
		(3)	適切な診療報酬の請求
		(4)	ジェネリック医薬品の採用拡大
		(5)	効率的な物品管理体制の構築及び調達方法の検討
		(6)	未収金の発生防止及び回収促進
		(7)	業務改善に向けた積極的な取組み
		(8)	人材配置の適正化
管理体制			
1	管理体制の強化	(1)	病院事業の健全かつ円滑な運営
		(2)	業務実績報告・目標発表会の開催
		(3)	経営分析の実施
		(4)	勤務環境の改善
一体化			
1	一体化の推進	(1)	市立病院間の診療面の連携・協調

●は重点取組項目

実施施策のうち指標等の状況

(項目数)

実施項目	新規	33
	計画に新たに掲載	47
	前計画で未達成	18
	前計画で達成したが 必要性から継続	46
	合計	144

廃止項目	前計画で達成	45
	継続の必要性なし	20
	合計	65

医療の質の確保に向けた取組

医療技術

1 高松市医療全体の最適化を目指した役割の強化

高松市民病院では、「個の最適化」として自院はもとより、「高松市医療全体の最適化」を推進することで、圏域における医療水準の向上を目指します。

(1) 救急医療の強化

ア 救急患者の受入れ

急性期医療を担う中核病院として、救急車搬送を積極的に受け入れるとともに、受入不可の低減に取り組む中で、救急診療から手術、入院へとスムーズに患者を受け入れることができるよう、救急医療の強化を図ります。

また、地域のニーズや圏域の救急体制の課題等を考察しながら、二次救急医療を担う市民病院の救急医療体制のあり方について、臨機応変に対応し、その改善に努めます。

指標(数値目標)

<救急車の搬送受入件数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
救急車搬送 受入件数(件)	1,820 (1,831)	1,850 (1,394)	1,875 1,650	1,900 1,670

<救急車の受入不可率>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
受入不可率 (%以下)	26 (27.1)	25 (34.2)	22	21

(2) がん診療機能の強化

ア 診療機能の強化

日本人の死因トップで、3人に1人が、がんで亡くなっている現状を踏まえ、当院においても、がん診療推進室の下、診療機能の強化を図り、より適切で、より高度ながん治療の提供を目指します。

指標(数値目標)

<がん診療機能の強化の指標(数値目標)>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
がん診療機能の強化 推進室の設置(回)	12 (-)	12 (12)	12	12



高松市民病院
塩江分院
香川診療所

＜がん診療関連の研修会開催数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
がん診療関連研修会 開催数(回)	9 (-)	12 (12)	12	12

イ 化学療法に関する体制の強化

患者の背景や検査データ等に基づいて、各症例に応じた最適な治療を進めるため、従事スタッフの専門性を高め、より効果的な治療の提供を目指します。

指標(数値目標)

＜がん化学療法認定看護師の配置累計数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
がん化学療法 認定看護師(人)	1 (1)	1 (1)	1	1

＜がん薬物療法認定薬剤師の配置累計数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
がん薬物療法 認定薬剤師(人)	- (-)	準備 (0)	1	1

＜外来がん治療認定薬剤師の配置累計数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
外来がん治療 認定薬剤師(人)	- (-)	準備 (0)	準備	+ 準備

＜化学療法に関する勉強会の開催数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
化学療法に関する 勉強会開催数(回)	25 (-)	30 (27)	35	40

＜抗がん剤初級・ポート管理研修の受講割合＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
抗がん剤初級・ポート 管理研修受講率(%)	60 (-)	75 (-)	80	85

＜胃がんX線検診技術部門B資格の取得者累計数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
胃がんX線検診技術部 門B資格取得者(人)	- (-)	1 (0)	1	1

＜がんのリハビリテーション研修の受講生累計数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
がんのリハビリテーション研修受講生(人)	4 (-)	8 (6)	12	14

ウ 緩和ケアの提供体制の強化

がんによる心と身体の苦痛を和らげ、患者と家族にとって、自分らしい生活を送ることができるように緩和ケアチーム等が療養生活を支えます。

指標(数値目標)

＜緩和ケアチームへの紹介患者数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
緩和ケアチームへの紹介患者数(人)	25 (-)	30 (20)	35	40

＜緩和ケア研修修了の医師累計数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
緩和ケア研修修了医師数(人)	8 (-)	10 (9)	12	14

＜緩和薬物療法認定薬剤師の配置累計数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
緩和薬物療法認定薬剤師数(人)	- (-)	準備 (0)	準備	+
				準備

エ がん患者及び家族への支援

これから、がん治療に向き合う、若しくは治療を終えた患者及び家族のためのバックアップ・サポート体制を整え、いち早く、従前の生活に戻っていただくための一助となるように取り組みます。

指標(数値目標)

＜がん相談件数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
がん相談件数(件)	40 (31)	50 (38)	60	70



高松市民病院
塩江分院
香川診療所

＜がん患者等との交流数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
がん患者等との交流数(回)	0 (0)	2 (1)	2	2

オ 地域がん対策の強化

緩和ケア、相談支援及び地域連携等のがん診療を実施するために、相談支援センターを開設し、開かれた病院として、広く市民に門戸を開放して、必要な基礎的知識・技能を習得した専門職員が、プライバシーに配慮する中で、がんに関する様々な相談や、病気に伴い生じる諸問題、悩みごとの相談に応じる体制を整えます。

指標(数値目標)

＜がん相談支援センターの設立＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
がん相談支援センターの設立	— (—)	設立 (企画)	専任相談員配置 準備	— 準備

＜がん相談員基礎研修(3)修了者累計数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
がん相談員基礎研修(3)修了者数(人)	— (—)	1 (1)	1	1

(3) 地域包括ケアへの対応

住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けられるように、医療・介護・予防・住まい・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムの中で、その一翼を担うために、地域包括ケア病棟の開設を始め、関係機関との連携等により在宅復帰率の向上を図るなど、市立病院として積極的に取り組みます。

指標(数値目標)

＜地域包括ケア病棟の開設＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
地域包括ケア病棟開設	— (—)	準備・開設 (検討)	運用改善 検討	— 開設

＜在宅復帰率の向上＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
在宅復帰率(%)	— (—)	70 (準備)	70 —	70



＜在宅療養後方支援病院の施設基準取得＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
在宅療養後方支援病院の施設基準取得	— (—)	準備・取得 (準備中)	運用改善	—

2 医師確保機能の強化

常勤医師の確保が困難な状況の中、組織全体で医師確保機能の強化に努めます。

(1) 医師確保のための工夫

医療機能の維持向上のため、関連大学における派遣要請や寄附講座の開設のほか、インターネット、医師斡旋業者や医師求人サイト等の有効活用など、様々な手段・方法を検討する中で、人材確保に努めます。

指標(数値目標)

＜関連大学への派遣要請による医師増加数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
医師増加数(人)	— (—)	— (—)	—	5

＜寄附講座の開設による派遣医師数(正規職員換算数)＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
正規換算医師数(人)	— (—)	— (—)	1	1

＜医師斡旋業者の紹介により採用した医師数＞

	H26年度見込(実績)	H26年度見込(実績)	H28年度	H29年度
採用医師数(人)	— (—)	— (—)	1	1

(2) 女性医師確保に向けた勤務環境の整備

育児等に配慮した女性医師の勤務環境の整備及び周知等を図り、その確保に努めます。

指標(数値目標)

＜任期付短時間勤務職員制度による採用医師数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度見込(実績)	H28年度	H29年度
採用医師数(人)	— (—)	1	1	1

(3) 医師研修プログラム等の充実

臨床研修医の研修プログラム等の充実を始め、ブース説明会への積極的な参加、きめ細やかなフォローなどにより、臨床研修医を積極的に受け入れます。

指標(数値目標)

<臨床研修医(基幹型)受入数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
臨床研修医 受入人数(人)	1 (-)	1 (0)	1	1

(4) 協力病院との提携事業の活用

沖縄県立八重山病院との間での協力病院提携を踏まえ、医師の臨床研修やメディカルスタッフの交流研修等を実施し、提携病院での現場体験を通して見識を広め、また、提携病院の職員の受入れにより、当院職員の資質向上に取り組みます。

あわせて、人材確保の一方策として、高松市民病院独自の提携事業を、積極的にPRします。

(5) 医師事務作業補助者の活用

医師事務作業補助者(以下「補助者」という。)の能力向上を図るため、研修会等を開催し、効率的かつ効果的な人材活用を促すとともに、医師の負担軽減を図ります。

指標(数値目標)

<医師事務作業補助体制加算>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
医師事務作業補助 体制加算	30対1 (30対1)	30対1 (40対1)	30対1 40対1	30対1 40対1

※ 補助者数(平成27年度～29年度8人)

<補助者に対する研修会の開催数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
補助者に対する 研修会開催数(回)	- (0)	2 (1)	2	2

(6) 実習、見学等の受入れの充実(人材育成)

医学科学生の実習、見学について、受入体制の充実に努め、積極的に受入れを行います。

指標(数値目標)

<病院実習生の受入れ>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
病院実習生(人)	6 (6)	10 (5)	10	10

<病院見学生の受入れ>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
病院見学生(人)	0 (-)	5 (2)	5	5

(7) その他

大学の臨床研修医を対象とした説明会に積極的に参加し、市民病院の研修体制等について、パンフレットやポスター等を作成・配付し、市民病院をアピールします。

指標(数値目標)

<説明会での市民病院への参加学生数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
説明会での高松市民病院への参加学生数(人)	60 (60)	65 (52)	70	75



3 メディカルスタッフ確保機能の強化

医師のみならず、医療機能の維持・向上には不可欠なメディカルスタッフの確保機能の強化に努めます。

(1) 計画的な採用及び離職防止

市立病院の果たすべき役割等将来の病院機能を見据えて、看護師等メディカルスタッフを計画的に採用し、必要かつ優秀な人材を確保するとともに、離職防止にも取り組みます。

指標(数値目標)

<看護師離職率>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
看護師離職率 (%以下)	8 (8.2)	5 (5.4)	5	5

※ 離職率=(その年度退職者数)/((年度当初在籍職員数+年度末の在籍職員数)/2)

(2) 協力病院との提携事業の活用(再掲)

医療技術 2(4) P 24 参照

(3) 実習、見学等の受入れの充実(人材育成)

人材確保のみならず、人材育成の観点からも、メディカルスタッフが実習生等を積極的に受け入れ、圏域でのリーディングホスピタルとしての機能を発揮します。

指標(数値目標)

<看護師の研修実習生>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
看護師 研修実習生(人)	100 (0)	100 (130)	100	100

<薬剤師の実務実習生>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
薬剤師 実務実習生(人)	6 (-)	6 (4)	6	6 2

<薬剤師の早期体験学習生>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
薬剤師早期体験 学習生(人)	4 (-)	2 (2)	2	2



高松市民病院

塩江分院

香川診療所

＜検査技師の見学実習生＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
検査技師	2	2	2	2
見学実習生(人)	(-)	(4)	5	4

＜放射線技師の研修実習生＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
放射線技師	0	2	3	4
研修実習生(人)	(-)	(4)	3	4

＜リハビリテーション技術士の研修実習生＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
リハビリテーション技術士研修実習生(人)	8 (-)	8 (7)	8	8

＜臨床工学技士の研修実習生＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
臨床工学技士 研修実習生(人)	2 (-)	2 (3)	2	2

4 スペシャリストの育成

(1) 資格取得

医療の質の向上を図るとともに、病院機能を強化するために、個々の職員のスキルアップの視点も踏まえ、各職種において特定の専門性を必要とする業務に、必要な認定資格等の取得を促し、それらに従事する職員を育成します。

指標(数値目標)

＜認定資格等の取得者累計数＞

ア 看護局

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
皮膚排泄ケア認定看護師(人)	- (-)	準備 (準備中)	教育課程 -	1 準備
手術看護認定看護師(人)	- (-)	教育課程 (教育課程修了)	1	1
感染管理認定看護師	1 (-)	1 (1)	1	1+教育課程 1+準備
集中ケア認定看護師(人)	- (-)	準備 (準備中)	準備	教育課程



高松市民病院
塩江分院
香川診療所

	H26 年度見込(実績)	H27 年度(実績)	H28年度	H29年度
接食嚥下障害看護認定 看護師(人)	— (—)	準備 (準備中)	教育課程 準備	4 教育課程
がん放射線療法看護認定 看護師(人)	—(-)	準備 (準備中)	準備	教育課程 準備
認知症看護認定看護師(人)	—	—	—	準備
透析療法指導看護師(人)	1 (—)	1 (1)	2 1	2
消化器内視鏡技師(人)	1 (—)	1 (1)	2	2
呼吸療法認定士(人)	11 (—)	12 (1)	13 12	13
糖尿病療養指導士(人)	—	4	4	6

イ 薬剤局

	H26 年度見込(実績)	H27 年度(実績)	H28年度	H29年度
抗菌化学療法認定薬剤師(人)	— (—)	準備 (0)	4 準備	3 準備
糖尿病療養指導士(人)	— (—)	準備 (0)	準備	1
NST 専門療法士(人)	— (—)	準備 (0)	準備	4 準備
救急認定薬剤師(人)	— (—)	準備 (0)	準備	4 準備
生涯研修認定薬剤師(人)	3 (—)	3 (5)	3 5	3
放射性物質取扱薬剤師(人)	1 (—)	1 (1)	2 1	2 1

ウ 検査技術科

	H26 年度見込(実績)	H27 年度(実績)	H28年度	H29年度
認定微生物検査技師(人)	— (—)	準備 (準備)	準備	4 準備
認定輸血検査技師(人)	1 (—)	1 (1)	1	2
超音波検査士	—	2	2	2



高松市民病院
塩江分院
香川診療所

エ 放射線技術科

	H26 年度見込(実績)	H27 年度(実績)	H28年度	H29年度
Ai認定診療放射線技師(人)	— (—)	1 (1)	1	1
X線CT認定診療放射線技師(人)	—	—	—	1

オ リハビリテーション技術科

	H26 年度見込(実績)	H27 年度(実績)	H28年度	H29年度
心臓リハビリ指導士(人)	— (—)	1 (0)	2	3
呼吸療法認定士(人)	1 (—)	2 (1)	3	4

カ 栄養科

	H26 年度見込(実績)	H27 年度(実績)	H28年度	H29年度
病態栄養認定管理栄養士(人)	2 (—)	3 (2)	3	3

5 医療安全の強化

厚生労働省の掲げる「患者の安全を守るための医療関係者の共同行動(PSA)」に則り、安全対策の推進と、医療安全に係る研究・研修等に積極的に取り組むとともに、患者・家族・訪問者はもとより、医療現場で働く全ての人を感染源から守るために感染管理を徹底し、組織横断的に実践します。

(1) 医療安全意識の共有と醸成

ア 医療安全研修等

医療環境の高度化、複雑多様化に伴い、医療従事者の業務作業量は急増しており、肉体的・精神的なプレッシャーの中で診療活動を行うことは、取り返しのつかない事態を引き起こすおそれがあることから、医療安全対策の重要性を再認識することはもとより、日々、職員各々の意識を高め、その共有に努めます。

指標(数値目標)

＜ヒヤリハット報告会の開催数＞

	H26 年度見込(実績)	H27 年度(実績)	H28年度	H29年度
ヒヤリハット報告会 開催数(回)	12 (12)	12 (12)	12	12



＜安全管理研修(全体研修)の開催数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
安全管理研修 開催数(回)	2 (17)	3 (4)	3	3

＜放射線関係医療安全取扱研修の開催数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
安全管理研修 開催数(回)	2 (-)	2 (2)	3	3

イ 医療安全ラウンド

特に医療安全の観点で、多職種のスタッフによる院内ラウンドを実施し、常に問題意識をもって取り組みます。

指標(数値目標)

＜医療安全に係る院内ラウンドの実施数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
医療安全に係る院内 ラウンド実施数(回)	12 (-)	12 (24)	12	12

(2) 感染管理意識の共有と醸成

ア 感染管理研修等

院内感染は、医療機関を運営するに当たって、信用を失墜させ、経営的にも多大な損害を被ることが見込まれ、有事には、その影響を最小限にとどめる必要があることから、日々、職員各々の意識を高め、その共有に努め、適切な感染対策を施し、万全の体制で臨みます。

指標(数値目標)

＜感染管理研修会(全体研修)のテーマ別開催数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
感染管理研修テーマ 別開催数(回)	12 (-)	12 (9)	12	12

＜針刺事故件数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
針刺事故件数(件)	10 (12)	0 (11)	0	0



イ ICT(Infection Control Team:院内感染対策チーム)ラウンド

院内感染対策チームによる院内ラウンドを、週1回実施し、必要な指導を行った上で、迅速に是正措置を講じます。

6 医療品質の向上

「医療は製品である」という認識の下、現在の医療水準に沿った医療を提供し、なおかつ、日進月歩の医療技術や知識を更新、習得するための体制づくりを積極的に推進します。

また、それらの取組により、更に高いレベルの品質を目指すために、外部専門機関の客観的な評価を受けます。

(1) 品質の向上及び他病院との比較

ア 日本病院会の「QI(Quality Indicator:医療の質指標)プロジェクト」への参加

平成22年に厚生労働省が実施した「医療の質の評価・公表等推進事業」を引き継ぐ日本病院会の「QIプロジェクト」に引き続き参加し、他の医療機関との比較を通して、自院の現状を把握し、QIの改善活動に取り組みます。

イ 全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等の推進事業」への参加

平成26年度に厚生労働省の同事業に採択された全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等の推進事業」に参加し、他の医療機関との比較を通して、自院の現状を把握し、医療品質の向上に取り組みます。

(2) クリニカルパスの拡充

クリニカルパスは、医療の計画・実施の標準化と可視化を行うもので、医療の品質と効率化に繋がることから、パス委員会の活動を更に強化し、新規パスの開発及びその運用を推進します。

指標(数値目標)

＜クリニカルパス新規開発件数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
クリニカルパス 新規開発件数(件)	3 (-)	5 (21)	5	5

＜クリニカルパス使用件数(電子カルテパスのみ)＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
クリニカルパス 使用件数(件)	150 (-)	170 (327)	190	200

7 災害医療機能の強化

(1) 病院災害対策委員会の活動

ア 防災対策訓練等の実施

防災対策訓練を始め、防災教育、施設等の安全対策、災害対策用備蓄品の調達などの必要



な措置を講じ、発災時には、地域の医療提供の核となるように備えます。

イ DMAT(Disaster Medical Assistance Team:災害派遣医療チーム)整備に向けた取組

災害時の地域医療・広域医療の重要性を踏まえ、DMATの指定・編成を受けるための資格を取得します。

指標(数値目標)

<DMAT編成の資格取得>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
資格取得	—	—	—	取得

人間関係

1 チーム医療体制の充実

患者を中心として、全ての職種が、それぞれの専門性を発揮しながら、ファインチームワークの精神の下、「チーム医療」としての効果を最大限発揮できるような取組を行います。また、各チーム間での連携を図るとともに、スタッフ教育を積極的に行います。

(1) チーム医療の実践

ア 医療安全対策チーム

医療安全管理委員会の下、医療機器や医薬品の取扱いを含めた診療活動の実施に当たって発生した医療事故(他病院での事故等含む。)について検証・再発防止対策を講じるとともに、研修やラウンドを実施し、職員への意識啓発と情報共有に取り組む中で、必要な医療安全対策を組織横断的に推進します。

イ 院内感染症対策チーム(ICT:Infection Control Team)

院内感染症対策委員会の下、サーベイランス網を駆使して、院内における感染症の発生防止対策を講じるほか、研修やラウンドを実施し、職員への意識啓発と情報共有に取り組むとともに、感染症発生時には、主導的に適切な感染対策を施します。

ウ 栄養サポートチーム(NST:Nutrition Support Team)

患者の栄養状態の評価を始め、摂食状況の調査、適切な栄養療法の実施、さらには嚥下機能の評価などを通して、全身状態の改善及び合併症の予防に努めます。

エ 呼吸療法サポートチーム(RST:Respiratory Support Team)

慢性閉塞性肺疾患患者や人工呼吸器装着患者等を対象に、ベッドサイドでの呼吸機能の観察・評価を始め、呼吸器の安全管理、使用環境の整備、さらには廃用予防など、呼吸器からの早期離脱を目指しながら、呼吸療法における医療安全と呼吸器ケアのレベルアップを目指します。

オ 褥瘡対策チーム

活動性が低下したり、安静状態が長期に及ぶ、寝たきり、若しくは、寝たきりに近い患者や車いすを使用している患者等を対象に、褥瘡の早期発見に努め、適切な治療により改善、治癒を目指します。また、褥瘡の発症原因は、各患者や個々の事案によって様々であることを踏まえ、各症例で調査・分析を行うなど、褥瘡対策として必要な処置を講じます。

カ 緩和ケアチーム (PCT: Palliative Care Team)

終末期を迎えた患者や余命宣告を受けた患者とその家族に対して、心と体の苦痛を和らげるための薬物療法や物理療法などを実施するほか、不安や恐怖を少しでも緩和するための相談など、早い段階からチームとして関与することで、患者の求める最善の医療を施しながら、療養生活を支えます。

キ 糖尿病チーム

糖尿病患者を対象に、療養に係る指導や相談等を通して、日常的な療養生活をサポートし、糖尿病性神経障害、糖尿病性網膜症、糖尿病性腎症などの合併症による、しびれや神経痛、失明、腎不全、透析を要する尿毒症等の重症化の予防に努めます。

ク 排泄ケアチーム

ストーマ(人工肛門・人工膀胱)を造設した患者を対象に、スキントラブルや漏れ、ストーマ傍ヘルニアなど、ストーマケアを実施する中で、少しでも不安の解消を図るとともに、QOL (Quality Of Life: 生活の質)を維持するために、手術前から退院後を通して、排泄に関する総合的な支援を実施します。

ケ 摂食嚥下チーム

主に食物を咀嚼、又は飲み込むことができない患者を対象に、「食べる楽しみ」を維持するために、摂食サポートや栄養状態、嚥下機能の評価などの治療や訓練を実施する中で、誤嚥性肺炎の発症防止と摂食機能の回復に努めます。

コ 口腔ケアチーム

口腔ケアが必要な患者を対象に、より効果的な病棟口腔ケアを実施し、患者の誤嚥性肺炎の発症防止や化学療法・放射線治療などに伴う口内炎の症状緩和を図り、早期回復を促すとともに、職員に口腔内ケア教育を実施します。

2 市民との信頼関係の強化

各職種の職員が、それぞれの専門的知識・能力をもって、患者を含む市民の QOL を高め、回復力や予防力の向上に資する指導や相談事業を積極的に実施しながら、市民に「市立病院があるから安心して暮らせる」と言っていたくために、信頼関係の強化に全力で取り組みます。

(1) 指導・教室の実施

専門的知識を有する当院のスタッフが、患者を含む市民の健康保持に役立つ指導・教室を開催します。



指標(数値目標)

<健康いき教室の開催数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
健康いき教室 開催数(回)	10 (-)	10 (10)	10	10

<糖尿病学校の開催数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
糖尿病学校 開催数(回)	6 (6)	6 (6)	6	6

(2) 相談事業の充実

専門的知識を有する本院のスタッフが、患者を含む市民の医療に関する、様々な悩みごとの相談に応じる体制を充実します。

指標(数値目標)

<医療福祉相談の件数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
医療福祉相談 件数(件)	1,000 (-)	1,000 (990)	1,000	1,000

<受診相談の件数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
受診相談件数(件)	380 (-)	400 (236)	400	400

(3) 「私のカルテ」の推進

診療情報を提供する「私のカルテ」を発行し、信頼関係の構築に努めます。

指標(数値目標)

<入院患者の利用者数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
入院患者の 利用者数(人)	1,500 (-)	1,700 (1,651)	1,700	1,700

＜入院患者への配布率＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
入院患者への 配付率(%)	40 (38.5)	40 (47.8)	40	40

＜新規外来患者への配布率＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
新規外来患者への 配付率(%)	— (—)	10 (38)	15	20

(4) 退院調整会議の充実

入院患者の退院後、在宅療養や施設入所などに、円滑に移行できるよう、医師を始め、ソーシャルワーカー、看護師や栄養士などの職員が、患者の家族や住まいの状況に関するきめ細かな情報を共有するなど、退院調整会議を充実させて、適切な退院調整に努めます。

指標(数値目標)

＜退院調整を要する患者等への実施割合＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
退院調整を要する患 者等へ実施率(%)	100 (100)	100 (100)	100	100

アメニティ

1 患者の視点に立ったサービスの提供

患者の視点から、職員一人一人が更なる意識の向上を図り、より質の高いサービスを提供することに重点を置いて、各種方策に取り組みます。

(1) 患者満足度調査の実施

入院・外来患者を対象とした満足度調査を実施し、その向上を目指します。また、調査結果を十分に分析した上で、改善できるところは早急に実行し、回答結果もあわせて公表します。

(2) 待ち時間短縮及び接遇改善

ア 待ち時間の短縮

外来患者の受付から会計終了までの所要時間を定期的に計測し、流れや手続等の再検討など必要に応じて改善策を講じるとともに、特に予約患者の待ち時間を減じるように努めます。



指標(数値目標)

<予約患者の待ち時間>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
予約患者 待ち時間(分以内)	— (—)	30 (90)	30	30

イ 接遇改善の取組

OJT(On the Job Training:職場内研修)として、常日頃から接遇改善に関する意識啓発に取り組むとともに、常設する接遇アンケート箱に寄せられた御意見等を踏まえ、院内独自の接遇研修会を開催するほか、市役所本庁で開催する接遇研修会にも積極的に参加し、職員全員で接遇改善に取り組めます。

ウ クレーム対応能力の向上

OJT(On the Job Training:職場内研修)として、常日頃からクレーム対応に関する意識啓発に取り組むとともに、常設する提言箱に寄せられたクレーム(不当な要求等は除外)の原因を徹底的に分析・調査し、再発の防止に努め、クレームへの職員の対応能力の向上を図ります。

(3) 外来でのサービス拡充

外来でのサービス拡充方策として、セカンドオピニオンの取組を強化します。

診療内容や治療方針等について他の医師の意見を求め、納得のいく最適な治療を受けたい患者の希望に応えるために、他の医療機関からの患者を受け入れる専門外来の設置など、セカンドオピニオンを提供し、又は当院の患者が他の医療機関で、セカンドオピニオンが受けられるように、その仕組みづくりに取り組めます。

指標(数値目標)

<セカンドオピニオン外来の開設>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
セカンドオピニオン 外来開設	— (—)	準備 (準備)	開設・運用	運用改善

<セカンドオピニオンの受入件数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
セカンドオピニオン 受入件数(件)	— (—)	準備 (準備)	12	18

＜セカンドオピニオンに係る診療情報提供件数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
セカンドオピニオン 診療情報提供数(件)	— (—)	12 (5)	18	24

(4) 病棟でのサービス拡充

ア 病室の病床数の見直し

医療機能を考慮した上で、患者へのプライバシーに配慮し、快適な入院生活を送ってもらうために、病室の病床数を見直します。

イ 病棟薬剤業務の充実

服薬指導を始め、持参薬、予薬の確認、抗がん剤のミキシングなど、病棟における薬剤師の責務は増大し、重要な役割を果たしていることを踏まえ、その専門性を十分に発揮し、より入院患者をサポートできるように取り組みます。

指標(数値目標)

＜病棟専従薬剤師数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
病棟専従 薬剤師数(人)	— (—)	1 (0)	3	4

＜薬剤師の病棟回診、カンファレンスへの参加数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
薬剤師の病棟回診、カ ンファレンス参加数(回)	— (—)	230 (240)	230	230

ウ 摂食不良患者への支援

病棟訪問する中で、必要に応じて、患者への栄養指導を行います。特に、摂食嚥下に障害のある患者には、入院中はもとより、退院前訪問指導を行い、在宅生活においても良好な栄養状態が維持できるように全力で支援します。

指標(数値目標)

＜病棟訪問件数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
病棟訪問件数(件)	1,200 (—)	1,400 (728)	1,400 1,200	1,400 1,200



エ 病棟リハビリテーションの実施

発症又は入院早期から急性期リハビリテーションとして、ベッドサイド及び病棟で、早期の基本的ADL (Activities of Daily Living: 日常生活動作) 能力の向上を図り、患者に対して、シームレスケア (継ぎ目のない医療) の一環として、質の高いリハビリテーションの提供に努めます。

指標(数値目標)

<病棟リハビリテーションの実施割合>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
病棟リハビリテーション実施率(%)	— (—)	80 (70)	80	80

オ 転倒・転落防止対策への取組

患者の転倒・転落など、特に施設上の安全管理の観点で、多職種のスタッフによる院内ラウンドを定期的実施し、迅速かつ適切に、安全管理のために必要な措置を講じます。

地域社会

1 地域医療連携の強化

医師の負担軽減及び医療の適切な役割分担を図るとともに、地域一体となって地域住民の健康を支えるために、当院と地域の医療機関との医療連携を進める中、26年12月に地域医療支援病院の承認を受けたことを踏まえ、地域医療連携セミナー等の開催など、各種施策を実施して、引き続き、地域医療連携の強化に取り組みます。

(1) 地域医療連携セミナー等の開催

地域の連携医療機関の医師と当院との、相互理解・信頼関係を築くために、地域医療連携セミナーを開催するほか、院外で、地域連携カンファレンスを開催します。

指標(数値目標)

<地域医療連携セミナーの開催数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
地域医療連携セミナー開催数(回)	3 (3)	2 (2)	3	3

<地域医療連携カンファレンスの開催数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
地域医療連携カンファレンス開催数(回)	1 (1)	2 (2)	2 1	2 1



(2) 重点エリアの連携体制の強化

新病院開院後を見据え、重点エリアの医療機関を訪問します。

指標(数値目標)

<地域医療機関への訪問数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
地域医療機関 訪問数(施設)	30 (33)	60 (65)	80 200	100 200

(3) 初診連絡の徹底による連携強化

紹介状持参を啓発するとともに、初診患者数の把握と返書を確実に実施します。

指標(数値目標)

<返書率>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
返書率(%)	85 (90.1)	100 (94)	100	100

(4) 地域連携クリニカルパスの積極的な活用

地域連携クリニカルパスを積極的に活用した地域医療連携により、診療情報の提供などシームレスな医療連携体制の実現に取り組むとともに、必要な知識・ノウハウ等を習得するための研修にも参加し、関係職員のスキルアップに努めます。

指標(数値目標)

<地域連携クリニカルパスの活用件数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
地域連携クリニカル パス活用件数(件)	25 (49)	40 (40)	50	50

<シームレスケア研修会への参加者数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
シームレスケア研修 参加者数(人)	20 (22)	40 (49)	40	40



(5) 保険薬局との連携強化

地域医療連携体制の構築と合わせて、医療機関の薬局と地域の保険薬局との連携(薬薬連携)が求められていることを踏まえ、新たに意見交換会等を開催するなど、その強化に取り組めます。

指標(数値目標)

<保険薬局との意見交換会の開催数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
保険薬局との意見交換会開催数(回)	1 (-)	1 (1)	1	1

高松市民病院

塩江分院

香川診療所

医療の透明性の確保に向けた取組

情報の積極的な発信

1 情報の積極的な発信

(1) 医療事故等の公表

医療の高度化、複雑化に伴い、病院スタッフは、日々研鑽を重ねて、専門的知識・技能を駆使しながら、安全で安心な医療を提供し、市民から信頼される病院であり続けるために努力しています。

その一方で、万が一、医療事故等が発生した場合には、医療事故等の公表に関する一定の基準として、「高松市立病院医療事故等公表基準」を定め、インシデント・アクシデント件数をホームページで引き続き公表するのを始め、特に公表する医療事故について、原因の分析・究明及び再発防止策等の評価・提言を行う「高松市病院局医療安全評価委員会」を設置しており、病院運営の透明性を高め、医療現場における安全管理の向上と事故防止に組織的に取り組みます。

また、日本医療機能評価機構が、全国の医療機関での医療事故情報等を収集・分析を行う「医療事故情報収集等事業」に参加し、市民・患者との情報共有に努めるとともに、当院での医療安全対策に生かします。

(2) 病院事業経営内容の公開

ホームページを活用して、経営計画等を始め、その計画の取組進捗状況、自己評価、それらに対する外部評価、さらには、病院事業の各年度の予算・決算の概要や収益的収支の年度推移等について、よりわかりやすい情報提供を工夫しながら、経営内容を公開します。

(3) 市政出前ふれあいトークへの参加

市政出前ふれあいトークに参加する中で、一定人数を超える団体からの希望に応じて、医師・看護師等が出向いて、疾病予防のための健康講座や当院の診療内容の情報発信を行います。

(4) 病院広報の拡充

ア ホームページの充実及びメンテナンス

情報提供の最重要手段の一つとして積極的に活用するために、画一的で無機質な印象を与えることがないよう、医師、看護師等多職種のスタッフにも協力を求めるとともに、ページ更新や新規作成に当たっては、専門業者に外注するなど、より効果が得られるよう取り組み、掲載内容やレイアウト等を随時見直し、メンテナンスにも配慮して、わかりやすく親しみやすい医療情報等の提供・発信に取り組みます。

イ 「HOT新聞」の発行

高松市民病院新聞として、新任医師や新規採用職員のほか、新規診療科等の紹介など、院内でのトピックを記載した「HOT新聞」を年1回発行し、来院者が閲覧できるように外来待合室等院内各所に設置しています。引き続き、紙面構成のリニューアル等、更に内容を工夫した上で、情報発信に努めます。



ウ 「地域医療連携だより」及び「医師紹介パンフレット」の発行

「地域医療連携だより」は、各診療科、従事スタッフなどの医療機能や機器などの医療情報を、「医師紹介パンフレット」は、専門領域や資格・学会などの医師情報を掲載しており、主に医療関係者等に対して情報発信を行うもので、地域医療連携への取組の側面も併せ持っています。引き続き、内容等を工夫した上で、情報発信に努めます。

高松市民病院

塩江分院

香川診療所



医療の効率性の確保に向けた取組

効率化

1 効率化の推進

(1) 施設基準の取得等

医療機能の整備に伴い、取得可能な診療報酬上の施設基準の取得を目指すとともに、加算の算定対象となる案件等の取得に積極的に取り組みます。

ア がん患者指導管理業務の充実(がん患者指導管理料3加算)

平成26年度に新設された、がん患者に対する医師又は薬剤師が行う抗悪性腫瘍剤の副作用等の指導管理を実施します。

イ 薬剤管理指導業務・病棟薬剤業務の充実(薬剤管理指導料加算・病棟薬剤業務実施加算)

入院患者の薬歴管理と服薬指導を通して、患者の薬物療法への認識を深めるとともに、患者から得た情報を医師にフィードバックすることで、薬物療法支援業務の充実を図ります。

ウ 脳血管疾患等リハビリテーションの充実(脳血管疾患等リハビリテーション料加算)

地域包括ケアシステムの構築に不可欠な「医療と介護の連携」の一環として、脳血管疾患等の入院患者へのリハビリテーションに積極的に取り組みます。

エ ADL維持向上等リハビリテーションの充実(ADL維持向上等体制加算)

急性期病棟にリハビリテーション専門職を配置し、定期的なADL (Activities of Daily Living : 日常生活動作) 評価を始め、指導、安全管理、さらには多職種とのカンファレンスを通じて、入院患者のADLの維持・向上に努めます。

(2) 省エネルギー活動の推進

地球温暖化への対応はもとより、増え続ける光熱水費の抑制を図るとともに、リサイクル意識の醸成を促し、省エネルギー活動に積極的に取り組み、効率化の推進を図ります。

指標(数値目標)

<電力使用量の削減>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
電力使用量削減率 (前年度比%以上)	Δ4 (-)	Δ3 (Δ3.64)	Δ2	Δ1

<古紙のリサイクル推進>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
古紙リサイクル推進 (ト>以上)	1.8 (-)	1.8 (7.5)	1.9	2

高松市民病院
塩江分院
香川診療所



(3) 適切な診療報酬の請求

医師、メディカルスタッフ、事務、医療事務委託業者等との間で、連携を強化し、診療報酬制度の改定や国の制度変更に迅速に対応するとともに、適正かつ厳密に診療報酬を請求するように努め、請求漏れや査定減がないように取り組みます。

指標(数値目標)

<診療報酬請求額の査定率>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
診療報酬請求額 査定率(%以内)	0.14 (-)	0.14 (0.153)	0.14	0.14

※査定率 = (査定額) / (外来・入院診療費) × 100

(4) ジェネリック医薬品の採用拡大

公的医療保険の負担を削減し、国の財政負担に貢献するとともに、当院の経営の効率化を図るために、使用量の多い医薬品を抽出し、「有効性」と「安全性」を両立したジェネリック医薬品(後発医薬品)への変更を進めるなど、使用数量ベースで、その割合の向上に努めます。

指標(数値目標)

<ジェネリック医薬品の使用数量割合>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
ジェネリック医薬品 使用数量率(%)	39.5 (-)	60 (71.4)	80	80

(5) 効率的な物品管理体制の構築及び調達方法の検討

物品の調達・利用・在庫管理等について、現行の運用の課題等を抽出した上で、SPD(Supply Processing & Distribution)システムの導入も視野に入れ、より効率的な物品管理体制の構築に取り組みます。

また、メンテナンス費用等後年度負担を伴う医療機器等の調達に当たっては、購入時に当該経費も考慮するなど、調達・契約方法の検討を進めます。

(6) 未収金の発生防止及び回収促進

ア 公費負担助成制度・預り金制度の周知徹底

診療費用の支払相談を始め、医療費公費負担助成制度を周知する中で、自己負担の軽減を図るとともに、引き続き、休日・時間外診療における診療費は、当日に一定金額をお預かりし、後日精算とするなど、様々な措置を講じて、未収金の発生防止に取り組みます。

イ 現年分収納率の向上

未収金が発生した場合には、速やかに滞納者と接触し、納入指導を徹底し、回収に努めます。

指標(数値目標)

<現年分収納率の向上>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
現年分収納率(%)	98.0 (98.9)	98.2 (98.7)	98.4	98.6

ウ 未収金の回収促進

未収金回収業務として、弁護士に委託し、効率的な債権回収を進めるほか、本市収納対策推進本部と連携を図るとともに、少額訴訟や支払督促など、法的措置の実施も視野に入れ、回収への取組を強化します。

指標(数値目標)

<過年度未収金の回収率>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
過年度未収金 回収率(%)	7.0 (6.9)	7.2 (4.5)	7.4	7.6

(7) 業務改善に向けた積極的な取組

ア 職員提案の活用

業務改善の取組の一環として、限られた資源を活用し、最大限のパフォーマンスの発揮を目指すとともに、職員の病院運営への参画意識の高揚を図ることを目的として、職員提案用「カイゼンボックス」を設置していることから、全職員に対して提案参加を促すとともに、トップダウンのみならず、現場からの声も生かせるような組織風土の醸成に努めます。

イ 情報化の促進

医療情報の共有化・医療の均質化を図り、更なる効率化を推進するために、医療情報システムを更新するほか、新病院開院に向けて、その準備として必要なIT化に積極的に取り組みます。

(8) 人材配置の適正化

組織は人なりの観点から、適材適所の配置に努め、人材の有効活用を、より一層推進します。

管理体制

1 管理体制の強化

(1) 病院事業の健全かつ円滑な運営

ア 経営状況等の情報共有

「経営の安定なくして、良質な医療なし」の考えに則り、病院事業管理者の下、幹部職員による病院局及び各病院・診療所で開催する経営戦略会議において、市立病院を取り巻く諸課題につ



いて、情報共有を図るとともに、問題意識をもって病院運営の現状を把握し、必要な改善を講じ、さらには将来を見据えた戦略的な取組等を議論します。

イ PDCA(Plan Do Check Action)サイクルでの改善取組の継続

本計画についても、引き続き、PDCAサイクルによる進行管理を実施し、更なる業務改善や効率化を進めます。あわせて、外部評価機関としての「高松市立病院を良くする会」や、市長部局との相互理解と相互信頼を深めるための「高松市立病院の医療の確保と健全化をすすめる会」を、適時適切に開催し、病院事業の健全かつ円滑な運営を推進します。

(2) 業務実績報告・目標発表会の開催

診療科、各局、業務委託業者を含めた病院を構成する全組織が一堂に会して、これまでの業務実績を報告するとともに当該年度の目標を発表し、異なる職種間での相互理解と相互信頼を深め、病院の円滑な運営に努めます。

指標(数値目標)

<業務実績報告・目標発表会の職員(非常勤嘱託職員を含む)参加人数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
業務実績報告・目標発表会職員参加人数(人)	77 (-)	80 (158)	90	100

(3) 経営分析の実施

ア DPC委員会の開催

指標(数値目標)

<DPC委員会の開催数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
DPC委員会開催数(回)	4 (-)	12 (4)	12	12

イ DPC(Diagnosis Procedure Combination: 診断群分類分析)を踏まえた経営改善の取組

診療情報管理士を中心に、DPCコーディングの適正化を進め、医師と連携して、より効率的な経営を実践するとともに、分析ソフトを通して他病院と比較するなど、必要な情報を収集しながら、的確な経営分析に基づいた病院運営に取り組みます。

ウ 近隣市立病院との情報交換・勉強会を活用した病院運営の取組

坂出市立病院やさぬき市民病院など、近隣の市立病院間で、病院経営や経営分析に係る諸課題等についてテーマを定め、情報交換・勉強会を定期的で開催していることを踏まえ、他病院での先進事例など情報を収集するとともに、必要に応じて当院にフィードバックして、病院運営に

生かします。

(4) 勤務環境の改善

ア 時間外勤務時間の縮減

過重労働を防止し、職員の健康管理を図るとともに、日常性に埋没することなく、日頃から仕事の再定義、再構築を行い、業務改善を推進する観点から、各職場において、時間外勤務時間の縮減に向けて取り組みます。

指標(数値目標)

<時間外勤務時間の縮減割合>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	H28年度	H29年度
時間外勤務時間縮減率(前年度比%以上)	△8 (-)	△20 (△23.8)	△10	△5

一体化

1 一体化の推進

(1) 市立病院間の診療面の連携・協調

「市立病院は3つで1つ」、「ファインチームワーク」の精神の下、医師やメディカルスタッフが、それぞれの専門性を十分に発揮して、連携・協調しながら、市立病院での良質な医療の提供に努めます。

ア 医療局

患者ニーズや当院での診療状況等に応じて、医師を塩江分院や香川診療所に派遣します。

イ 看護局

塩江分院や香川診療所との人員交流(相互応援)を行い、相互理解を深め、信頼関係を築きます。

ウ 薬剤局

塩江分院との人員交流(相互応援)や、採用薬品の情報共有等で連携を図り、相互理解を深め、信頼関係を築きます。

エ 検査技術科

塩江分院からの検体検査を実施するとともに、香川診療所との人員交流(相互応援)を行い、相互理解を深め、信頼関係を築きます。

オ 放射線技術科

塩江分院や香川診療所に赴き、検査業務を実施するとともに、塩江分院及び香川診療所との人員交流(相互応援)を行い、相互理解を深め、信頼関係を築きます。



カ リハビリテーション技術科

塩江分院に赴き、言語療法業務を実施するとともに、塩江分院との人員交流(相互応援)を行い、相互理解を深め、信頼関係を築きます。

キ 栄養科

塩江分院との人員交流(相互応援)を行い、相互理解を深め、信頼関係を築きます。

高松市民病院

塩江分院

香川診療所



【塩江分院】

塩江分院体系図

具体的施策	取組項目		取組項目における具体的な実施内容 (実施施策)		
	大分類	小分類			
医療の質の確保	医療技術	1 地域医療の推進 ●	(1) 訪問事業の推進 ● (2) 初期、回復期、慢性期医療の提供 (3) 地域包括ケアシステムの構築支援 ●		
		2 医師等の確保機能の強化	(1) 寄附講座の活用 (2) 医師の育成 (3) 実習、見学等の受入れの充実		
		3 スペシャリストの育成	(1) 資格取得		
		4 医療安全の強化	(1) 医療安全意識の共有と醸成 (2) 感染管理意識の共有と醸成		
		5 医療品質の向上	(1) 学会や研修会での発表		
	人間関係	1 チーム医療体制の充実	(1) チーム医療の実践		
		2 市民との信頼関係の強化	(1) 教室・講座の実施 (2) 指導・相談事業の拡充(訪問診療、訪問看護への同行) ● (3) 「私のカルテ」の推進 (4) 退院調整会議の充実 (5) 「ほたる通信」の発行(再掲)		
		アメニティ	1 患者の視点に立ったサービスの提供	(1) 患者満足度調査の実施 (2) 接遇改善の取組み (3) 外来でのサービス拡充 (4) 病棟でのサービス拡充	
			地域社会	1 共に支え合う体制の整備	(1) 病院・介護保険施設等との連携 ● (2) 地域社会との連携 ●

具体的施策	取組項目		取組項目における具体的な実施内容 (実施施策)
	大分類	小分類	
医療の透明性の確保	情報の積極的な発信	1 情報の積極的な発信	(1) 医療事故等の公表 (2) 住民参加会議の開催 (3) 「ほたる通信」の発行
		医療の効率性の確保 効率化	1 効率化の推進
	管理体制		1 管理体制の強化
		一体化	1 一体化の推進

●は重点取組項目

実施施策のうち指標等の状況

(項目数)

実施項目	新規	10
	計画に新たに掲載	23
	前計画で未達成	0
	前計画で達成したが 必要性から継続	34
	合計	67

廃止項目	前計画で達成	26
	継続の必要性なし	3
	合計	29

高松市民病院

塩江分院

香川診療所



医療の質の確保に向けた取組

医療技術

1 地域医療の推進

急速な人口減少と高齢化が進む、山間へき地に存する当院では、その地域特性に根ざした良質な医療が提供できるよう取り組みます。

(1) 訪問事業の推進

高齢者を中心とした地域住民が、住みなれた地域社会で、引き続き、在宅生活を送ることができるよう、訪問診療・訪問歯科・訪問看護・訪問リハビリテーションなどの訪問事業を推進します。

指標(数値目標)

<訪問件数>

	H26 年度見込(実績)	H27 年度(実績)	平成28年度	平成29年度
訪問診療件数(件)	650 (1,040)	680 (949)	700	720
訪問歯科件数(件)	350 (409)	360 (105)	370	380
訪問看護件数(件)	2,700 (2,690)	2,780 (2,729)	2,800	2,820
訪問リハビリテーション 件数(件)	190 (190)	210 (312)	220	230

(2) 初期、回復期、慢性期医療の提供

地域唯一の医療機関として、初期段階でのプライマリケアを始め、回復期や慢性期の外来診療のほか、少し長めの療養を必要とする患者への入院診療を提供します。

また、入院患者の退院後を見据え、より安心して安全な在宅療養生活を送ることができるよう、その支援に積極的に取り組みます。

指標(数値目標)

<在宅復帰率の向上>

	H26 年度見込(実績)	H27 年度(実績)	平成28年度	平成29年度
在宅復帰率(%)	64.7 (-)	70 (72.2)	72	75

＜入院患者に対する口腔ケア実施回数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
入院患者への 口腔ケア実施回数(回)	1,700 (-)	1,800 (3,644)	1,900	2,000

＜療養病棟入院基本料1の取得＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
医療区分2、3の割合 (%)	(-)	72.5	80	80

＜在宅復帰機能強化加算の取得＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
退院患者の在宅1月以上 の割合(%)	(-)	(-)	50	50

(3) 地域包括ケアシステムの構築支援

塩江町地域が先進的な地域包括ケアシステムのモデル地域となるよう、地域ケア小会議に参加し、地域課題や個別課題の解決に向けた積極的な提案等を行うなど、その構築支援に取り組みます。

指標(数値目標)

＜地域ケア小会議等への参加割合＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
地域ケア小会議等への 参加率(%)	100 (-)	100 (100)	100	100

2 医師等の確保機能の強化

常勤医師の確保が困難な状況の中、特に、自治医科大学卒業後義務年限内の医師の確保など、組織全体で医師等の確保機能の強化に努めます。

(1) 寄附講座の活用

先進的な地域包括医療のモデル地域となるように、国立大学法人香川大学医学部の地域包括医療学講座を十分に活用し、同講座から派遣される医師を通して、当院の医療機能を充実させます。

(2) 医師の育成

臨床研修医の研修プログラムの充実を図り、地域医療の「つどい」in 塩江(1泊2日研修)の実施などにより、地域医療を担う医師の育成に努めます。



指標(数値目標)

<研修プログラムの新メニュー追加件数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
研修プログラム新メニュー追加件数(件)	— (—)	1 (1)	1	1

(3) 実習、見学等の受入れの充実

地域包括医療学講座の取組の一環として、医学科学生及び臨床研修医の地域密着型臨床実習の場を提供することにより、地域医療に貢献できる医療人の育成に協力します。

指標(数値目標)

<香川大学等からの医師研修実習生受入人数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
香川大学等からの医師研修実習生受入人数(人)	38 (—)	40 (34)	43	46

(4) 医師の安定確保

<医師の斡旋業者紹介により採用した医師数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
採用医師数(人)	(—)	(—)	1	1

3 スペシャリストの育成

(1) 資格取得

医療の質の向上を図るとともに、病院機能を強化するために、個々の職員のスキルアップの視点も踏まえ、各職種において特定の専門性を必要とする業務に、必要な認定資格等の取得を促し、それらに従事する職員を育成します。

指標(数値目標)

<認定資格等の取得者累計数>

看護局

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
認知症ケア専門士(人)	3 (3)	3 (3)	4	5
介護支援専門員(人)	6 (6)	7 (5)	8	9

4 医療安全の強化

医療環境の高度化、複雑多様化に伴い、医療従事者の業務作業量は急増しており、肉体的・精神的なプレッシャーの中で診療活動を行うことは、取り返しのつかない事態を引き起こすおそれがあることから、医療安全対策の重要性を再認識することはもとより、日々、職員各々の意識を高め、その共有に努めます。

また、院内感染は、医療機関を運営するに当たって、信用を失墜させ、経営的にも多大な損害を被ることが見込まれ、有事には、その影響を最小限にとどめる必要があることから、日々、職員各々の意識を高め、その共有に努め、適切な感染対策を施し、万全の体制で臨みます。

(1) 医療安全意識の共有と醸成

多くの職員が参画する医療安全委員会において、院内の医療安全対策の徹底と情報共有を図ります。

指標(数値目標)

<医療安全委員会の開催数>

	H26 年度見込(実績)	H27 年度(実績)	平成28年度	平成29年度
医療安全委員会 開催数(回)	12 (12)	12 (12)	12	12

<安全管理研修会(全体研修)の開催数>

	H26 年度見込(実績)	H27 年度(実績)	平成28年度	平成29年度
安全管理研修会 開催数(回)	2 (2)	2 (3)	2	2

<ヒヤリハット事例研究会の開催数>

	H26 年度見込(実績)	H27 年度(実績)	平成28年度	平成29年度
ヒヤリハット報告会 開催数(回)	3 (-)	4 (-)	5	6

(2) 感染管理意識の共有と醸成

多くの職員が参画する感染予防委員会において、院内の感染予防対策の徹底と情報共有を図ります。

指標(数値目標)

<感染予防委員会の開催数>

	H26 年度見込(実績)	H27 年度(実績)	平成28年度	平成29年度
感染予防委員会 開催数(回)	12 (15)	12 (12)	12	12



＜感染管理研修会(全体研修)の開催数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
感染管理研修会 開催数(回)	2 (2)	2 (3)	2	2

＜針刺事故件数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
針刺事故件数(件)	0 (1)	0 (2)	0	0

5 医療品質の向上

「医療は製品である」という認識の下、提供される医療が現在の医療水準に達し、また、日々進歩し続ける医療技術や知識を更新、習得するための体制づくりを積極的に推進していきます。

(1) 学会や研修会での発表

学会、研修会に参加した医師やメディカルスタッフが、参加して得た知識・技術等を院内での各種会議などで報告し、スキルアップに努めます。

指標(数値目標)

＜研究発表・論文発表件数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
研究発表・論文 発表件数(件)	6 (7)	6 (6)	6	6

人間関係

1 チーム医療体制の充実

患者を中心として、全ての職種が、それぞれの専門性を発揮しながら、ファインチームワークの精神の下、「チーム医療」としての効果を最大限発揮できるような取組を行います。また、各チーム間での連携を図るとともに、スタッフ教育を積極的に行います。

(1) チーム医療の実践

ア 栄養サポートチーム(NST: Nutrition Support Team)

入院患者に適切な栄養療法を実施するため、口腔ケア、摂食訓練や栄養評価を計画的に実施します。

指標(数値目標)

<入院患者の経口摂取割合>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
入院患者 経口摂取割合(%)	77 (-)	79 (70.4)	80	81

イ 褥瘡対策チーム

在宅の褥瘡患者訪問を含め、院内入院患者には褥瘡発生率ゼロを目標として、発生予防及び治療管理に取り組みます。

指標(数値目標)

<院内褥瘡発生件数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
院内褥瘡発生 件数(件以内)	4 (-)	2 (9)	2	2

ウ 身体拘束廃止対策チーム

患者の人権を最大限に尊重するため、身体拘束を容易に行わずに、代替措置の検討を行う中で、身体拘束の廃止に努めます。

指標(数値目標)

<拘束の割合>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
拘束率(%以内)	19 (-)	17 (11)	15	13

エ 地域包括ケア推進チーム

指標(数値目標)

<地域ケア小会議等への新規提案件数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
地域ケア小会議等への 新規提案件数(件)	- (-)	1 (1)	2	2

オ 摂食嚥下チーム

主に食物を咀嚼、又は飲み込むことができない患者を対象に、「食べる楽しみ」を維持するため



に、摂食サポートや栄養状態、嚥下機能の評価などの治療や訓練を実施する中で、誤嚥性肺炎の発症防止と摂食機能の回復に努めます。

カ 口腔ケアチーム

口腔ケアが必要な患者を対象に、より効果的な病棟口腔ケアを実施し、患者の誤嚥性肺炎の発症防止や化学療法・放射線治療などに伴う口内炎の症状緩和を図り、早期回復を促すとともに、職員に口腔内ケア教育を実施します。

2 市民との信頼関係の強化

各職種の職員が、それぞれの専門的知識・能力をもって、患者を含む市民のQOLを高め、回復力や予防力の向上に資する指導や相談事業を積極的に実施しながら、市民に「塩江分院があるから安心して暮らせる」と言っていただくために、信頼関係の強化に全力で取り組みます。

(1) 教室・講座の実施

地域住民の要望に沿った演題や場所など、多様なニーズに応え、当院のスタッフが講師となり、栄養教室や出張講座等を積極的に開催し、地域に根ざした医療に取り組みます。

指標(数値目標)

<地域住民を対象にした栄養教室の開催数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
地域住民対象の 栄養教室開催数(回)	6 (6)	6 (8)	6	6

<出張健康講座等の開催数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
出張健康講座等 開催数(回)	10 (-)	12 (22)	12	12

(2) 相談・指導事業の拡充(訪問診療、訪問看護への同行)

専門的知識を有する当院のスタッフが、在宅患者を対象に訪問診療や訪問看護に同行するのを始め、退院患者を対象に病棟看護師が近況確認する中で、それぞれの専門性を生かして、指導や相談に応じる体制の充実を図ります。

指標(数値目標)

<訪問診療、訪問看護への同行回数>

ア 薬剤師

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
薬剤師 同行回数(回)	240 (-)	240 (248)	240	240

イ 放射線技師

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
放射線技師 同行回数(回)	22 (-)	24 (34)	30	35

ウ 管理栄養士

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
管理栄養士 同行回数(回)	10 (-)	10 (33)	14	18

エ 歯科衛生士

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
歯科衛生士 同行回数(回)	36 (-)	36 (26)	46	52

オ 看護師

＜退院患者(死亡を除く)に対する病棟看護師の近況確認割合＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
退院患者の病棟看護師近況確認率(%)	98 (-)	100 (100)	100	100

(3) 「私のカルテ」の推進

医師を始め、看護師や理学療法士など多職種が、地域に出向き、「地域まるごと医療」を実践しており、当院の職員だけでなく、他の機関の関係者等が、患者情報を共有し、地域で共に支えることができるよう、「私のカルテ」の推進に努めます。

指標(数値目標)

＜発行累計数＞

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
発行累計数(人)	300 (308)	330 (339)	360	400

(4) 退院調整会議の充実

入院患者の退院後、在宅療養や施設入所などに、円滑に移行できるよう、医師を始め、看護師や栄養士などの職員が、患者の家族や住まいの状況に関するきめ細かな情報を共有するなど、退院調整会議を充実させて、適切な退院調整に努めます。



指標(数値目標)

<退院調整を要する患者等への実施率>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
退院調整を要する患者等へ実施率(%)	100 (-)	100 (100)	100	100

(5) 「ほたる通信」の発行(再掲)

情報の積極的な発信 1(3) P 6 2 参照

アメニティ

1 患者の視点に立ったサービスの提供

患者の視点から、職員一人一人が更なる意識の向上を図り、より質の高いサービスを提供することに重点を置いて、各種方策に取り組みます。

(1) 患者満足度調査の実施

入院・外来患者を対象とした満足度調査を実施し、その向上を目指します。また、調査結果を十分に分析した上で、改善できるところは早急に行い、回答結果もあわせて公表します。

(2) 接遇改善の取組

OJT(On the Job Training:職場内研修)として、常日頃から接遇改善に関する意識啓発に取り組むとともに、常設する接遇アンケート箱や御意見箱に寄せられた御意見等を踏まえ、院内独自の接遇研修会を開催するほか、市役所本庁で開催する接遇研修会にも積極的に参加し、職員全員で接遇改善に取り組めます。

(3) 外来でのサービス拡充

ア 患者輸送車運行事業の推進

当院独自で実施する患者輸送車運行事業について、運休のない安定した運行体制の確保を始め、利用しやすいルートへの改善及びバス車両の更新など、利便性の更なる向上に向けて取り組みます。

指標(数値目標)

<患者輸送車の運休回数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
患者輸送車運休回数(回)	2 (-)	0 (0)	0	0

イ 院内企画展示の充実

地域の保育所・幼稚園・小中学校の児童生徒等から、絵画等の作品を借り受け、院内で定期

的に企画展示を催すことにより、開かれた病院として、アメニティの向上と地域との一体感の醸成に取り組めます。

指標(数値目標)

<院内の企画展示用提供作品数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
院内企画展示用 提供作品数(品)	30 (-)	50 (323)	50	50

(4) 病棟でのサービス拡充

快適な入院生活を送ってもらうために、特に食事を主眼に置いて、心のこもったサービスを実施するとともに、地元食材を多用した食事を提供するなど、満足度と治療効果の向上を目指します。

指標(数値目標)

<栄養指導件数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
栄養指導件数(件)	100 (136)	100 (119)	100	100

<管理栄養士の病棟訪問件数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
管理栄養士 病棟訪問件数(件)	500 (976)	500 (952)	500	500

<行事食の提供回数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
行事食 提供回数(回)	20 (20)	20 (20)	20	20

地域社会

1 共に支え合う体制の整備

患者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けて、離れて住む家族等が少しでも安心できるよう、病院と地域で、共に支え合う体制の整備に努めます。

(1) 病院・介護保険施設等との連携

院長や事務局長など病院の幹部職員が、急性期病院や介護保険施設等を積極的に訪問し、入院患者を相互に紹介しやすい環境づくりに努めます。



指標(数値目標)

<幹部職員による訪問施設数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
幹部職員の 訪問施設数(施設)	5 (10)	5 (3)	7	10

(2) 地域社会との連携

院内での活動に住民ボランティアの協力を求める一方で、看護師を始めとする職員が地元イベントに参加するなど、地域との連携を密に図りながら、共に支え、支えていただける関係づくりに努めます。

指標(数値目標)

<住民ボランティアの受入人数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
住民ボランティア 受入人数(人)	2 (3)	3 (2)	3	3

<地元イベントへの参加・派遣看護師の延べ人数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
地元イベント参加・派遣 看護師延べ人数(人)	7 (9)	7 (4)	7	7

<病院文化祭の来場者数>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
病院文化祭 来場者数(人)	141 (-)	150 (-)	180	210

<院内の企画展示用提供作品数>(再掲)

アメニティ1(3)イ P58参照

<経営戦略会議の住民参加人数>(再掲)

情報の積極的な発信1(2) P61参照

医療の透明性の確保に向けた取組

情報の積極的な発信

1 情報の積極的な発信

(1) 医療事故等の公表

医療の高度化、複雑化に伴い、病院スタッフは、日々研鑽を重ねて、専門的知識・技能を駆使しながら、安全で安心な医療を提供し、市民から信頼される病院であり続けるために努力しています。

その一方で、万が一、医療事故等が発生した場合には、医療事故等の公表に関する一定の基準として、「高松市立病院医療事故等公表基準」を定め、インシデント・アクシデント件数をホームページで引き続き公表するのを始め、特に公表する医療事故について、原因の分析・究明及び再発防止策等の評価・提言を行う「高松市病院局医療安全評価委員会」を設置しており、病院運営の透明性を高め、医療現場における安全管理の向上と事故防止に組織的に取り組みます。

(2) 住民参加会議の開催

当院の運営を継続・維持するための協力と理解を得るために、引き続いて塩江分院の経営戦略会議に地域住民の代表者の出席を求めるとともに、塩江町の支所、保健センター及び地域包括支援センター職員にも同席を求め、地域における塩江分院の果たすべき役割等について協議・検討します。

指標(数値目標)

<経営戦略会議の住民参加人数>

	H26 年度見込(実績)	H27 年度(実績)	平成28年度	平成29年度
経営戦略会議住民参加人数(平均 人/回)	6 (7)	6 (5)	6	6

(3) 「ほたる通信」の発行

塩江分院だより(機関紙)として、新任医師やメディカルスタッフのほか、診療科等の紹介など、その時々院内でのトピックを記載した「ほたる通信」を発行し、来院者が閲覧できるように外来待合室等院内各所に設置するほか、ホームページにも掲載し、情報発信に努めます。

指標(数値目標)

<「ほたる通信」の発行回数>

	H26 年度見込(実績)	H27 年度(実績)	平成28年度	平成29年度
「ほたる通信」発行回数(回)	6 (-)	6 (6)	6	6



医療の効率性の確保に向けた取組

高松市市民病院

塩江分院

香川診療所

効率化

1 効率化の推進

(1) 省エネルギー活動の推進

地球温暖化への対応はもとより、増え続ける光熱水費の抑制を図るとともに、リサイクル意識の醸成を促し、省エネルギー活動に積極的に取り組み、効率化の推進を図ります。

指標(数値目標)

<電力使用量の削減>

	H26 年度見込(実績)	H27 年度(実績)	平成28年度	平成29年度
電力使用量削減率 (前年度比%以上)	Δ2 (-)	Δ3 (+6)	Δ2	Δ1

(2) 適切な診療報酬の請求

医師、メディカルスタッフ、事務、医療事務委託業者等との間で、連携を強化し、診療報酬制度の改定や国の制度変更に迅速に対応するとともに、適正かつ厳密に診療報酬を請求するように努め、請求漏れや査定減がないように取り組みます。

指標(数値目標)

<診療報酬請求額の査定率>

	H26 年度見込(実績)	H27 年度(実績)	平成28年度	平成29年度
診療報酬請求額 査定率(%以内)	0.6 (-)	0.5 (1.43)	0.5	0.5

※査定率 = (査定額) / (外来・入院診療費) × 100

(3) ジェネリック医薬品の採用拡大

公的医療保険の負担を削減し、国の財政負担に貢献するとともに、当院の経営の効率化を図るために、「有効性」と「安全性」を両立したジェネリック医薬品(後発医薬品)について、使用数量ベースで、その割合の向上に努めます。

指標(数値目標)

<ジェネリック医薬品の使用数量割合>

	H26 年度見込(実績)	H27 年度(実績)	平成28年度	平成29年度
ジェネリック医薬品 使用数量率(%)	40 (30.3)	45 (63.5)	50	55

(4) 未収金の発生防止及び回収促進

ア 現年分収納率の向上

患者の診療費用については、支払相談の充実等により未収金の発生防止に努めます。また、未収金が発生した場合には、速やかに滞納者と接触し、納入指導を徹底し、回収に努めます。

指標(数値目標)

<現年分収納率の向上>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
現年分収納率(%)	99.5 (-)	99.6 (99.9)	99.7	99.8

イ 未収金の回収促進

未収金回収業務として、弁護士に委託し、効率的な債権回収を進めるほか、本市収納対策推進本部と連携を図るとともに、少額訴訟や支払督促など、法的措置の実施も視野に入れ、回収への取組を強化します。

指標(数値目標)

<過年度未収金の回収率>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
過年度未収金	5.6	5.6	5.6	5.6
回収率(%)	(-)	(8.1)	5.6	5.6

(5) 人材配置の適正化

組織は人なりの観点から、適材適所の配置に努め、人材の有効活用を、より一層推進します。

管理体制

1 管理体制の強化

(1) 病院事業の健全かつ円滑な運営

「経営の安定なくして、良質な医療なし」の考えに則り、病院事業管理者の下、幹部職員による病院局及び各病院・診療所で開催する経営戦略会議において、市立病院を取り巻く諸課題について、情報共有を図るとともに、問題意識をもって病院運営の現状を把握し、必要な改善を講じ、さらには将来を見据えた戦略的な取組等を議論します。

また、経営計画についても、PDCAサイクルによる進行管理を実施し、更なる業務改善や効率化を進めます。

あわせて、外部評価機関としての「高松市立病院を良くする会」や、市長部局との相互理解と相互信頼を深めるための「高松市立病院の医療の確保と健全化をすすめる会」を開催し、病院事業の健全かつ円滑な運営を推進します。



(2) 業務実績報告・目標発表会の開催

診療科、各局、業務委託業者を含めた病院を構成する全組織が一堂に会して、これまでの業務実績を報告するとともに当該年度の目標を発表し、異なる職種間での相互理解と相互信頼を深め、病院の円滑な運営に努めます。

指標(数値目標)

<業務実績報告・目標発表会の職員(非常勤嘱託職員含む)参加割合>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
業務実績報告・目標発表 会職員参加率(%以上)	38 (-)	40 (60)	40	40

(3) 勤務環境の改善

ア 時間外勤務時間の縮減

過重労働を防止し、職員の健康管理を図るとともに、日常性に埋没することなく、日頃から仕事の再定義、再構築を行い、業務改善を推進する観点から、各職場において、時間外勤務時間の縮減に向けて取り組みます。

指標(数値目標)

<時間外勤務時間の縮減割合>

	H26年度見込(実績)	H27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
時間外勤務時間縮減 率(前年度比%以上)	△1.5 (-)	△10 (+44)	△5	△2.5

一体化

1 一体化の推進

(1) 市立病院間の診療面の連携・協調

「市立病院は3つで1つ」、「ファインチームワーク」の精神の下、医師やメディカルスタッフが、それぞれの専門性を十分に発揮して、連携・協調しながら、市立病院での良質な医療の提供に努めます。

ア 医療局

患者ニーズや当院での診療状況等に応じて、高松市民病院や香川診療所から医師派遣を受け、特別診療等を実施します。

イ 看護局

高松市民病院や香川診療所との人員交流(相互応援)を行い、相互理解を深め、信頼関係を築きます。



ウ 薬局

高松市民病院との人員交流(相互応援)や、採用薬品の情報共有等で連携を図り、相互理解を深め、信頼関係を築きます。

エ 医療局(検査技術)

高松市民病院において、当院の診療行為に必要な検体検査を実施し、相互理解を深め、信頼関係を築きます。

オ 放射線技術部門

高松市民病院や香川診療所との人員交流(相互応援)を行い、相互理解を深め、信頼関係を築きます。

カ リハビリテーション部門

高松市民病院からリハビリテーション技師派遣を受け、言語療法業務を実施するとともに、高松市民病院との人員交流(相互応援)を行い、相互理解を深め、信頼関係を築きます。

キ 栄養部門

高松市民病院の栄養科職員と人員交流(相互応援)を行い、相互理解を深め、信頼関係を築きます。

高松市民病院

塩江分院

香川診療所



【香川診療所】

香川診療所体系図

高松市民病院
塩江分院
香川診療所

具体的施策	取組項目		取組項目における具体的な実施内容 (実施施策)
	大分類	小分類	
医療の質の確保			
医療技術			
	1 地域に密着した医療の提供		(1) 総合診療の取り組みと高齢者医療の充実 (2) 小児医療の充実 (3) 予防医療の推進 (4) 地域包括ケアへの対応
	2 医師等の確保機能の強化		(1) 寄附講座の活用 (2) 実習、見学等の受入れの充実
	3 医療安全の強化		(1) 医療安全意識の共有と醸成 (2) 感染管理意識の共有と醸成
	4 医療品質の向上		(1) 診療所幹部によるラウンドの徹底 (2) 学会や研修会での発表
人間関係			
	2 市民との信頼関係の強化		(1) 「私のカルテ」の推進 (2) 教室・講座の拡充(再掲)
アメニティ			
	1 患者の視点に立ったサービスの提供		(1) 患者満足度調査の実施 (2) 待ち時間短縮及び接遇改善 (3) 外来でのサービス拡充
地域社会			
	1 住民参加の医療 ●		(1) 教室・講座の拡充
	2 地域医療連携の強化		(1) 近隣医療機関や市民病院等との連携
	3 子どもたちの健やかな成長への貢献		(1) 学校医としての活動

具体的施策	取組項目		取組項目における具体的な実施内容 (実施施策)
	大分類	小分類	
医療の透明性の確保			
情報の積極的な発信			
	1 情報の積極的な発信		(1) 医療事故等の公表 (2) 住民参加会議の開催 ● (3) 広報活動
医療の効率性の確保			
効率化			
	1 効率化の推進		(1) 省エネルギー活動の推進 (2) 適切な診療報酬の請求 (3) 未収金の発生防止及び回収促進 (4) 人材配置の適正化
管理体制			
	1 管理体制の強化		(1) 病院事業の健全かつ円滑な運営 (2) 業務実績報告・目標発表会の開催 (3) 勤務環境の改善
一体化			
	1 一体化の推進		(1) 市立病院間の診療面の連携・協調

●は重点取組項目

実施施策のうち指標等の状況

(項目数)

実施項目	新	規	2
	計画に新たに掲載		21
	前計画で未達成		1
	前計画で達成したが 必要性から継続		17
	合計		41

廃止項目	前計画で達成	9
	継続の必要性なし	3
	合計	12

医療の質の確保に向けた取組

医療技術

1 地域に密着した医療の提供

香川診療所では、地域に密着した、住民に信頼される医療機関を目指します。

(1) 総合診療の取組と高齢者医療の充実

初期段階での診療を行うプライマリケアに取り組みます。特に、患者の半数以上を占める高齢者に対して、総合診療科での慢性期医療や、眼科での白内障手術などの医療の提供に努めます。

指標(数値目標)

＜眼科の手術件数＞

	平成26年度見込(実績)	平成27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
眼科手術件数(件)	132 (146)	190 (173)	190	190

(2) 小児医療の充実

小中学校・幼稚園・保育所の学校医としての活動、乳幼児(1歳6ヶ月児・3歳児)健康診断などを通じて、地域の子どもたちの健康を見守り支え、定期予防接種の積極的勧奨及び夜間の時間外診療を可能な限り実施して、小児医療の充実を図ります。

指標(数値目標)

＜小児の予防接種実施件数＞

	平成26年度見込(実績)	平成27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
小児予防接種 実施件数(件)	700 (863)	700 (859)	700	700

＜小児夜間救急診療の実施日数＞

	平成26年度見込(実績)	平成27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
夜間救急診療 実施日数(日)	220 (228)	220 (212)	220	220

(3) 予防医療の推進

特定健康診査はもとより、肝炎ウイルス検診、各種のがん検診(大腸がん・前立腺がん・乳がん)及びインフルエンザ予防接種などの予防医療を積極的に実施します。

また、骨密度測定による骨粗しょう症予防教室を地域の集会所等で実施するほか、地域住民の予防医療につながる取組を推進します。



指標(数値目標)

<特定健康診査等の受入件数>

	平成26年度見込(実績)	平成27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
特定健康診査等 受入件数(件)	1,000 (868)	1,000 (897)	1,000 950	1,000 950

※ 特定健康診査のほか、肝炎ウイルス検診、各種のがん検診(大腸がん・前立腺がん・乳がん)を含みます。

<インフルエンザの予防接種実施件数>

	平成26年度見込(実績)	平成27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
インフルエンザ予防 接種実施件数(件)	600 (646)	650 (590)	650	650

<わんコイン健診の受入件数>

	平成26年度見込(実績)	平成27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
わんコイン健診 受入件数(件)	30 (27)	60 (14)	60	60

(4) 地域包括ケアへの対応

地域包括ケアシステム構築の一翼を担うために、診療所では、地域の集会所等に出向き、医療機関として実施できる「糖尿病」、「高血圧」、「白内障」等をテーマとした健康教室等を通して、地域包括ケアに積極的に取り組みます。

2 医師等の確保機能の強化

常勤医師の確保が困難な状況の中、組織全体で医師等の確保機能の強化に努めます。

(1) 寄附講座の活用

国立大学法人香川大学医学部に設置した地域包括医療学講座を十分に活用し、同講座から派遣される医師を通して、診療所の医療機能を維持します。

(2) 実習、見学等の受入れの充実

地域包括医療学講座の取組の一環として、医学科学生の実習・見学等を積極的に受け入れ、地域医療に貢献できる医療人の育成に協力します。

3 医療安全の強化

医療環境の高度化、複雑多様化に伴い、医療従事者の業務作業量は急増しており、肉体的・精神的なプレッシャーの中で診療活動を行うことは、取り返しのつかない事態を引き起こすおそれがあることから、医療安全対策の重要性を再認識することはもとより、日々、職員各々の意識を高め、その共有に努めます。

また、所内感染は、医療機関を運営するに当たって、信用を失墜させ、経営的にも多大な損害を被

ることが見込まれ、有事には、その影響を最小限にとどめる必要があることから、日々、職員各々の意識を高め、その共有に努め、適切な感染対策を施し、万全の体制で臨みます。

(1) 医療安全意識の共有と醸成

毎月開催の全職員で構成する診療所運営会議において医療安全対策の徹底を図ります。

指標(数値目標)

<医療安全研修の開催数>

	平成26年度見込(実績)	平成27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
医療安全研修 開催数(回)	1 (0)	1 (0)	1	1

(2) 感染管理意識の共有と醸成

毎月開催の全職員で構成する診療所運営会議において感染対策の徹底を図ります。

指標(数値目標)

<感染管理研修の開催数>

	平成26年度見込(実績)	平成27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
感染管理研修 開催数(回)	1 (1)	1 (1)	1	1

<針刺事故件数>

	平成26年度見込(実績)	平成27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
針刺事故件数(件)	0 (0)	0 (0)	0	0

4 医療品質の向上

「医療は製品である」という認識の下、提供される医療が現在の医療水準に達し、また、日々進歩し続ける医療技術や知識を更新、習得するための体制づくりを積極的に推進していきます。

(1) 診療所幹部によるラウンドの徹底

所長、看護師長、事務局長によるラウンドを月1回以上行います。

(2) 学会や研修会での発表

学会、研修会に参加した医師やメディカルスタッフが、参加して得た知識・技術等を診療所運営会議などで報告し、スキルアップに努めます。



指標(数値目標)

<研究発表・論文発表件数>

	平成26年度見込(実績)	平成27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
研究発表・論文 発表件数(件)	1 (1)	1 (1)	1	1

人間関係

1 市民との信頼関係の強化

各職種の職員が、それぞれの専門的知識・能力をもって、患者を含む市民の QOL を高め、回復力や予防力の向上に資する指導や相談事業を積極的に実施しながら、住民参加型の医療を、より身近に提供できるよう、信頼関係の強化に全力で取り組みます。

(1) 「私のカルテ」の推進

検査・処方内容などの診療情報を提供する「私のカルテ」を、全診療科で推進し、患者本人や家族と診療情報等を共有し、わかりやすく、透明性のある医療を目指すことで、医師や看護師等と患者の信頼関係を構築します。

また、「私のカルテ」への患者の満足度や活用状況を全診療科でアンケートし、より患者の信頼が得られるものとなるように改善します。

指標(数値目標)

<発行累計数>

	平成26年度見込(実績)	平成27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
発行累計数(人)	3,100 (3,097)	3,400 (3,441)	3,700	4,000

<活用率>

	平成26年度見込(実績)	平成27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
小児科 活用率(%)	90 (-)	90 (-)	90	90

	平成26年度見込(実績)	平成27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
小児科以外 活用率(%)	- (88)	70 (-)	70	70

(2) 教室・講座の拡充(再掲)

地域社会 1(1) P 6 9 参照

アメニティ

1 患者の視点に立ったサービスの提供

患者の視点から、職員一人一人が更なる意識の向上を図り、より質の高いサービスを提供することに重点を置いて、各種方策に取り組みます。

(1) 患者満足度調査の実施

外来患者を対象に、患者満足度調査を実施し、その向上を目指します。また、調査結果を十分に分析した上で、改善できるところは早急に実行し、回答結果もあわせて公表します。

(2) 待ち時間短縮及び接客改善

ア 待ち時間の短縮

外来患者の受付から会計終了までの所要時間を定期的に計測し、流れや手続等の再検討など必要に応じて改善策を講じます。

イ 意見箱の設置

接客アンケートを実施するほか、診療所内に常設する意見箱に寄せられる意見や要望等について、診療所運営会議等において職員全員で情報共有し、改善策を協議します。

ウ 接客改善の取組

OJT(On the Job Training:職場内研修)として、常日頃から接客改善に関する意識啓発に取り組むとともに、常設する接客アンケート箱や御意見箱に寄せられた御意見等を踏まえ、診療所内独自の接客研修会を開催するほか、市役所本庁で開催する接客研修会にも積極的に参加し、職員全員で接客改善に取り組めます。

(3) 外来のサービス拡充

地域の保育所・幼稚園・小中学校の児童生徒等から、絵画等の作品を借り受け、診療所内で定期的に企画展示を催すことにより、開かれた診療所として、アメニティの向上と地域との一体感の醸成に取り組めます。

指標(数値目標)

<診療所内の企画展示用提供作品数>

	平成26年度見込(実績)	平成27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
診療所内企画展示 用提供作品数(品)	50 (50)	50 (56)	50	50

地域社会

1 住民参加の医療

(1) 教室・講座の拡充

地域住民の要望に沿った演題や場所など、多様なニーズに応え、寄附講座の派遣医師を含めて診療所スタッフが講師となり、健康教室や出張講座、さらには健康相談を積極的に開催し、診療所と住民が共に進める医療に取り組みます。

指標(数値目標)

<健康教室の開催数>

	平成26年度見込(実績)	平成27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
健康教室 開催数(回)	2 (1)	3 (2)	3	3

<出張講座の開催数>

	平成26年度見込(実績)	平成27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
出張講座 開催数(回)	22 (24)	24 (33)	24 36	24 40

2 地域医療連携の強化

(1) 近隣医療機関や市民病院等との連携

入院が必要な患者や、より専門的な治療を必要とする患者については、患者の意向も尊重しながら、市民病院や近隣の医療機関等に適切に紹介します。

指標(数値目標)

<紹介患者数>

	平成26年度見込(実績)	平成27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
逆紹介 患者数(人)	350 (364)	350 (344)	350	350

3 子どもたちの健やかな成長への貢献

(1) 学校医としての活動

地域の小中学校・幼稚園・保育所の学校医として、子どもたちの健康管理に積極的に関わり、健やかな成長に貢献します。

指標(数値目標)

<学校医の指定校数>

	平成26年度見込(実績)	平成27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
学校医指定校数 (校(園))	8 (8)	8 (8)	8	8



医療の透明性の確保に向けた取組

情報の積極的な発信

1 情報の積極的な発信

(1) 医療事故等の公表

医療の高度化、複雑化に伴い、病院スタッフは、日々研鑽を重ねて、専門的知識・技能を駆使しながら、安全で安心な医療を提供し、市民から信頼される病院であり続けるために努力しています。

その一方で、万が一、医療事故等が発生した場合には、医療事故等の公表に関する一定の基準として、「高松市立病院医療事故等公表基準」を定め、インシデント・アクシデント件数をホームページで引き続き公表するのを始め、特に公表する医療事故について、原因の分析・究明及び再発防止策等の評価・提言を行う「高松市病院局医療安全評価委員会」を設置しており、病院運営の透明性を高め、医療現場における安全管理の向上と事故防止に組織的に取り組みます。

(2) 住民参加会議の開催

「住民参加型の医療」を提供するために、引き続いて診療所の経営戦略会議に地域住民の代表者の出席を求めるとともに、香川町の支所、保健センター及び地域包括支援センター職員にも同席を求め、地域における診療所の果たすべき役割について協議・検討します。

指標(数値目標)

<経営戦略会議の住民参加人数>

	平成26年度見込(実績)	平成27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
経営戦略会議住民参加人数(平均 人/回)	5 (5)	6 (5.3)	6	6

(3) 広報活動

健康教室・出張講座の実施報告等を掲載する「香川診療所だより」を定期的に発行し、積極的な情報発信に努めるとともに、利用者を始め、市民が、特に知りたい、又は役立つ情報をホームページで提供するなど、広報活動を通じて、親しみやすく、利用しやすい診療所づくりを推進します。

医療の効率性の確保に向けた取組

効率化

1 効率化の推進

(1) 省エネルギー活動の推進

地球温暖化への対応はもとより、増え続ける光熱水費の抑制を図るとともに、リサイクル意識の醸成を促し、省エネルギー活動に積極的に取り組み、効率化の推進を図ります。

指標(数値目標)

<電力使用量の削減>

	平成26年度見込(実績)	平成27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
電力使用量削減率 (前年度比%以上)	△8 (△6.6)	△3 (△0.5)	△2	△1

(2) 適切な診療報酬の請求

医師、メディカルスタッフ、事務、医療事務委託業者等との間で、連携を強化し、診療報酬制度の改定や国の制度変更に迅速に対応するとともに、適正かつ厳密に診療報酬を請求するように努め、請求漏れや査定減がないように取り組みます。

指標(数値目標)

<診療報酬請求額の査定率>

	平成26年度見込(実績)	平成27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
診療報酬請求額 査定率(%以内)	0.3 (0.3)	0.25 (0.24)	0.25	0.25

※査定率 = (査定額) / (外来・入院診療費) × 100

(3) 未収金の発生防止及び回収促進

ア 現年分収納率の向上

患者の診療費用については、支払相談の充実等により未収金の発生防止に努めます。また、未収金が発生した場合には、速やかに滞納者と接触し、納入指導を徹底し、回収に努めます。

指標(数値目標)

<現年分収納率の向上>

	平成26年度見込(実績)	平成27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
現年分収納率(%)	99.9 (99.8)	99.9 (99.7)	99.9	99.9



イ 未収金の回収促進

未収金回収業務として、弁護士に委託し、効率的な債権回収を進めるほか、本市収納対策推進本部と連携を図るとともに、少額訴訟や支払督促など、法的措置の実施も視野に入れ、回収への取組を強化します。

指標(数値目標)

<過年度未収金の回収率>

	平成26年度見込(実績)	平成27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
過年度未収金	2.3	2.3	2.3	2.3
回収率(%)	(2.3)	(4.7)	2.5	2.5

(4) 人材配置の適正化

組織は人なりの観点から、適材適所の配置に努め、人材の有効活用をより一層推進します。

管理体制

1 管理体制の強化

(1) 病院事業の健全かつ円滑な運営

「経営の安定なくして、良質な医療なし」の考えに則り、病院事業管理者の下、幹部職員による病院局及び各病院・診療所で開催する経営戦略会議において、市立病院を取り巻く諸課題について、情報共有を図るとともに、問題意識をもって病院運営の現状を把握し、必要な改善を講じ、さらには将来を見据えた戦略的な取組等を議論します。

また、経営計画についても、PDCAサイクルによる進行管理を実施し、更なる業務改善や効率化を進めます。

あわせて、外部評価機関としての「高松市立病院を良くする会」や、市長部局との相互理解と相互信頼を深めるための「高松市立病院の医療の確保と健全化をすすめる会」を開催し、病院事業の健全かつ円滑な運営を推進します。

(2) 業務実績報告・目標発表会の開催

診療科、各局、業務委託業者を含めた診療所を構成する全組織が一堂に会して、これまでの業務実績を報告するとともに当該年度の目標を発表し、異なる職種間での相互理解と相互信頼を深め、診療所の円滑な運営に努めます。

(3) 勤務環境の改善

ア 時間外勤務時間の縮減

過重労働を防止し、職員の健康管理を図るとともに、日常性に埋没することなく、日頃から仕事の再定義、再構築を行い、業務改善を推進する観点から、各職場において、時間外勤務時間の縮減に向けて取り組みます。



指標(数値目標)

<時間外勤務時間の縮減割合>

	平成26年度見込(実績)	平成27年度(実績)	平成28年度	平成29年度
時間外勤務時間縮減率(前年度比%以上)	△16 (△13.4)	△7 (△7.4)	△5	△3

一体化

1 一体化の推進

(1) 市立病院間の診療面の連携・協調

「市立病院は3つで1つ」、「ファインチームワーク」の精神の下、医師やメディカルスタッフが、それぞれの専門性を十分に発揮して、連携・協調しながら、市立病院での良質な医療の提供に努めます。

ア 医療局

患者ニーズや当診療所での診療状況等に応じて、高松市民病院や塩江分院から医師派遣を受け、特別診療等を実施します。

イ 看護局

高松市民病院や塩江分院との人員交流(相互応援)を行い、相互理解を深め、信頼関係を築きます。

ウ 検査技術部門

高松市民病院との人員交流(相互応援)を行い、相互理解を深め、信頼関係を築きます。

エ 放射線技術部門

高松市民病院や塩江分院との人員交流(相互応援)を行い、相互理解を深め、信頼関係を築きます。



V 経営形態

平成23年4月から、経営形態を地方公営企業法の全部適用に移行しました。引き続き、これを維持しながら、そのメリットを最大限生かし、病院事業管理者の下、医療と経営の両面において、適時適切な改善方策を実行します。

VI 再編・ネットワーク化

高松市民病院と高松市民病院附属香川診療所を移転統合した高松市新病院を整備し、高松市民病院塩江分院をその附属医療施設とする、新病院整備事業を行っています。

急性期及び回復期の患者は新病院で、また、慢性期の患者は附属医療施設で対応するほか、慢性期に移行する患者を新病院から附属医療施設へ転院させるなどの一体的な運用に努めることとしています。

また、次の業務の全部又は一部についても一体的な運用に努めることとしています。

ア 医師、言語聴覚士、診療放射線技師等の応援

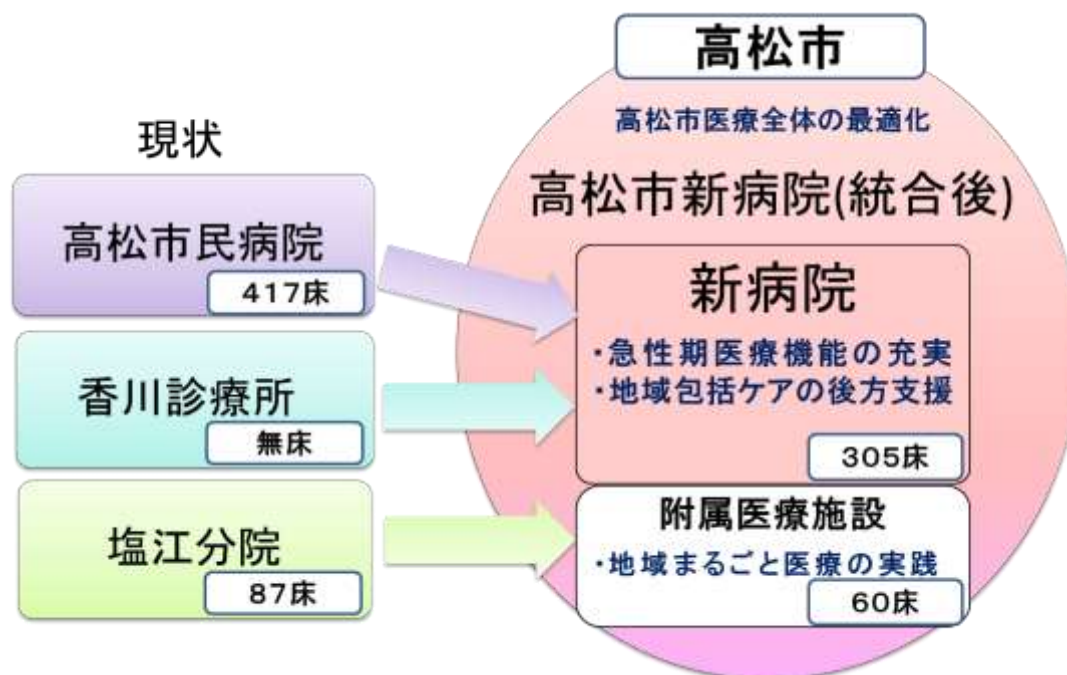
イ 医療情報システム及び物品管理情報システムの運用一元化

ウ 病態に応じた患者の転院等

エ 診療材料、薬品の単価契約及び医事業務、守衛警備業務等の委託業務の一元化

オ 医療機器等の保守業務の一元化

カ 人事、出納（病院窓口での収入業務除く）、財政、例規作成等の業務の一元化



1 新病院

新病院は、急性期病院として、「がん医療」や「救急医療」などに重点的に取り組むとともに、「地域包括ケア病棟」を設置するなど、地域包括ケアの「後方支援機能の強化」を図ることとしています。



(1) 医療機能

ア 病床数 305床(一般病床299床、感染症病床6床)

イ 診療科 24診療科(予定)

内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、臨床検査科、麻酔科、歯科口腔外科

(2) 整備状況

平成30年度前半の開院に向けて、計画的な整備に努めています。

H24. 2～3 新病院整備地造成(既存施設解体)工事

H24. 12～25. 8 新病院整備地造成(整地)工事

H26. 11～27. 12 新病院整備地造成工事

H26. 12～27. 12 新病院雨水調整池整備工事

H27. 12～30. 5(予定) 新病院建設(新築・電気設備・機械設備)工事

2 附属医療施設

附属医療施設は、山間部に位置する塩江地区唯一の医療機関として、訪問診療、訪問看護など、医療と福祉が一体となった「地域まるごと医療」を実践します。

(1) 医療機能(※)

ア 病床数 60床程度(医療療養病床60床程度)

イ 診療科 7診療科(予定)

内科、外科、脳神経外科、整形外科、皮膚科、リハビリテーション科、歯科

※ 慢性期医療や医療提供体制の在り方については、国・県において検討を行っており、その状況も踏まえ、病床数など塩江地域における医療の在り方について、今後、検討します。

(2) 整備状況

整備場所について、地元地域審議会や市議会の意見も聴きながら幅広い視点で検討します。

VII 地域医療構想を踏まえた役割の明確化

1 地域医療構想

地域医療構想は、団塊の世代が75歳以上となる平成37年に向け、病床の機能分化・連携を図るため、4つの医療機能(高度急性期、急性期、回復期、慢性期)ごとに37年の医療需要と病床の必要量、及び、その実現のための施策を都道府県が定めるものであり、香川県においては平成28年10月17日に公示されました。

関係者においては、今後、同構想の実現に向け、自主的な取組を行うとともに、毎年度の病床機能報告制度の報告内容と構想における必要病床数を比較して、機能分化・連携について調整するものとされています。

(1) 構想区域

一体の区域として地域における病床機能の分化及び連携を推進することが相当であると認められる



区域を「構想区域」として設定しています。

構想区域	二次保健医療圏	市 町
東部構想区域	大川保健医療圏	さぬき市 東かがわ市
	高松保健医療圏	高松市 三木町 直島町
小豆構想区域	小豆保健医療圏	土庄町 小豆島町
西部構想区域	中讃保健医療圏	丸亀市 坂出市 善通寺市 宇多津町 綾川町 琴平町 多度津町 まんのう町
	三豊保健医療圏	観音寺市 三豊町

(2) 平成37年における医療需要及び必要病床数等の推計

東部構想区域においては、県内他区域からの医療需要の流入が予想されていますが、それでも急性期及び慢性期の必要病床数は平成26年度より大幅に減少するとされています。

構想区域	医療機能	H26現状 病床機能報告	H37必要数 地域医療構想	増減率
東部構想区域	高度急性期	1,084	607	56.0%
	急性期	3,239	1,853	57.2%
	回復期	560	1,698	303.2%
	慢性期	1,485	1,093	73.6%

(3) 地域医療を推進するための施策

ア 医療機関の自主的な取組と相互の協議の推進

「地域医療構想調整会議」において、毎年度の病床機能報告の内容と構想における必要病床数を比較し、各医療機関においては、これらの情報を踏まえ、将来目指していく方向性を検討することなどが定められています。

イ 病床の機能の分化及び連携の推進

不足する医療機能(回復期)を提供する病床への転換を促進するとともに、病院、診療所、介護施設等の連携体制を構築することが定められています。

ウ 在宅医療等の充実

在宅医療を行う医療機関の確保などが定められています。

エ 医療従事者の確保・養成

若手医師の定着の促進、診療科・地域における人材の偏在の緩和、看護職員の養成・離職防止・再就業支援、医療従事者の働きやすい環境の整備が定められています。

2 地域医療構想を踏まえた本市病院事業における役割

(1) 医療機関の自主的な取組と相互の協議の推進

地域医療構想調整会議に参画し、構想の進捗状況を踏まえ、将来目指していく方向性を随時検討



するとともに、他の医療機関・介護施設等との更なる連携体制の構築に努めます。

(2) 病床の機能の分化及び連携の推進

病床の機能の分化及び連携を推進するため、市民病院ではリーディングホスピタルとして高松市医療全体の最適化に努めるとともに、塩江分院では地域まるごと医療の実践に取り組みます。

また、急性期に当たる市民病院では、平成37年の必要病床数を見据えた検討を要しますが、先述した「再編・ネットワーク化」に伴い、既に112床の削減(△26.9%)を予定しているほか、回復期に当たる地域包括ケア病床を44床設置することとしています。また、新病院整備後においても構想の進捗状況を注視し、患者の状況に応じた医療提供体制の充実に努めます。

また、慢性期に当たる塩江分院においても附属医療施設の整備に伴い、27床の削減(△31%)を予定しています。

なお、平成17年度の近隣6町との市町合併時点における市立病院及び香川診療所の一般病床数は467床であり、これに対する新病院は299床と、168床の削減(△36%)となっています。

(3) 在宅医療等の充実

市民病院においては、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けられるように、医療・介護・予防・住まい・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアシステムの中で、その後方支援の役割を果たすために、地域包括ケア病棟の開設を始め、関係機関との連携等により在宅復帰率の向上を図ります。 医療技術1(3) P22 参照

塩江分院においては、高齢者を中心とした地域住民が、住み慣れた地域社会で、引き続き、在宅生活を送ることができるよう、訪問診療・訪問歯科・訪問看護・訪問リハビリテーションなどの訪問事業を推進します。 医療技術1(1) P48 参照

(4) 医療従事者の確保・養成

ア 若手医師の定着の促進

市民病院においては、医学科学生の実習・見学について、受入体制の充実に努め、積極的に受入れを行います。 医療技術2(6) P24 参照

また、消化器内科領域の医療の充実強化と医師確保により、地域医療の質の向上に寄与することを目的とした寄附講座を関連大学に設置します。 医療技術2(1) P23 参照

塩江分院においては、臨床研修医の研修プログラムの充実を図り、地域医療の「つどい」in 塩江(1泊2日研修)の実施などにより、地域医療を担う医師の育成に努めるほか、地域包括医療学講座の取組の一環として、医学科学生及び臨床研修医に地域密着型臨床実習の場を提供することにより、地域医療に貢献できる医療人の育成に協力します。 医療技術2(2)、(3) P49 参照

なお、地域医療に貢献できる医療人の育成については香川診療所においても実践します。

医療技術2(2) P66 参照

イ 看護職員の養成、離職防止、再就業支援

人材確保及び人材育成の観点から、また圏域でのリーディングホスピタルとしての機能を発揮するため、実習生等を積極的に受け入れます。 医療技術3(3) P25 参照



ウ 医療従事者の働きやすい環境の整備

過重労働を防止し、職員の健康管理を図るとともに、日常性に埋没することなく日頃から仕事を再定義・再構築して業務改善を推進する観点からも、各職場において、時間外勤務時間の縮減に向けて取り組みます。 管理体制1(4) P45、1(3)P62、1(3)P73 参照



Ⅷ 収支計画

1 収支計画の考え方

(1) 前提条件

ア 平成26、27年度は実績を記載している。

イ 平成28、29年度の前提条件は、下記のとおりとしている。なお、28年度は、運転資金不足に伴う他会計からの長期借入を含む。

ウ 資本的収支について、新病院整備事業は平成30年度前半の開院を想定した事業費を計上し、また附属医療施設は整備場所が未確定であることから事業費は計上していない。

<収益的収入及び支出(税抜)>

収益	入院収益・外来収益	目標年間患者数、患者一人当たり診療収益を設定して計上
	訪問看護収益	療養、介護の区分ごとに、目標年間利用者数、訪問看護収益を設定して計上
	一般会計負担金	繰出基準に基づき、一般会計負担金を計上
費用	給与費	正規職員数(再任用含む)については、人員計画を踏まえて計上 定期昇給は見込まない(新陳代謝と相殺) 退職給付費は、退職給付引当金繰入額に加え、栄養・事務・技能職の定年退職手当を計上
	材料費(薬品費・診療材料費)	目標年間患者数、患者一人当たり診療収益を設定して計上
	減価償却費	前々年度までの既取得資産分確定値に前年度新規取得資産分を反映させて計上
	支払利息及び企業債取扱諸費	企業債利息は、前々年度までの既借入分確定額に前年度新規借入分を反映させて計上 (医療機器等整備事業は年1.0%、新病院整備事業は2.1%で計算)
上記以外		27年度予算を基準に計上

<資本的収入及び支出(税込)>

収入	企業債	建設改良費のうち起債対象分は全額計上(出資金を除く)
	一般会計出資金	合併特例債又は過疎対策事業債の対象分を計上
	一般会計負担金	元金償還金及び新病院整備事業(附属医療施設含む)に要する経費を計上
支出	建設改良費	新病院整備事業については、30年度前半の開院を前提のスケジュール等を踏まえて計上 現病院での医療機器等整備事業については、新病院開院準備のため、28、29年度は計上しない。
	企業債償還金	前々年度までの既借入分確定額に前年度新規借入分を反映させて計上
	上記以外	27年度予算と同額を計上



2 病院事業全体

(単位:人)

	実績		見込み	目標
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
入院患者数	92,931	79,992	78,303	94,415
1日当たり入院患者数	254	218	215	259
外来患者数	148,447	135,575	129,624	141,594
訪問看護利用者数	2,696	2,730	2,800	2,820

(単位:千円【税抜】)

病院事業収益	医業収益	5,829,862	5,250,906	5,189,700	6,477,869
	うち 入院収益	3,606,355	3,147,139	3,223,651	4,198,752
	うち 外来収益	1,683,989	1,582,796	1,479,232	1,770,734
	うち 一般会計繰入金	207,873	209,317	211,123	232,515
	医業外収益	1,298,518	1,254,430	1,256,340	1,361,779
	うち 一般会計繰入金	1,110,389	1,055,068	1,071,852	1,142,162
	附帯事業収益	20,548	20,477	20,752	21,038
	経常収益A	7,148,928	6,525,813	6,466,792	7,860,686
	特別利益	3,407	118,727	11,699	520
	総収益(合計)B	7,152,335	6,644,540	6,478,491	7,861,206
病院事業費用	医業費用	7,141,948	6,869,874	6,963,762	7,468,215
	うち 給与費	4,572,139	4,487,578	4,579,889	4,871,960
	うち 退職給付費	127,849	26,637	171,837	230,451
	うち 材料費	1,149,521	1,029,157	981,579	1,156,184
	うち 経費	966,895	913,046	928,341	946,439
	うち 減価償却費	413,179	402,917	437,012	403,731
	医業外費用	199,081	183,940	237,919	287,705
	うち 企業債利息	22,477	20,325	19,464	43,365
	附帯事業費用	26,188	28,743	28,330	28,330
	経常費用C	7,367,217	7,082,557	7,230,011	7,784,250
特別損失	3,841,504	26,648	34,369	101,382	
総費用(合計)D	11,208,721	7,109,205	7,264,380	7,885,632	

経常損益 A-C	△ 218,289	△ 556,744	△ 763,219	76,436
純損益 B-D	△ 4,056,386	△ 464,665	△ 785,889	△ 24,426

(単位:千円【税込】)

資本的収入	企業債	72,000	919,900	673,800	6,431,600
	繰入金	262,347	299,070	329,876	2,308,018
	その他	0	0	39,976	562,065
	合計	334,347	1,218,970	1,043,652	9,301,683
資本的支出	建設改良費	204,597	1,079,409	968,643	9,067,062
	企業債償還金	262,074	191,059	146,846	241,158
	その他	1,100	0	2,400	2,500
	合計	467,771	1,270,468	1,117,889	9,310,720

※資本的収入額が資本的支出額に不足する額は、損益勘定留保資金等で補てんする。

(単位:千円)

年度末実質現金残高	1,091,844	528,787	※ 563,126	236,580
()は貸借対照表上の残高	(781,773)	(553,786)	(333,817)	(1,859,694)
＜繰入金＞(再掲) ※長期借入7.8億円含む (単位:千円)				
一般会計繰入金合計	1,580,609	1,563,455	1,612,851	3,682,695
収益的収入繰入金計	1,318,262	1,264,385	1,282,975	1,374,677
資本的収入繰入金計	262,347	299,070	329,876	2,308,018



3 高松市民病院

(単位:人)

	実績		見込み	目標
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
入院患者数	69,801	57,918	53,603	69,715
1日当たり入院患者数	191	158	147	191
外来患者数	88,695	76,532	69,124	81,496
訪問看護利用者数				

(単位:千円〔税抜〕)

病院事業収益	医業収益	4,970,833	4,425,546	4,289,557	5,574,449
	うち入院収益	3,258,638	2,811,155	2,835,421	3,807,040
	うち外来収益	1,203,571	1,124,247	994,986	1,286,694
	うち一般会計繰入金	207,873	209,317	211,123	232,515
	医業外収益	985,330	935,679	925,982	1,021,872
	うち一般会計繰入金	813,708	753,755	759,167	816,879
	附帯事業収益	0	0	0	0
	経常収益A	5,956,163	5,361,225	5,215,539	6,596,321
	特別利益	917	72,514	11,679	500
	総収益(合計)B	5,957,080	5,433,739	5,227,218	6,596,821
病院事業費用	医業費用	6,058,863	5,812,853	5,826,032	6,325,007
	うち給与費	3,875,704	3,798,448	3,849,532	4,128,878
	うち退職給付費	107,594	26,637	150,215	196,104
	うち材料費	960,005	856,123	791,415	967,350
	うち経費	833,809	781,144	776,464	794,562
	うち減価償却費	352,756	342,690	376,473	349,110
	医業外費用	169,911	156,250	193,864	237,348
	うち企業債利息	20,269	18,506	17,719	41,808
	附帯事業費用	0	0	0	0
	経常費用C	6,228,774	5,969,103	6,019,896	6,562,355
特別損失	3,173,509	23,575	31,849	98,862	
総費用(合計)D	9,402,283	5,992,678	6,051,745	6,661,217	

経常損益 A-C	△ 272,611	△ 607,878	△ 804,357	33,966
純損益 B-D	△ 3,445,203	△ 558,939	△ 824,527	△ 64,396

資本的収入	企業債繰入金	63,100	871,200	673,800	6,431,600
	繰入金	234,712	279,668	322,961	2,300,620
	その他	0	0	39,976	562,065
	合計	297,812	1,150,868	1,036,737	9,294,285
資本的支出	建設改良費	179,521	1,067,262	968,643	9,067,062
	企業債償還金	227,832	164,743	136,236	228,977
	その他	1,100	0	2,400	2,500
	合計	408,453	1,232,005	1,107,279	9,298,539

※資本的収入額が資本的支出額に不足する額は、損益勘定留保資金等で補てんする。

(単位:千円)

年度末実質現金残高	639,717	△ 34,136	△ 61,585	△ 496,933
()は貸借対照表上の残高	(382,119)	(58,866)	※(△ 274,677)	1,169,057
＜繰入金＞(再掲) ※長期借入7.8億円含む (単位:千円)				
一般会計繰入金合計	1,256,293	1,242,740	1,293,251	3,350,014
収益的収入繰入金計	1,021,581	963,072	970,290	1,049,394
資本的収入繰入金計	234,712	279,668	322,961	2,300,620



4 塩江分院

(単位:人)

	実績		見込み	目標
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
入院患者数	23,130	22,074	24,700	24,700
1日当たり入院患者数	63	60	68	68
外来患者数	26,542	25,867	26,200	25,700
訪問看護利用者数	2,696	2,730	2,800	2,820

(単位:千円【税抜】)

病院事業収益	医業収益	631,547	599,736	665,783	666,475
	うち入院収益	347,717	335,984	388,230	391,712
	うち外来収益	269,929	249,888	264,807	262,017
	うち一般会計繰入金	0	0	0	0
	医業外収益	222,613	219,716	222,092	231,179
	うち一般会計繰入金	210,011	206,626	208,853	221,463
	附帯事業収益	20,548	20,477	20,752	21,038
	経常収益A	874,708	839,929	908,627	918,692
	特別利益	80	44,552	10	10
	総収益(合計)B	874,788	884,481	908,637	918,702
病院事業費用	医業費用	789,379	765,950	830,568	836,771
	うち給与費	529,370	520,710	556,930	569,655
	うち退職給付費	20,255	0	17,171	29,896
	うち材料費	158,848	145,512	159,100	157,682
	うち経費	76,155	76,764	88,869	88,869
	うち減価償却費	22,444	21,083	21,969	16,865
	医業外費用	22,035	20,856	36,635	41,255
	うち企業債利息	1,955	1,757	1,618	1,453
	附帯事業費用	26,188	28,743	28,330	28,330
	経常費用C	837,602	815,549	895,533	906,356
特別損失	514,179	2,455	1,400	1,400	
総費用(合計)D	1,351,781	818,004	896,933	907,756	

経常損益 A-C	37,106	24,380	13,094	12,336
純損益 B-D	△ 476,993	66,477	11,704	10,946

資本的収入	企業債繰入金	1,000	44,200	0	0
	繰入金	11,966	13,082	5,942	5,775
	その他	0	0	0	0
	合計	12,966	57,282	5,942	5,775
資本的支出	建設改良費	2,992	5,905	0	0
	企業債償還金	16,996	16,879	8,664	8,935
	その他	0	0	0	0
	合計	19,988	22,784	8,664	8,935

※資本的収入額が資本的支出額に不足する額は、損益勘定留保資金等で補てんする。

(単位:千円)

年度末実質現金残高	340,029	390,306	408,116	469,802
()は貸借対照表上の残高	(266,839)	(349,947)	(388,566)	(425,132)

<繰入金> (再掲)

(単位:千円)

一般会計繰入金合計	221,977	219,708	214,795	227,238
収益的収入繰入金計	210,011	206,626	208,853	221,463
資本的収入繰入金計	11,966	13,082	5,942	5,775



5 香川診療所

(単位:人)

	実績		見込み	目標
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
入院患者数				
1日当たり入院患者数				
外来患者数	33,210	33,176	34,300	34,398
訪問看護利用者数				

(単位:千円〔税抜〕)

病院事業収益	医業収益	227,482	225,624	234,360	236,945
	うち入院収益	0	0	0	0
	うち外来収益	210,489	208,661	219,439	222,024
	うち一般会計繰入金	0	0	0	0
	医業外収益	90,575	99,035	108,266	108,728
	うち一般会計繰入金	86,670	94,687	103,832	103,820
	附帯事業収益	0	0	0	0
	経常収益A	318,057	324,659	342,626	345,673
	特別利益	2,410	1,661	10	10
	総収益(合計)B	320,467	326,320	342,636	345,683
病院事業費用	医業費用	293,706	291,071	307,162	306,437
	うち給与費	167,065	168,420	173,427	173,427
	うち退職給付費	0	0	4,451	4,451
	うち材料費	30,668	27,522	31,063	31,152
	うち経費	56,931	55,138	63,008	63,008
	うち減価償却費	37,979	39,144	38,570	37,756
	医業外費用	7,135	6,834	7,420	9,102
	うち企業債利息	253	62	127	104
	附帯事業費用	0	0	0	0
	経常費用C	300,841	297,905	314,582	315,539
特別損失	153,816	618	1,120	1,120	
総費用(合計)D	454,657	298,523	315,702	316,659	

経常損益 A-C	17,216	26,754	28,044	30,134
純損益 B-D	△ 134,190	27,797	26,934	29,024

資本的収入	企業債繰入金	7,900	4,500	0	0
	繰入金	15,669	6,320	973	1,623
	その他	0	0	0	0
	合計	23,569	10,820	973	1,623
資本的支出	建設改良費	22,084	6,242	0	0
	企業債償還金	17,246	9,437	1,946	3,246
	その他	0	0	0	0
	合計	39,330	15,679	1,946	3,246

※資本的収入額が資本的支出額に不足する額は、損益勘定留保資金等で補てんする。

(単位:千円)

年度末実質現金残高	112,098	172,617	216,595	263,711
()は貸借対照表上の残高	(132,815)	(144,973)	(219,928)	(265,505)

<繰入金> (再掲)

(単位:千円)

一般会計繰入金合計	102,339	101,007	104,805	105,443
収益的収入繰入金計	86,670	94,687	103,832	103,820
資本的収入繰入金計	15,669	6,320	973	1,623



Ⅸ 経営計画の推進

1 点検・評価

本計画の進捗状況や取組内容については、前経営健全化計画と同様、外部の有識者で構成する「高松市立病院を良くする会」において、総合的な点検・評価を毎年度実施するとともに、「良くする会」からの意見・提言を踏まえて、取組方法の見直しや効率化を行うなど、PDCAサイクルによる進行管理を行います。

また、市長と病院事業管理者及び市長部局と病院局の幹部職員で構成する「高松市立病院の医療の確保と健全化をすすめる会」において、本計画の取組状況を報告し、意見交換を行います。

2 公表

「高松市立病院を良くする会」の審議概要及び各年度の取組状況に係る評価結果報告書等については、ホームページにおいて公表します。

高松市立病院を良くする会

外部有識者の専門的・客観的視点からの意見を得て、医療の質、透明性及び効率性の向上並びに病院事業の経営健全化を図り、市民を支え、市民のための病院の実現に資することを目的として、前身となる経営評価委員会の委員構成を改めて平成23年6月1日に設置

高松市立病院を良くする会は、病院事業の次に掲げる事項について、必要な提言を行う。

- ① 高松市病院事業経営改革計画の策定、見直しおよび進捗状況の評価に関すること。
- ② 高松市立病院の経営の改善に関すること。
- ③ 市民のための病院の実現に必要な事項に関すること。

【構成委員】

(H28.6 現在)

職名	氏名	現職等
会長	谷田 一久	株式会社 ホスピタルマネジメント研究所 代表
副会長	神内 仁	一般社団法人 高松市医師会 会長
委員	中村 明美	公益社団法人 香川県看護協会 会長
委員	二島 多恵	公募委員 香川がん患者おしゃべり会 代表
委員	藤田 徳子	株式会社 フェアリー・テイル 代表取締役
委員	横見瀬 裕保	国立大学法人 香川大学医学部附属病院 病院長
委員	吉田 静子	高松市婦人団体連絡協議会 副会長
委員	和田 頼知	有限責任監査法人 トーマツ 公認会計士

(敬称略 委員は五十音順)



高松市立病院の医療の確保と健全化をすすめる会

病院事業開設者である市長と病院事業管理者及び市長部局と病院局の相互理解と相互信頼を深めるとともに、医療の質、透明性及び効率性の向上並びに病院事業の経営の健全化を全庁的に推進することを目的として、経営戦略上の諸課題について意見交換するため平成23年6月1日に設置

【組織】

(H27.1 現在)

市長部局	市長、副市長、市民政策局長、総務局長、財政局長、健康福祉局長、保健所長、政策課長、人事課長、財政課長、地域医療対策室長
病院局	病院事業管理者、病院局長、病院局次長、市民病院院長、市民病院塩江分院院長、市民病院附属香川診療所所長、市民病院看護局長、市民病院塩江分院看護局長、市民病院附属香川診療所看護師長、市民病院事務局長、市民病院塩江分院事務局長、市民病院附属香川診療所事務局長



【資料編】



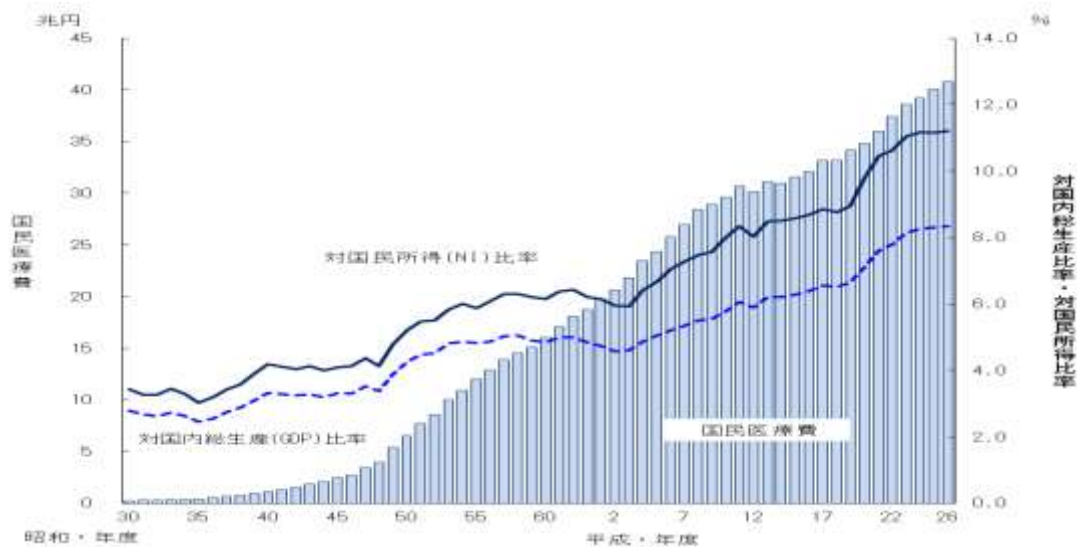
目 次

(資料1) 医療を取り巻く環境	1
(資料2) 重点取組事項	2
(資料3) 高松市立病院を良くする会(開催状況・評価結果報告書)	6
(資料4) 高松市立病院の医療の確保と健全化をすすめる会(開催状況)	20
(資料5) 収支計画算定基礎数値	21
(資料6) 参考データ	24



■(資料1)医療を取り巻く環境

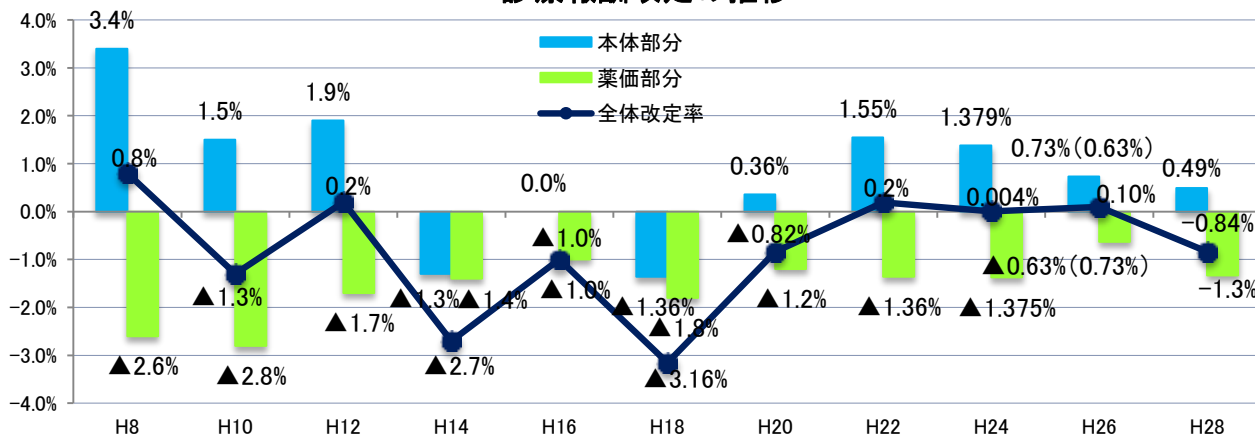
国民医療費・対国内総生産及び対国民所得比率の年次推移



病院事業を取り巻く環境と経営計画等

社会保障・税一体改革		25	26	27	28	29	30	31	32	33	
		H25施行 持続可能な社会保障制度の確立を図るための改革の推進に関する法律(病床機能報告制度、病床機能分化及び連携、地域包括ケア等)									
国	医療法	H26改正 → 医療機関から県に医療機能の報告、県はそれをもとに地域医療構想(ビジョン)を保健医療計画において策定									
	診療報酬	H26改定			H28改定		H30改定		H32改定		
	介護報酬	H27改定				H30改定					
県	保健医療計画	H25~H29第6次計画					H30~H34第7次計画				
	高齢者保健福祉計画	H24~H26第5期計画			H27~H29第6期計画			H30~H32第7期計画			
国	高齢者保健福祉計画	H24~H26第5期計画			H27~H29第6期計画			H30~H32第7期計画			
	病院事業経営健全化計画	H24~H26第5期計画			H27~H29第6期計画			H30~H32第7期計画			
	新病院等整備	整備中					H30 前半開院予定				

診療報酬改定の推移



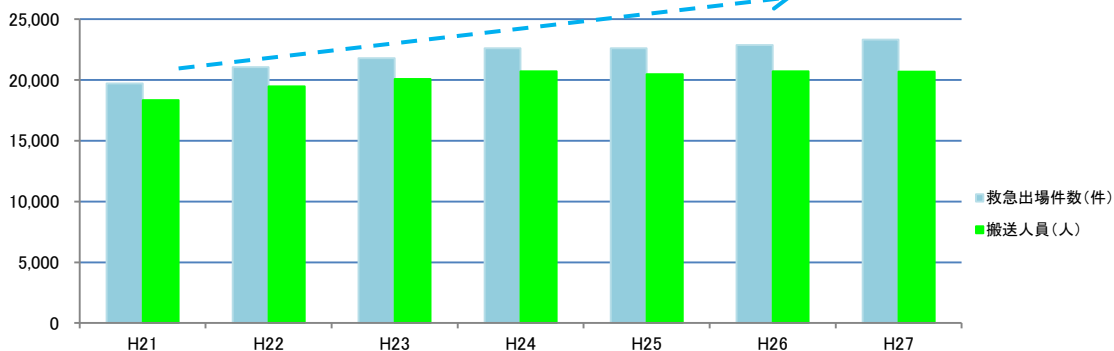
※H26の()内は、消費税率の引き上げに伴う医療機関等の課税仕入れに係るコスト増への対応分



■(資料2)重点取組事項

救急医療機能の強化

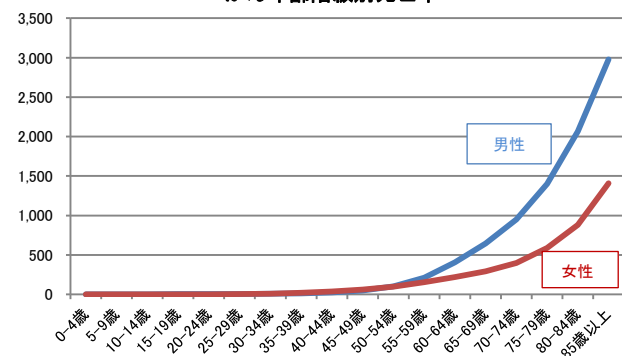
高松市救急出場件数及び搬送人員



救急救助統計(高松市消防局)

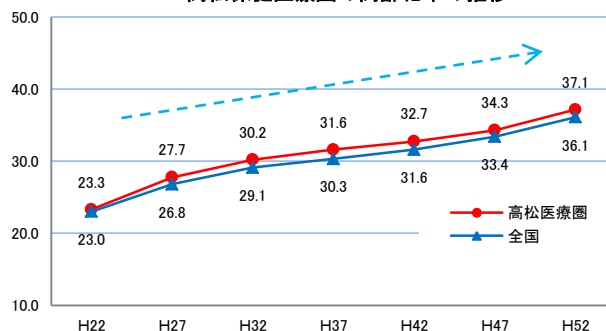
がん診療機能強化

がん年齢階級別死亡率



(資料) 独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター

高松保健医療圏の高齢化率の推移



H25 地域別将来推計人口 (国立社会保障人口問題研究所)

地域包括ケアの強化

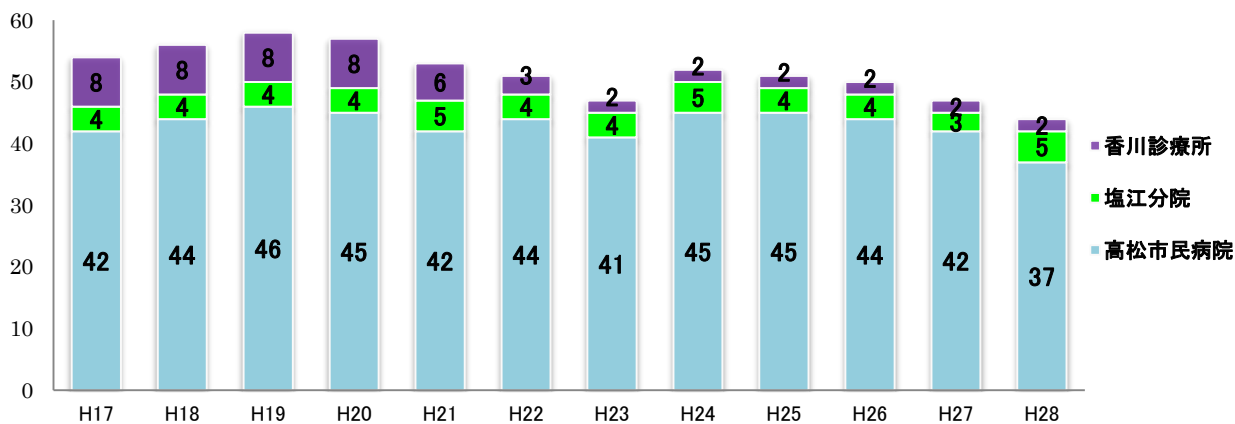


平成28年度診療報酬説明会資料(厚生労働省)

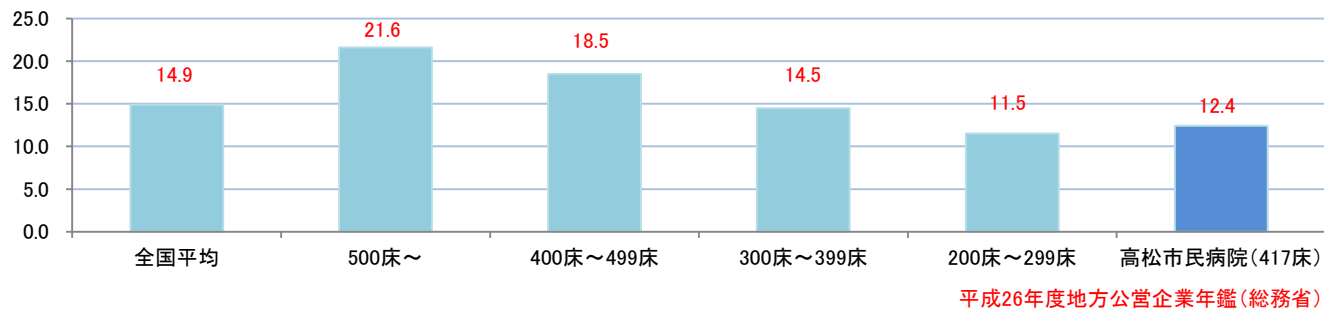


医師確保機能の強化

市立病院の常勤医師数の推移(各年4月1日現在)

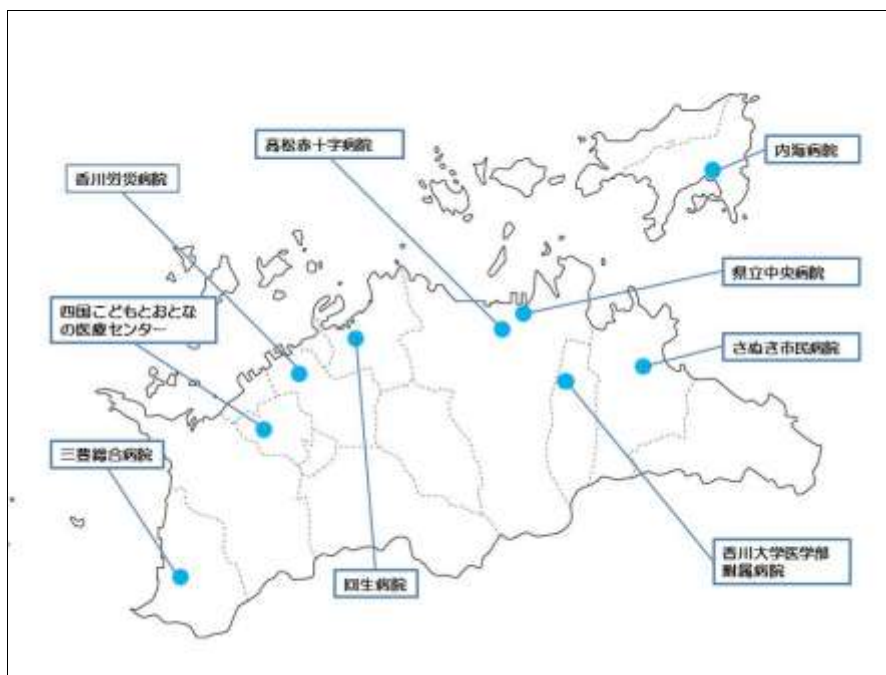


100床当たり医師数(一般病院・規模別)



災害医療機能の強化

県内DMAT指定病院・災害拠点病院

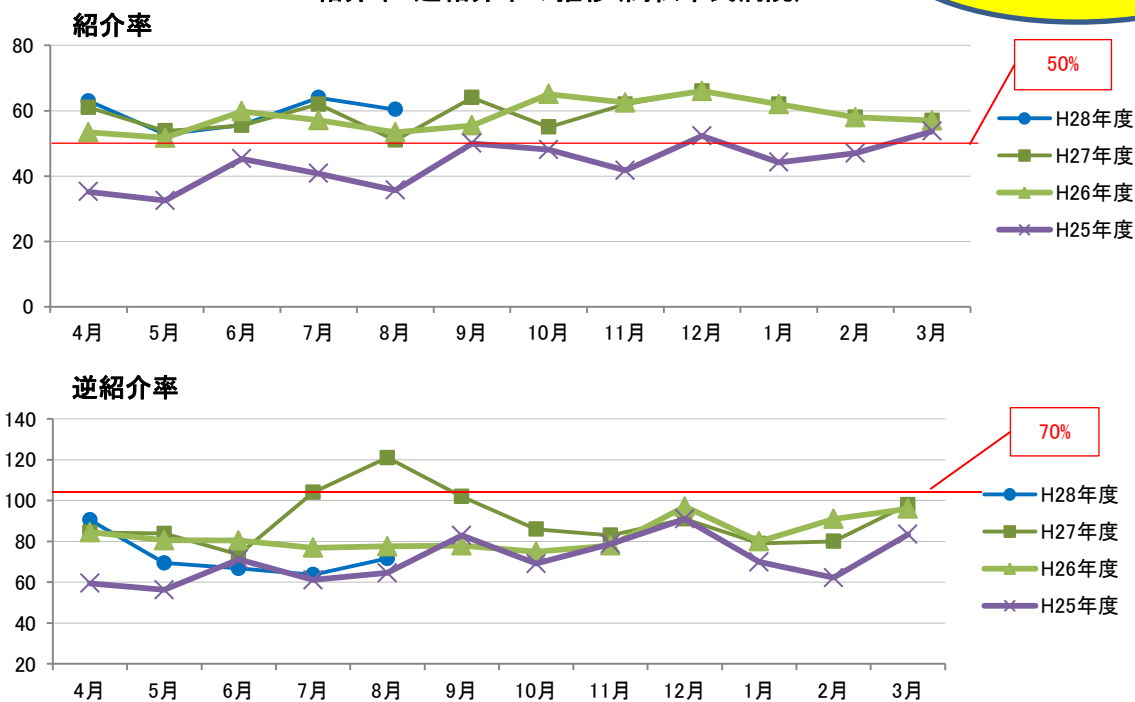




地域医療連携の強化

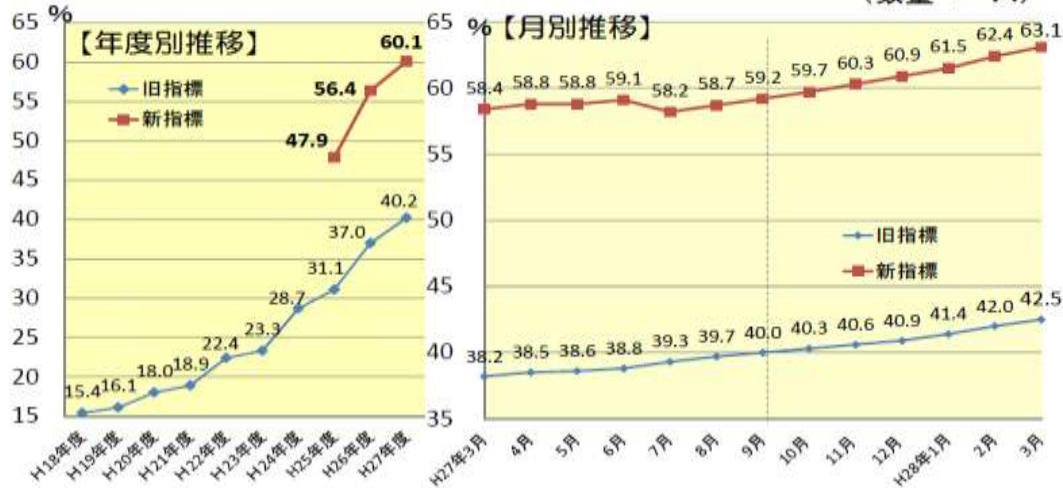
平成26年12月
地域医療支援病院承認

紹介率・逆紹介率の推移(高松市民病院)



医療の効率性の確保

「最近の調剤医療費(電算処理分)の動向」における後発医薬品割合(数量ベース)

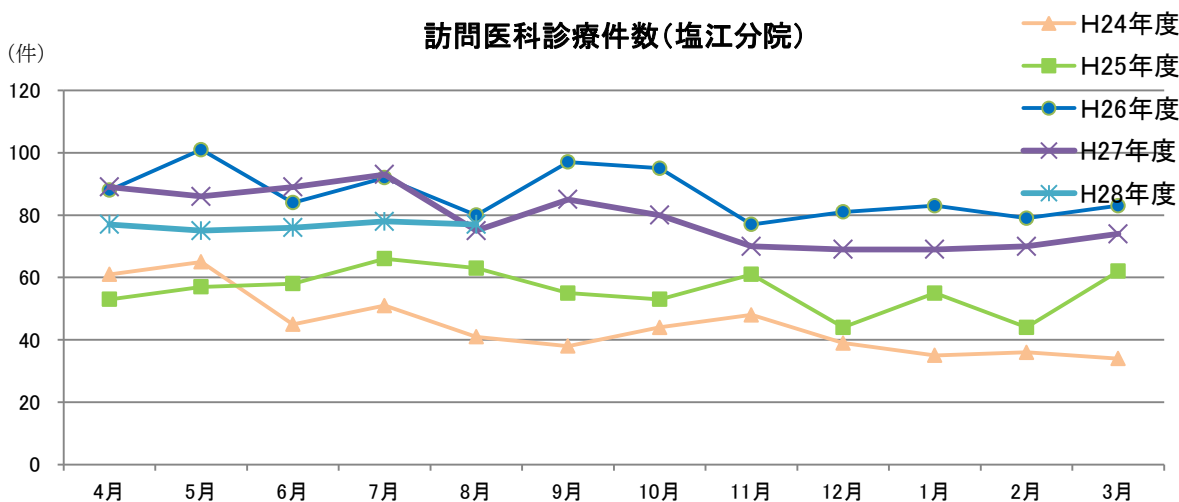
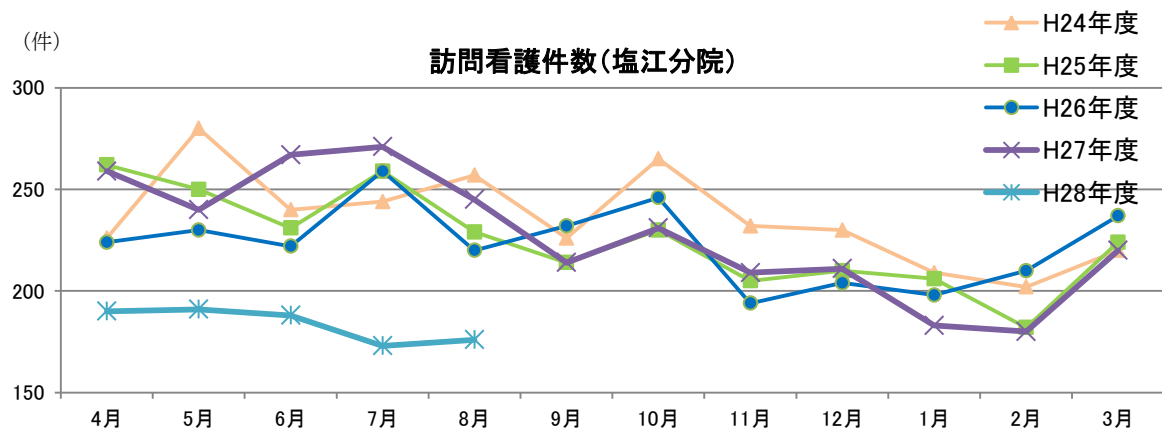


注1) 保険薬局で、レセプト電算処理システムで処理された調剤レセプトのデータをもとに分析したもの(出典:「最近の調剤医療費(電算処理分)の動向」(厚生労働省保険局調査課))。
 注2) 「数量」とは、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えた数量をいう。
 注3) 新指標とは、後発医薬品のある先発医薬品及び後発医薬品を分母とした後発医薬品の数量シェア(「後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」で定められた目標に用いた指標)。
 旧指標とは、全医療用医薬品を分母とした後発医薬品の数量シェア(平成19年に「医療・介護サービスの質向上・効率化プログラム」で定められた目標に用いた指標)。

(厚生労働省HP) 後発医薬品(ジェネリック医薬品)の促進について

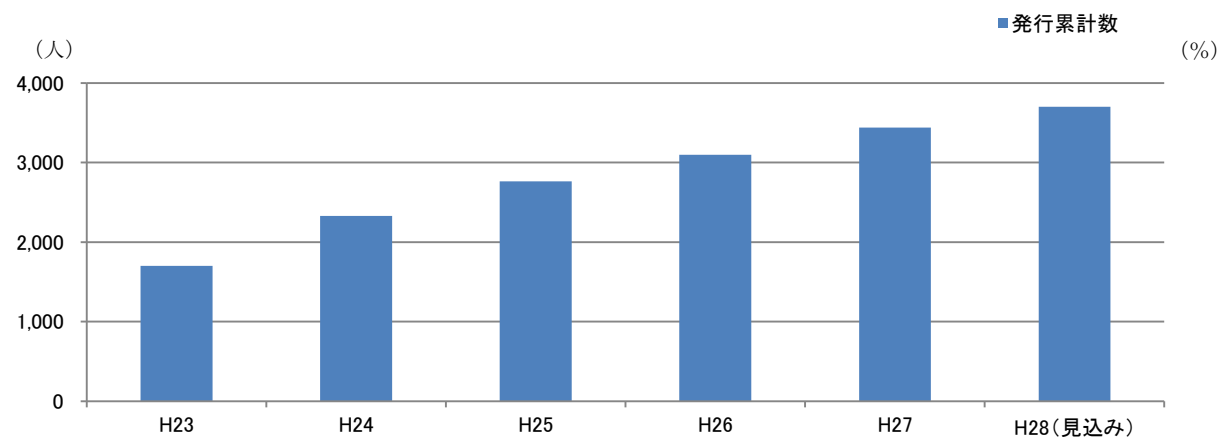


地域まるごと医療の推進



住民参加型医療の推進

私のカルテ発行累計数及び活用率(香川診療所)





■(資料3)高松市立病院を良くする会(開催状況・評価結果報告書)

○開催状況

平成23年度 第1回 [平成23年8月30日(火) 於:高松市民病院]

- (1) プレゼンテーション
 - (ア) 高松市民病院の現況 ～課題と今後について～
 - (イ) 「地域まるごと医療」の更なる実践に向けて ～塩江分院～
 - (ウ) 香川診療所の平成23年度の取り組み ～地域に信頼される医療機関となる～
- (2) 平成22年度高松市病院事業決算(見込)等について
- (3) 新病院基本計画の変更(案)について

第2回 [平成24年2月21日(火) 於:高松市民病院]

- (1) 高松市病院事業経営健全化計画(案)について

平成24年度 第1回 [平成24年10月16日(火) 於:高松市民病院]

- (1) 高松市病院事業経営健全化計画の具体的取組状況について

第2回 [平成25年2月25日(月) 於:高松市民病院]

- (1) 高松市病院事業経営健全化計画の具体的取組状況について

平成25年度 第1回 [平成25年7月11日(木) 於:高松市民病院]

- (1) 平成24年度病院事業会計決算見込みについて
- (2) 高松市病院事業経営健全化計画の具体的取組状況(平成24年度実績)について

第2回 [平成25年11月6日(火) 於:高松市民病院]

- (1) 高松市病院事業経営健全化計画(平成24年度実績)に係る総括評価について

平成26年度 第1回 [平成26年7月31日(木) 於:高松市民病院]

- (1) 平成25年度病院事業会計決算見込みについて
- (2) 高松市病院事業経営健全化計画の具体的取組状況(平成25年度実績)について

第2回 [平成26年11月6日(木) 於:高松市民病院]

- (1) 高松市病院事業経営健全化計画(平成25年度実績)に係る総括評価について

第3回 [平成27年2月5日(木) 於:高松市民病院]

- (1) 高松市病院事業経営健全化計画(案)について

平成27年度 第1回 [平成27年7月9日(木) 於:高松市民病院]

- (1) 平成26年度病院事業会計決算見込みについて
- (2) 高松市病院事業経営健全化計画の具体的取組状況(平成26年度実績)について

第2回 [平成27年11月4日(水) 於:高松市民病院]

- (1) 高松市病院事業経営健全化計画(平成26年度実績)に係る総括評価について

平成28年度 第1回 [平成28年7月5日(火) 於:高松市民病院]

- (1) 高松市病院事業経営健全化計画の具体的取組状況(平成27年度実績)について
- (2) 高松市病院事業会計決算概要について

第2回 [平成28年11月2日(水) 於:高松市民病院]

- (1) 高松市病院事業経営健全化計画(平成27年度実績)に係る総括評価について
- (2) 市立病院における医療の質の向上について
- (3) 高松市病院事業経営健全化計画の改定について





○評価結果報告書

『高松市病院事業経営健全化計画（平成24年度～26年度）』の 取組状況に係る高松市立病院を良くする会の評価結果報告書 【平成24年度の評価】

平成25年11月15日
高松市立病院を良くする会
会長 谷田 一久

1 高松市立病院を良くする会

高松市立病院を良くする会は、医療の質、透明性および効率性の向上ならびに病院事業の経営健全化を図ることにより、市民を支え、市民のための病院の実現に資することを目的として、主に「高松市病院事業経営健全化計画（以下「経営健全化計画」という。）」の策定、見直しおよび進捗状況の評価を行う外部評価組織として平成23年6月に設置され、今年で3年目を迎える。

平成24年度の経営健全化計画の取組状況について、今年度2回（7月、11月）にかけて議論し、次のとおり取りまとめたので報告する。

2 評価結果の総括

平成24年3月に策定した経営健全化計画（24年度～26年度）においては、「生きる力を応援します」を市立病院の基本理念に定め、高松市民病院は、救急医療やがん医療などの提供による「急性期病院としての医療機能の充実」を、塩江分院は、医療と福祉が一体となった「地域まるごと医療の実践」を、香川診療所は、「私のカルテ」の発行や健康教室の実施による「住民参加型医療の提供」を、基本的な考え方として病院運営に取り組むこととしている。

初年度となる24年度には、同計画に掲げる指標（数値目標）を達成するため、PDC Aサイクルマネジメントの考えに基づき、7月末、12月末、3月末時点の3回にわたり、各病院・診療所において、具体的取組状況の調査や、それに対する自己評価を行うなど、計画実現に向けた取り組みを進めた結果、平成24年度の高松市病院事業全体の経常収支が、平成17年度の近隣町との合併後、初の黒字となったことは、高く評価できる。

ただ、公立病院の果たすべき役割として重要な位置づけにある、「災害医療」および「感染症医療」について、その取り組みが必ずしも十分でないように見受けられることから、これらを喫緊の課題として捉え、市立病院が一丸となって対処し、病院機能の拡充が更に図られるよう期待する。

3 評価結果

(1) 評価基準

経営健全化計画に基づき、平成24年度に取り組んだ事項について、次の基準により評価を行った。

評価基準		評価の考え方
評価	区分	
◎	計画どおり順調である。	目標を達成した、または目標達成と同程度の具体的成果が得られた。
○	概ね順調である。	目標達成のための取組みを進め、一定の成果が得られた、または計画期間内に、目標達成と同程度の具体的成果が得られることが見込まれる。
△	やや遅れている。	目標達成のための取組みが不十分、または取組みを進めたものの、具体的成果が得られなかった。
×	かなり遅れている。	消極的または、目標達成のための取組みができていない。



(2) 病院・診療所の評価結果

① 高松市民病院

経営健全化計画に係る取組状況については、20項目のうち、『◎(計画どおり順調である)』と評価した項目は1項目、『○(概ね順調である)』と評価した項目は6項目、『△(やや遅れている)』と評価した項目は12項目、『×(かなり遅れている)』と評価した項目は1項目で、『順調である』、『概ね順調である』と評価した割合が全体で35%となった。

近年その重要性が高まっている災害医療への取り組みや、感染症医療の充実等に不十分な点が見受けられる。

また、アメニティについても、物理的に見直しが困難であるものの、アクセスの改善などに取り組む余地がある。

しかしながら、「リーディングホスピタル」として、「7対1基準看護体制」の導入による医療の質の向上や、消防局救急隊員との意見交換会開催など、救急患者の積極的な受入れ、また、「地域医療連携だより」の隔月発行や地域の医療機関への訪問、症例検討会の開催など、病診連携の推進による患者紹介率・逆紹介率の向上に取り組んでいること。さらには、給食調理業務の民間事業者への委託を開始するなど、効率的な医療の提供にも留意している。

こうした取組の結果、13年ぶりの経常収支黒字を達成したことが高く評価できることから、総合評価を『○(概ね順調である)』とした。

なお、取組項目ごとの各委員評価・意見等は別紙「総括評価表」に記載のとおりである。

評価結果の内訳

ア 評価ごとの項目数

評価区分	H24	
	項目数	構成割合
評価結果『◎』とした項目	1項目	5%
評価結果『○』とした項目	6項目	30%
評価結果『△』とした項目	12項目	60%
評価結果『×』とした項目	1項目	5%
合計	20項目	

イ 取組項目ごとの評価

具体的施策	総括評価
取組項目(大分類)	
取組項目(小分類)	
1 医療の質の確保	
1 医療技術	
1 高松市医療全体の最適化を目指した役割の強化	○
2 医師確保機能の強化	△
3 医師の安定確保に向けた条件整備	△
4 看護師、コメディカル職員等医療人材の確保機能の強化	△
5 スペシャリストの育成	○
6 医療安全	○
7 医療品質	△
8 災害医療	△
9 感染症医療	△
2 人間関係	
1 チーム医療体制の充実	△
2 患者のQOLを高めるための各職種による指導・活動の推進	○
3 患者と病院の信頼関係の構築	△
3 アメニティ	
1 患者の視点に立ったサービスの提供	△
2 各種病院サービスにおける利便性の向上	×
3 施設環境の整備	△
4 地域社会	
1 地域医療連携の強化	◎
2 医療の透明性の確保	
1 情報の積極的な発信	
1 情報の積極的な発信	○
3 医療の効率性の確保	
1 効率化	
1 効率化	○
2 管理体制	
1 管理体制	△
3 一体化	
1 一体化	△
総合評価	○



② 塩江分院

経営健全化計画に係る取組状況については、16項目のうち、『◎(計画どおり順調である)』と評価した項目は7項目、『○(概ね順調である)』と評価した項目は6項目、『×(かなり遅れている)』と評価した項目は3項目で、『順調である』『概ね順調である』と評価した割合が全体で81%となった。

限られた職員で取り組む訪問看護・訪問リハ等の成果は想定以上で、また、栄養士による料理教室の開催や経営会議への地域住民の参加など、職員全員で地域を支える「地域まるごと医療」の実践に取り組まれていると評価できるものの、遅れている災害医療の取組について、塩江町地域という山間部特有の災害の発生も懸念されることから、早急な対応を強く求めたいとの委員総意を踏まえ、総合評価は『○(概ね順調である)』とした。

なお、取組項目ごとの各委員評価・意見等は別紙「総括評価表」に記載のとおりである。

評価結果の内訳

ア 評価ごとの項目数

評価区分	H24	
	項目数	構成割合
評価結果『◎』とした項目	7項目	43%
評価結果『○』とした項目	6項目	38%
評価結果『△』とした項目	0項目	0%
評価結果『×』とした項目	3項目	19%
合計	16項目	

イ 取組項目ごとの評価

具体的施策	総括評価
取組項目(大分類)	
取組項目(小分類)	
1 医療の質の確保	
1 医療技術	
1 地域医療の推進	◎
2 医師確保機能の強化	◎
3 医師の安定確保に向けた条件整備	◎
4 スペシャリストの育成	○
5 医療安全	◎
6 医療品質	○
7 災害医療	×
2 人間関係	
1 チーム医療体制の充実	○
2 患者のQOLを高めるための各職種による指導・活動の推進	◎
3 患者と病院の信頼関係の構築	○
3 アメニティ	
1 患者の視点に立ったサービスの提供	○
2 施設環境の整備	×
4 地域社会	
1 共に支え合う体制の整備	○
2 医療の透明性の確保	
1 情報の積極的な発信	
1 情報の積極的な発信	◎
3 医療の効率性の確保	
1 効率化	
1 効率化	×
2 管理体制	
1 管理体制	
3 一体化	
1 一体化	◎
総合評価	○



③ 香川診療所

経営健全化計画に係る取組状況については、15項目のうち、『◎(計画どおり順調である)』と評価した項目は1項目、『○(概ね順調である)』と評価した項目は8項目、『△(やや遅れている)』と評価した項目は5項目、『×(かなり遅れている)』と評価した項目は1項目で、『順調である』『概ね順調である』と評価した割合が全体で60%となった。

健康教室や出前講座の充実、「私のカルテ」の推進、わんコイン健診、経営会議への地域住民の参加など、住民参加型医療の実践に取り組まれていることから、全体としての総合評価は『○(概ね順調である)』とした。

なお、取組項目ごとの各委員評価・意見等は別紙「総括評価表」に記載のとおりである。

評価結果の内訳

ア 評価ごとの項目数

評価区分	H24	
	項目数	構成割合
評価結果『◎』とした項目	1項目	7%
評価結果『○』とした項目	8項目	53%
評価結果『△』とした項目	5項目	33%
評価結果『×』とした項目	1項目	7%
合計	15項目	

イ 取組項目ごとの評価

具体的施策	総括評価
取組項目(大分類)	
取組項目(小分類)	
1 医療の質の確保	
1 医療技術	
1 地域に密着した医療の提供	○
2 医師確保機能の強化	△
3 医師の安定確保に向けた条件整備	△
4 医療安全	△
5 医療品質	△
6 災害医療	×
2 人間関係	
1 患者のQOLを高めるための各職種による指導・活動の推進	○
2 患者と診療所の信頼関係の構築	○
3 アメニティ	
1 患者の視点に立ったサービスの提供	◎
4 地域社会	
1 住民参加の医療	○
2 地域医療連携の強化	○
3 子供たちの健やかな成長への貢献	○
2 医療の透明性の確保	
1 情報の積極的な発信	
1 情報の積極的な発信	○
3 医療の効率性の確保	
1 効率化	
1 効率化	○
2 管理体制	
1 管理体制	
3 一体化	
1 一体化	△
総合評価	○



『高松市病院事業経営健全化計画（平成24年度～26年度）』の 取組状況に係る高松市立病院を良くする会の評価結果報告書 【平成25年度の評価】

平成26年12月2日
高松市立病院を良くする会
会長 谷田 一久

1 高松市立病院を良くする会

高松市立病院を良くする会は、医療の質、透明性および効率性の向上ならびに病院事業の経営健全化を図ることにより、市民を支え、市民のための病院の実現に資することを目的として、主に「高松市病院事業経営健全化計画（以下「経営健全化計画」という。）」の策定、見直しおよび進捗状況の評価を行う外部評価組織として平成23年6月に設置され、今年で4年目を迎える。

平成25年度の経営健全化計画の取組状況について、今年度2回（7月、11月）にかけて議論し、次のとおり取りまとめたので報告する。

2 評価結果の総括

平成24年3月に策定した経営健全化計画（24年度～26年度）に定める、高松市立病院の基本理念『生きる力を応援します』の実現に向けて、高松市民病院は「急性期病院としての医療機能の充実」を、塩江分院は「地域まるごと医療の実践」を、香川診療所は「住民参加型医療の提供」を、基本的な考え方として、「医療の質・透明性・効率性」の向上に取り組んでいる。

今回の評価対象となる平成25年度は、経営健全化計画の中間年度に当たることから、これまでに取り組んできた努力が実を結び、一定の成果を期待していたところ、評価項目51項目中、43項目、実に84%で「順調」又は「概ね順調」という結果になっている。これらの成果を踏まえ、病院事業全体の収支が、2年連続の黒字、しかも、市民病院、塩江分院及び香川診療所のそれぞれにおいて黒字となったことは、経営の健全化が着実に推進されているものと評価する。

しかしながら、病院運営の最重要課題の一つである高松市民病院の医師確保機能の強化については、十分な成果が上がっていないことから、新たな取組を検討するとともに、国の医療制度改革により医療機関を取り巻く環境が大きく変わる中、病院運営におけるDPC分析については、その重要性を職員が認識し、効果的な利用を図る必要がある。

また、災害発生時の地域医療は、自治体病院としての重要性を踏まえ、引き続きDMATの指定・編成の取組等を継続するように求める。

3 評価結果

(1) 評価基準

経営健全化計画に基づき、平成25年度に取り組んだ事項について、次の基準により評価を行った。

評価基準		評価の考え方
評価	区分	
◎	計画どおり順調である。	目標を達成した、または目標達成と同程度の具体的成果が得られた。
○	概ね順調である。	目標達成のための取組を進め、一定の成果が得られた、または計画期間内に、目標達成と同程度の具体的成果が得られることが見込まれる。
△	やや遅れている。	目標達成のための取組が不十分、または取組を進めたものの、具体的成果が得られなかった。
×	かなり遅れている。	消極的または、目標達成のための取組ができていない。



(2) 病院・診療所の評価結果

① 高松市民病院

経営健全化計画に係る取組状況については、20項目のうち、『◎(計画どおり順調である)』と評価した項目は4項目、『○(概ね順調である)』と評価した項目は10項目、『△(やや遅れている)』と評価した項目は6項目、『×(かなり遅れている)』と評価した項目は無しとなり、『順調である』、『概ね順調である』と評価した割合が全体で70%となった。

全体としての総合評価は『○(概ね順調である)』とした。

救急医療体制及び病診連携体制の強化への取組の成果が、それぞれ救急車受入件数及び患者紹介率・逆紹介率に数値として表れている。また、ヒヤリハット報告会を年間14回開催するなど医療安全に積極的に取り組むとともに、高松市立病院医療事故公表基準に基づく医療事故等の公表から、医療の透明性の確保にも積極的に取り組んでいることが認められる。

しかしながら、医師確保機能の強化及びDPC分析の充実については、前年度から進展が見られず、改善に取り組む必要がある。

なお、災害医療については、目標に掲げるDMATの整備が制度的な面から達成できていないものの、大規模災害時のマニュアルの策定や防災訓練が実施されていることを踏まえ、能力的にはDMATに相当するチームを既に準備していることを評価する。

取組項目ごとの各委員評価・意見等は別紙「総括評価表」に記載のとおりである。

評価結果の内訳

ア 評価ごとの項目数

評価区分	H25	
	項目数	構成割合
評価結果『◎』とした項目	4項目	20%
評価結果『○』とした項目	10項目	50%
評価結果『△』とした項目	6項目	30%
評価結果『×』とした項目	0項目	—
合計	20項目	

イ 取組項目ごとの評価

具体的施策	総括評価
取組項目(大分類)	
取組項目(小分類)	
1 医療の質の確保	
1 医療技術	
1 高松市医療全体の最適化を目指した役割の強化	○
2 医師確保機能の強化	△
3 医師の安定確保に向けた条件整備	○
4 看護師、コメディカル職員等医療人材の確保機能の強化	○
5 スペシャリストの育成	○
6 医療安全	◎
7 医療品質	○
8 災害医療	◎
9 感染症医療	○
2 人間関係	
1 チーム医療体制の充実	△
2 患者のQOLを高めるための各職種による指導・活動の推進	◎
3 患者と病院の信頼関係の構築	○
3 アメニティ	
1 患者の視点に立ったサービスの提供	△
2 各種病院サービスにおける利便性の向上	○
3 施設環境の整備	△
4 地域社会	
1 地域医療連携の強化	◎
2 医療の透明性の確保	
1 情報の積極的な発信	
1 情報の積極的な発信	○
3 医療の効率性の確保	
1 効率化	
1 効率化	○
2 管理体制	
1 管理体制	△
3 一体化	
1 一体化	△
総合評価	○



② 塩江分院

経営健全化計画に係る取組状況については、16項目のうち、『◎(計画どおり順調である)』と評価した項目は9項目、『○(概ね順調である)』と評価した項目は7項目、『△(やや遅れている)』と評価した項目及び『×(かなり遅れている)』と評価した項目は無しとなり、『順調である』、『概ね順調である』と評価した割合が全体で100%となった。

全体としての総合評価は『◎(計画どおり順調である)』とした。

地域医療スピリッツの開催及び香川大学医学部の寄附講座(地域包括医療学講座)の活用等により、香川大学との連携を推進しながら、塩江分院の特徴である訪問診療、訪問看護等の実績を着実に積み上げていることを評価する。

分院の基本方針の一つである、「地域まると医療」の実践に順調に取り組んでいるが、高齢者が多く、山間部に位置する地域性を考慮し、災害医療へのさらなる取組強化を期待したい。

取組項目ごとの各委員評価・意見等は別紙「総括評価表」に記載のとおりである。

評価結果の内訳

ア 評価ごとの項目数

評価区分	H25	
	項目数	構成割合
評価結果『◎』とした項目	9項目	56%
評価結果『○』とした項目	7項目	44%
評価結果『△』とした項目	0項目	—
評価結果『×』とした項目	0項目	—
合計	16項目	

イ 取組項目ごとの評価

具体的施策	総括評価
取組項目(大分類)	
取組項目(小分類)	
1 医療の質の確保	
1 医療技術	
1 地域医療の推進	◎
2 医師確保機能の強化	◎
3 医師の安定確保に向けた条件整備	◎
4 スペシャリストの育成	○
5 医療安全	◎
6 医療品質	○
7 災害医療	○
2 人間関係	
1 チーム医療体制の充実	◎
2 患者のQOLを高めるための各職種による指導・活動の推進	◎
3 患者と病院の信頼関係の構築	○
3 アメニティ	
1 患者の視点に立ったサービスの提供	◎
2 施設環境の整備	○
4 地域社会	
1 共に支え合う体制の整備	○
2 医療の透明性の確保	
1 情報の積極的な発信	
1 情報の積極的な発信	◎
3 医療の効率性の確保	
1 効率化	
1 効率化	○
2 管理体制	
1 管理体制	
3 一体化	
1 一体化	◎
総合評価	◎



③ 香川診療所

経営健全化計画に係る取組状況については、15項目のうち、『◎(計画どおり順調である)』と評価した項目は6項目、『○(概ね順調である)』と評価した項目は7項目、『△(やや遅れている)』と評価した項目は2項目、『×(かなり遅れている)』と評価した項目は無しとなり、『順調である』、『概ね順調である』と評価した割合が全体で87%となった。

全体としての総合評価は『◎(計画どおり順調である)』とした。

全国的にも注目されるプロジェクトの「私のカルテ」のさらなる推進と進化に期待したい。また、計画目標を上回る年間16回にものぼる健康教室・出張講座の実施に、住民の中に入っていく積極的な姿勢が見受けられ、「住民参加型の医療の提供」への取組を着実に実践していることを評価する。

ただし、災害医療及び患者の視点に立ったサービスの提供に積極的な取り組みを要する。

取組項目ごとの各委員評価・意見等は別紙「総括評価表」に記載のとおりである。

評価結果の内訳

ア 評価ごとの項目数

評価区分	H25	
	項目数	構成割合
評価結果『◎』とした項目	6項目	40%
評価結果『○』とした項目	7項目	47%
評価結果『△』とした項目	2項目	13%
評価結果『×』とした項目	0項目	—
合計	15項目	

イ 取組項目ごとの評価

具体的施策	総括評価
取組項目(大分類)	
取組項目(小分類)	
1 医療の質の確保	
1 医療技術	
1 地域に密着した医療の提供	◎
2 医師確保機能の強化	○
3 医師の安定確保に向けた条件整備	○
4 医療安全	○
5 医療品質	○
6 災害医療	△
2 人間関係	
1 患者のQOLを高めるための各職種による指導・活動の推進	○
2 患者と診療所の信頼関係の構築	◎
3 アメニティ	
1 患者の視点に立ったサービスの提供	△
4 地域社会	
1 住民参加の医療	◎
2 地域医療連携の強化	◎
3 子供たちの健やかな成長への貢献	◎
2 医療の透明性の確保	
1 情報の積極的な発信	
1 情報の積極的な発信	◎
3 医療の効率性の確保	
1 効率化	
1 効率化	○
2 管理体制	
1 管理体制	
3 一体化	
1 一体化	○
総合評価	◎



『高松市病院事業経営健全化計画（平成24年度～26年度）』の 取組状況に係る高松市立病院を良くする会の評価結果報告書

【平成 26 年度の評価】

平成 27 年 11 月 4 日

高松市立病院を良くする会

会長 谷田 一久

1 高松市立病院を良くする会

高松市立病院を良くする会は、医療の質、透明性及び効率性の向上並びに病院事業の経営健全化を図ることにより、市民を支え、市民のための病院の実現に資することを目的として、主に「高松市病院事業経営健全化計画（以下「経営健全化計画」という。）」の策定、見直し及び進捗状況の評価を行う外部評価組織として平成 23 年6月に設置され、今年で3期5年目を迎える。

平成 26 年度の経営健全化計画の取組状況について、今年度2回(7月、11月)にかけて議論し、次のとおり取りまとめたので報告する。

2 評価結果の総括

平成 24 年3月に策定した経営健全化計画(24年度～26年度)に定める、高松市立病院の基本理念『生きる力を応援します』の実現に向けて、高松市民病院は「急性期病院としての医療機能の充実」を、塩江分院は「地域まると医療の実践」を、香川診療所は「住民参加型医療の提供」を、基本的な考え方として、「医療の質・透明性・効率性」の向上に取り組んでいる。

今回の評価対象となる平成 26 年度は、経営健全化計画の最終年度であり、評価項目 52 項目中、50 項目、実に 96%で「順調」又は「概ね順調」という結果になっており、これまでに取り組んできた努力が実を結び、一定の成果があったものの、企業会計基準の見直しに伴う退職給付引当金の一括計上等が影響したため、26年度の病院事業の純損益は大きく赤字となった。また、退職給付引当金を除く経常収支においては、市民病院が、全国的な患者数の減少傾向や周辺医療機関の施設整備等の影響により入院患者数が減少し、昨年度の黒字から赤字になったものの、塩江分院と香川診療所は、昨年度に引き続き黒字となったことは、一定の評価をしたい。

しかしながら、病院運営の最重要課題の一つである高松市民病院の医師確保機能の強化については、努力は認められるものの、十分な成果が上がっておらず、新病院の開院に向け、これまでの取り組みの強化とともに、市と一体となった新たな施策を検討する必要がある。

また、災害発生時の地域医療は、自治体病院として担うべき役割を踏まえ、引き続きDMATの指定・編成に向けた取り組み等を継続するように求める。

今後とも、市民を支え、市民のための病院の実現に向けて、一層の努力を期待したい。

3 評価結果

(1) 評価基準

経営健全化計画に基づき、平成 26 年度に取り組んだ事項について、次の基準により評価を行った。

評価基準		評価の考え方
評価	区分	
◎	計画どおり順調である。	目標を達成した、または目標達成と同程度の具体的成果が得られた。
○	概ね順調である。	目標達成のための取組みを進め、年度末(一定期間経過後)に、目標達成と同程度の具体的成果が得られることが見込まれる。
△	やや遅れている。	目標達成のための取組みが不十分または、取組みを進めるものの、年度末(一定期間経過後)に、成果が得られる見込みが少ない。
×	かなり遅れている。	消極的または、目標達成のための取組みができていない。



(2) 病院・診療所の評価結果

① 高松市民病院

経営健全化計画に係る取組状況については、20項目のうち、『◎(計画どおり順調である)』と評価した項目は2項目、『○(概ね順調である)』と評価した項目は15項目、『△(やや遅れている)』と評価した項目は3項目、『×(かなり遅れている)』と評価した項目は無しとなり、『順調である』、『概ね順調である』と評価した割合が全体で85%となった。

全体としての総合評価は『○(概ね順調である)』とした。

患者への信頼を高めるために、各職種による指導や相談事業が行われており、特に、「私のカルテ」の事業は素晴らしく、患者との信頼関係を構築しており、一層の推進が求められる。また、地域医療連携においては、地域の医療機関との連携強化により、紹介率・逆紹介率が向上し、地域医療支援病院の承認を得たことは大きく評価したい。

しかしながら、医師確保機能の強化については、努力が認められるものの、前年度から進展が見られず、新病院の開院に向け、これまでの取り組みの強化とともに、市と一体となった新たな施策を検討する必要がある。また、看護師の人材確保のため、中堅・ベテランの職員の離職を防止する対策が求められるほか、院内誘導表示の改修については、院内全体を表示したパンフレット等を作成するなど、新たな取り組みを実行されたい。

取組項目ごとの各委員評価・意見等は別紙「総括評価表」に記載のとおりである。

評価結果の内訳

ア 評価ごとの項目数

評価区分	H26	
	項目数	構成割合
評価結果『◎』とした項目	2項目	10%
評価結果『○』とした項目	17項目	75%
評価結果『△』とした項目	1項目	15%
評価結果『×』とした項目	0項目	—
合計	20項目	

イ 取組項目ごとの評価

具体的施策	取組項目(大分類)	取組項目(小分類)	総括評価
1 医療の質の確保	1 医療技術	1 高松市医療全体の最適化を目指した役割の強化	○
		2 医師確保機能の強化	○
		3 医師の安定確保に向けた条件整備	○
		4 看護師、コメディカル職員等医療人材の確保機能の強化	○
		5 スペシャリストの育成	○
		6 医療安全	○
		7 医療品質	○
		8 災害医療	○
		9 感染症医療	○
	2 人間関係	1 チーム医療体制の充実	○
		2 患者のQOLを高めるための各職種による指導・活動の推進	◎
		3 患者と病院の信頼関係の構築	○
	3 アメニティ	1 患者の視点に立ったサービスの提供	○
		2 各種病院サービスにおける利便性の向上	○
		3 施設環境の整備	△
	4 地域社会	1 地域医療連携の強化	◎
2 医療の透明性の確保	1 情報の積極的な発信	1 情報の積極的な発信	○
3 医療の効率性の確保	1 効率化	1 効率化	○
	2 管理体制	1 管理体制	○
	3 一体化	1 一体化	○
総合評価			○



② 塩江分院

経営健全化計画に係る取組状況については、17項目のうち、『◎(計画どおり順調である)』と評価した項目は10項目、『○(概ね順調である)』と評価した項目は7項目、『△(やや遅れている)』と評価した項目及び『×(かなり遅れている)』と評価した項目は無しとなり、『順調である』、『概ね順調である』と評価した割合が全体で100%となった。

全体としての総合評価は『◎(計画どおり順調である)』とした。

塩江地域唯一の医療機関としての責任を果たすため、医師、看護師が24時間・365日体制で患者の在宅療養を支援する「在宅療養支援病院」として、多職種による訪問診療、訪問看護等を通じて、「地域まるごと医療」を実践していることを評価する。

医療の質と効率性をより一層向上させるため、さらなる取り組み強化を期待したい。

取組項目ごとの各委員評価・意見等は別紙「総括評価表」に記載のとおりである。

評価結果の内訳

ア 評価ごとの項目数

評価区分	H26	
	項目数	構成割合
評価結果『◎』とした項目	10項目	59%
評価結果『○』とした項目	7項目	41%
評価結果『△』とした項目	0項目	—
評価結果『×』とした項目	0項目	—
合計	17項目	

イ 取組項目ごとの評価

具体的施策	総括評価
取組項目(大分類)	
取組項目(小分類)	
1 医療の質の確保	
1 医療技術	
1 地域医療の推進	◎
2 医師確保機能の強化	◎
3 医師の安定確保に向けた条件整備	◎
4 スペシャリストの育成	○
5 医療安全	○
6 医療品質	◎
7 災害医療	○
2 人間関係	
1 チーム医療体制の充実	◎
2 患者のQOLを高めるための各職種による指導・活動の推進	◎
3 患者と病院の信頼関係の構築	◎
3 アメニティ	
1 患者の視点に立ったサービスの提供	◎
2 施設環境の整備	○
4 地域社会	
1 共に支え合う体制の整備	○
2 医療の透明性の確保	
1 情報の積極的な発信	
1 情報の積極的な発信	◎
3 医療の効率性の確保	
1 効率化	
1 効率化	○
2 管理体制	
1 管理体制	○
3 一体化	
1 一体化	◎
総合評価	◎



③ 香川診療所

経営健全化計画に係る取組状況については、15項目のうち、『◎(計画どおり順調である)』と評価した項目は9項目、『○(概ね順調である)』と評価した項目は5項目、『△(やや遅れている)』と評価した項目は1項目、『×(かなり遅れている)』と評価した項目は無しとなり、『順調である』、『概ね順調である』と評価した割合が全体で93%となった。

全体としての総合評価は『◎(計画どおり順調である)』とした。

これまでの診療に加え、地域包括ケアを見据えた健康教室や出張講座の実施、患者との診療情報の共有を図る「わたしのかるて」の積極的な発行、わんコイン健診の推進、経営会議への地域住民の参加等、住民参加型医療の実践に取り組んでいることを評価する。

ただし、災害医療等において、さらなる改善を期待する。

取組項目ごとの各委員評価・意見等は別紙「総括評価表」に記載のとおりである。

評価結果の内訳

ア 評価ごとの項目数

評価区分	H26	
	項目数	構成割合
評価結果『◎』とした項目	9項目	60%
評価結果『○』とした項目	5項目	33%
評価結果『△』とした項目	1項目	7%
評価結果『×』とした項目	0項目	—
合計	15項目	

イ 取組項目ごとの評価

具体的施策	総括評価
取組項目(大分類)	
取組項目(小分類)	
1 医療の質の確保	
1 医療技術	
1 地域に密着した医療の提供	◎
2 医師確保機能の強化	○
3 医師の安定確保に向けた条件整備	○
4 医療安全	○
5 医療品質	○
6 災害医療	△
2 人間関係	
1 患者のQOLを高めるための各職種による指導・活動の推進	◎
2 患者と診療所の信頼関係の構築	◎
3 アメニティ	
1 患者の視点に立ったサービスの提供	◎
4 地域社会	
1 住民参加の医療	◎
2 地域医療連携の強化	◎
3 子供たちの健やかな成長への貢献	◎
2 医療の透明性の確保	
1 情報の積極的な発信	
1 情報の積極的な発信	◎
3 医療の効率性の確保	
1 効率化	
1 効率化	◎
2 管理体制	
1 管理体制	
3 一体化	
1 一体化	○
総合評価	◎

■(資料4)高松市立病の医療の確保と経営の健全化をすすめる会(開催状況)

○開催状況

平成23年度 第1回 [平成23年7月25(月) 於:高松市役所]

- (1) 高松市病院事業の経営方針について
- (2) プレゼンテーション
 - (ア) 高松市民病院の現況 ～課題と今後について～
 - (イ) 「地域まるごと医療」の更なる実践に向けて ～塩江分院～
 - (ウ) 香川診療所の平成23年度の取り組み ～地域に信頼される医療機関となる～

第2回 [平成24年2月16日(木) 於:マリンパレスさぬぎ]

- (1) 高松市病院事業経営健全化計画(案)について

平成24年度 第1回 [平成24年10月2日(火) 於:高松市役所]

- (1) 高松市立病院の現況と経営健全化計画の具体的取組状況について

第2回 [平成25年2月18日(月) 於:高松市民病院]

- (1) 高松市立病院の平成24年度における取組状況等について

平成25年度 第1回 [平成25年11月29日(金) 於:高松市役所]

- (1) 高松市病院事業経営健全化計画に係る外部評価結果について
- (2) 地方公営企業会計制度の見直しについて
- (3) 高松医療圏における市民病院の位置づけについて
- (4) 高松市立病院の平成25年度における取組状況について

平成26年度 第1回 [平成26年8月5日(火) 於:高松市役所]

- (1) 平成25年度病院事業会計決算等について
- (2) 高松市病院事業経営健全化計画の具体的取組状況(平成25年度実績)について

平成27年度 第1回 [平成27年8月10日(月) 於:高松市役所]

- (1) 平成26年度病院事業会計決算見込について
- (2) 高松市病院事業経営健全化計画の具体的取組状況(平成26年度実績)について





■(資料5)収支計画算定基礎数値

1 市民病院

患者数等

		平成26年度 (実績)	平成27年度 (実績)	平成28年度	平成29年度
入院	患者数(人)	70,499 (69,801)	86,376 (57,918)	89,060 53,603	89,790 69,715
	収益(千円:税込)	3,237,867 (3,258,880)	3,950,356 (2,811,437)	4,156,536 2,823,999	4,311,841 3,807,322
	患者一人当たり 診療収益(円:税込)	45,928 (46,688)	45,734 (48,542)	46,671 52,684	48,021 54,613
	診療日数(日)	365	366	365	365
	病床数(床)	387	387	387	387
	(うち一般病床数)	311	311	311	311
	一般病床利用率(%)	59.3 (59.0)	73.3 (48.6)	75.9 44.6	76.5 58.2
外来	患者数(人)	88,450 (88,695)	92,340 (76,532)	91,854 69,124	91,256 81,496
	収益(千円:税込)	1,185,848 (1,204,013)	1,245,795 (1,124,642)	1,242,022 1,023,762	1,246,895 1,287,647
	患者一人当たり 診療収益(円:税込)	13,407 (13,575)	13,491 (14,695)	13,522 14,811	13,664 15,800
	診療日数(日)	244	243	243	244

※人間ドック30床は病床数に含んでいない。

職員数

(単位:人)

	平成26年度 (実績)	平成27年度 (実績)	平成28年度	平成29年度
病院事業管理者	1	1	1	1
医師	42 (42)	45 (40)	48 43	52 43
看護師	243 (245)	248 (238)	251 240	252 237
医療技術職	68 (63)	70 (62)	70 72	70
事務職等	43 (42)	41 (40)	41 36	41 36
計	397 (393)	405 (381)	411 392	416 387



2 塩江分院 患者数等

		平成26年度 (実績)	平成27年度 (実績)	平成28年度	平成29年度
入院	患者数(人)	23,531 (23,130)	24,156 (22,074)	24,700	24,700
	収益(千円:税込)	343,993 (347,717)	370,501 (335,984)	388,230	391,712
	患者一人当たり 診療収益(円:税込)	14,619 (15,033)	15,338 (15,221)	15,718	15,859
	診療日数(日)	365	366	365	365
	病床数(床)	87	87	87	87
	(うち介護病床数)	20	20	20	20
	病床利用率(%)	74.1 (72.8)	75.9 (69.3)	77.8	77.8
外来	患者数(人)	26,401 (26,542)	26,730 (25,867)	26,200	25,700
	収益(千円:税込)	264,317 (269,940)	269,487 (249,894)	264,820	262,032
	患者一人当たり 診療収益(円:税込)	10,012 (10,170)	10,082 (9,661)	10,108	10,196
	診療日数(日)	244	243	243	244
訪問看護	利用者数(人)	2,700 (2,696)	2,780 (2,730)	2,800	2,820
	収益(千円:税込)	19,872 (20,550)	21,537 (20,480)	20,752	21,038
	利用者1人1日当たり 収益(円:税込)	7,360 (7,622)	7,747 (7,502)	7,411	7,460

職員数

(単位:人)

	平成26年度 (実績)	平成27年度 (実績)	平成28年度	平成29年度
医師	3 (3)	3 (3)	3	3
看護師	30 (31)	29 (30)	29	29
医療技術職	6 (5)	6 (5)	6	6
事務職等	8 (8)	8 (8)	8	8
計	47 (47)	46 (46)	46	46



3 香川診療所 患者数等

		平成26年度 (実績)	平成27年度 (実績)	平成28年度	平成29年度
外来	患者数(人)	33,071 (33,210)	34,398 (33,176)	34,300	34,398
	収益(千円:税込)	209,813 (210,501)	220,078 (208,677)	219,451	222,039
	患者一人当たり 診療収益(円:税込)	6,344 (6,338)	6,398 (6,290)	6,398	6,455
	診療日数(日)	293	294	292	293

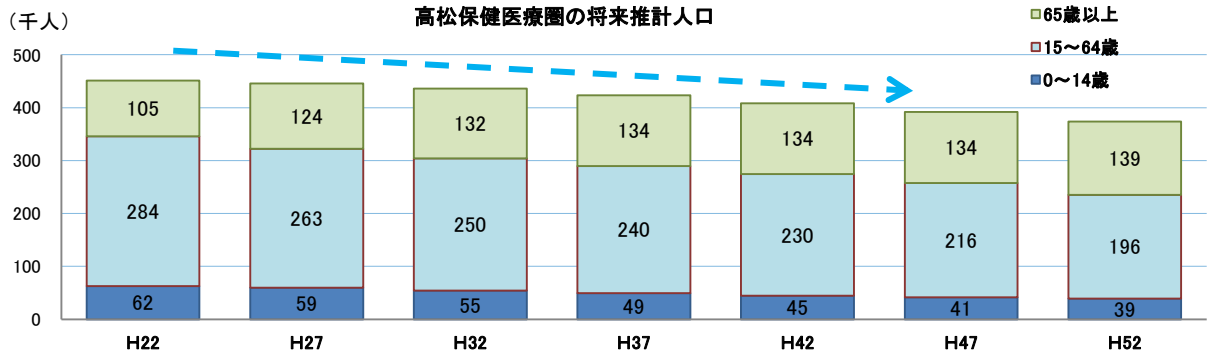
職員数

(単位:人)

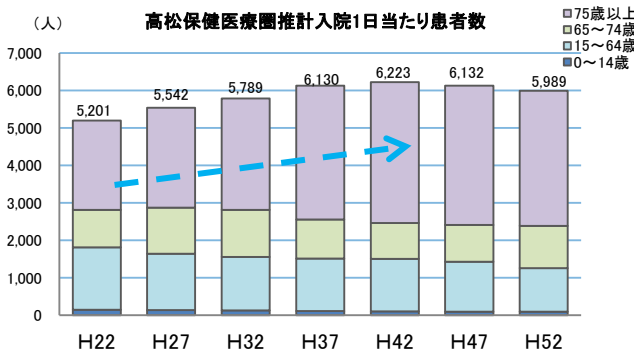
	平成26年度 (実績)	平成27年度 (実績)	平成28年度	平成29年度
医師	2 (2)	2 (2)	2	2
看護師	5 (5)	5 (5)	5	5
医療技術職	2 (2)	2 (2)	2	2
事務職等	2 (2)	2 (2)	2	2
計	11 (11)	11 (11)	11	11



■(資料6)参考データ

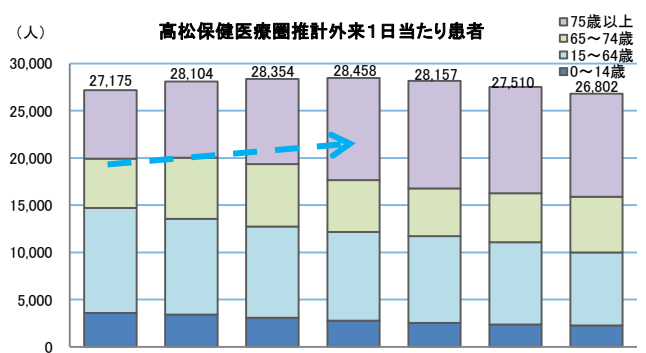


H25 地域別将来推計人口 (国立社会保障・人口問題研究所)



H25 地域別将来推計人口 (国立社会保障・人口問題研究所)

H26 患者調査 (厚生労働省)



H25 地域別将来推計人口 (国立社会保障・人口問題研究所)

H26 患者調査 (厚生労働省)

市立病院エリア図及び高松市民病院エリア別患者数

